

きょうとふしょうがいしゃ しょうがいじそうごうけいかく
京都府障害者・障害児総合計画

だい ききょうとふしょうがいしゃきほんけいかく
(第5期京都府障害者基本計画)

だい ききょうとふしょうがいふくしけいかく だい ききょうとふしょうがいふくしけいかく
・第7期京都府障害福祉計画・第3期京都府障害児福祉計画)

ちゅうかんあん
(中間案)

れいわ ねん がつ
令和6年 月

きょう と ふ
京 都 府

すうち しゅうけい せいさちゅう
※数値は集計・精査中です。

目次

第1章 計画の基本的な考え方

1	計画の概要	1
(1)	計画策定の背景及び趣旨	1
(2)	基本理念	3
(3)	施策を進めるにあたっての横断的視点	3
(4)	計画の性格及び位置付け	4
(5)	計画の対象期間	5
(6)	計画の対象となる障害者の範囲	5
(7)	分野別の施策体系	5
(8)	成果目標の設定	5
(9)	計画の推進	5
2	障害保健福祉圏域の設定	6
3	障害者手帳取得者数の推移	7

第2章 各分野別施策の基本方向

I	障害のある人もない人も地域の担い手となり、地域で安心して暮らせる社会	
1	差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止	8
2	安全・安心な生活環境の整備	10
3	情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援及び読書バリアフリーの充実	13
4	防災、防犯等の推進	16
5	保健・医療の推進	18

6	じりつ せいかつ しえん い しけつていしえん じゅうじつ 自立した生活の支援・意思決定支援の充実	21
---	--	----

II 希望に添って働き続けることができる社会

7	こよう しゅうぎょう けいざいてきじりつ しえん 雇用・就業、経済的自立の支援	31
---	--	----

III 生涯を通じて学び続けられるとともに、文化芸術やスポーツなどの分野で一人ひとりの

特性を活かして活躍できる社会

8	しょうがい つう まな つづ かんきょう せいび 生涯を通じて学び続けられる環境の整備	34
---	--	----

9	ぶんかげいじゆつ すぽーつなど つう かつどう きかい そうしゆつ 文化芸術やスポーツ等を通じた活動や機会の創出	36
---	---	----

第3章 サービス見込量及び計画的な基盤整備

1	さーび すみこみりょう サービス見込量	38
---	------------------------	----

2	けんいきしょうがいしゃじりつしえんきょうぎかい かだいせいりとう 圏域障害者自立支援協議会での課題整理等	53
---	---	----

3	けんいき かだいとう う せさく ほうこうせい 圏域の課題等を受けての施策の方向性	61
---	--	----

第4章 各年度の障害者支援施設及び障害児入所施設の必要入所定員総数

第5章 地域生活支援事業の実施

1	せんもんせい たか そうだんしえんじぎょう 専門性の高い相談支援事業	63
---	---------------------------------------	----

2	い しそつうしえん おこな もの ようせい はけんとうじぎょう 意思疎通支援を行う者の養成・派遣等事業	63
---	--	----

3	こういきでき しえんじぎょう 広域的な支援事業	63
---	----------------------------	----

4	さーびす そうだんしえんしゃ しどうしゃいくせい じぎょう サービス・相談支援者・指導者育成事業	64
---	---	----

5	にんいじぎょう ちいきせいかつしえんそくしんじぎょうとう 任意事業・地域生活支援促進事業等	64
---	--	----

第6章 障害福祉サービス等の人材確保及びサービスの質の向上の取組

1	じんざい ようせい かくほ 人材の養成・確保	65
---	---------------------------	----

2 サービスの質の向上等 66

だい しょう けいかく たっせいじょうきょう てんけんおよ ひょうか
第7章 計画の達成状況の点検及び評価 66

だい しょう けいかく せいかもくひょう せってい
第8章 計画の成果目標の設定

1 ふくししせつにゆうしょしゃ ちいきせいかつ いこう
福祉施設入所者の地域生活への移行 67

2 せいしんしょうがい たいおう ちいきほうかけあしすてむ こうちく
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 67

3 ちいきせいかつしえん じゅうじつ
地域生活支援の充実 67

4 ふくししせつ いっぱんしゅうろう いこう
福祉施設から一般就労への移行 68

5 しょうがいじしえんていきょうたいせい せいびとう
障害児支援提供体制の整備等 68

6 きょうとふ とりくみ
京都府の取組について 69

べつびょう きょうとふしょうがいしゃきほんけいかくかんれんせいかもくひょう
(別表) 京都府障害者基本計画関連成果目標

さんこうしりょう
参考資料

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画の概要

(1) 計画策定の背景及び趣旨

京都府では、「障害者基本法」に基づく第4期京都府障害者基本計画（令和2年度～令和5年度）を策定するとともに、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」に基づく第6期京都府障害福祉計画、児童福祉法に基づく第2期京都府障害児福祉計画を策定し、障害者施策の総合的な推進を図り、教育、福祉、保健・医療、生活環境、雇用・就労など、様々な分野にわたり、着実に取組を進めてきたところです。

この間、国では、平成28年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行され、障害者に対する社会的障壁の除去や合理的配慮の提供の考え方が明記されたほか、障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）が一部改正され、さらには、平成30年に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行されるなど、平成26年1月に批准された「障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）」の実効性を確保するため、障害のある人に関わる制度に大きな動きが見られたところです。

京都府においても、平成26年3月に制定した「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」に加え、「言語としての手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人とない人とが支え合う社会づくり条例」を平成30年3月に制定し、障害のあるなしにかかわらず、府民誰もが相互に人格と個性を尊重し合い支え合

きょうせいしゃかい じつげん む しく すす
う 共生社会の実現に向けた仕組みづくりを進めてきました。

こうした中、第4期京都府障害者基本計画及び第6期京都府障害福祉計画、第2期
京都府障害児福祉計画における現状と課題、国の第5次障害者基本計画、障害福祉
サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針に加え、令和
5年3月に策定した「京都府総合計画」なども踏まえ、新たに障害者基本計画、障害福祉
計画、障害児福祉計画を一体的なものとして「京都府障害者・障害児総合計画」を策定し、
障害のある人の自立と社会参加の支援等のための施策の総合的・計画的な推進を図ってい
くこととしています。

社会的障壁（障害者差別解消法第2条）

しょうがい しょうがいしゃさべつかいしょうほうだい じょう
しょうがい もの にちじょうせいかつまた しゃかいせいかつ いとな うえ しょうへき しゃかい
障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会に
おける事物、制度、慣行、観念その他一切のもの。

合理的配慮（障害者差別解消法第5条）

しょうがいしゃ ほか もの びょうどう きそ すべ じんけんおよ きほんてきじゆう きょうゆう また
しょうがいしゃ ほか もの びょうどう きそ すべ じんけんおよ きほんてきじゆう きょうゆう また
障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は
行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合に
おいて必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものを
いう。

(しょうがいしゃせきく かん おも ほうりつとう せいびじょうきょう)
【障害者施策に関する主な法律等の整備状況】

ねん 年 げつ 月	ほうりつめい がいよう 法律名・概要
<p>へいせい ねん 平成26年</p> <p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p>	<p>しょうがいしゃ けんり かん じょうやく ひじゅん 「障害者の権利に関する条約」の批准</p> <p>しょうがいしゃ じんけん きほんてきじゆう きょうゆう かくほ しょうがいしゃ こゆう そんげん そんちよう ・障害者の人権・基本的自由の享有の確保、障害者の固有の尊厳の尊重の そくしん しょうがいしゃ けんり じつげん のための措置など</p> <p>きょうとふしょうがい ひと ひと とも あんしん 「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしや すい社会づくり条例」の制定</p> <p>しょうがい う む きょうせいしゃかい じつげん しょうがいしゃさべつかいしやうほう さだ ・障害の有無にかかわらず共生社会の実現、障害者差別解消法に定める ふりえきとりあつかい きんしおよ ぐうりてきはりよ ていきよう しょうがいしゃ こよう しゅうろう そくしん 不利益取扱いの禁止及び合理的配慮の提供、障害者の雇用・就労の促進、 しゃかいかつどう しえん 社会活動の支援など</p> <p>せいしんほけんおよ せいしんしょうがいしゃふくし かんするほうりつ いちぶ かいせい 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する ほうりつ せこう いちぶへいせい ねん がつせこう 法律」の施行（一部平成28年4月施行）</p> <p>せいしんしょうがいしゃ いりよう ていきよう かくほ ししん さくてい ほごしゃせいど はいし ・精神障害者の医療の提供を確保するための指針の策定、保護者制度の廃止、 いりようほごにゅういん みなお せいしんいりようしんさかい かん みなお 医療保護入院の見直し、精神医療審査会に関する見直しなど</p>
<p>へいせい ねん 平成27年</p> <p>1月</p>	<p>なんびやうほう せこう 「難病法」の施行</p> <p>なんびやう かんじゃ たい いりようとう かん ほうりつ (難病の患者に対する医療等に関する法律)</p> <p>きほんほうしん さくてい こうへい あんていてき いりようひじよせい せいど かくりつ なんびやう いりよう かん ・基本方針の策定、公平・安定的な医療費助成の制度の確立、難病の医療に関 ちようさけんきゆう すいしん りようようせいかつかんきようせいびじぎょう じっし する調査研究の推進、療養生活環境整備事業の実施など</p>
<p>へいせい ねん 平成28年</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>8月</p>	<p>しょうがいしゃさべつかいしやうほう せこう 「障害者差別解消法」の施行</p> <p>しょうがい りゆう さべつ かいしやう すいしん かん ほうりつ (障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律)</p> <p>しょうがい りゆう ふとう さべつてきとりあつかい きんし しょうがいしゃ ぐうりてきはりよ ・障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や障害者への合理的配慮など</p> <p>しょうがいしゃ こよう そくしんとう かん ほうりつ いちぶ かいせい ほうりつ 「障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律」の せこう 施行</p> <p>こよう ぶんや しょうがい りゆう ふとう さべつてきとりあつかい きんし しょうがいしゃ ぐうりてき ・雇用の分野の障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止や障害者への合理的 はいりよ ほうていこようりつさんていき そ せいしんしょうがいしゃ ついか 配慮、法定雇用率算定基礎への精神障害者の追加など</p> <p>せいねんこうけんせいど りよう そくしん かん ほうりつ せこう 「成年後見制度の利用の促進に関する法律」の施行</p> <p>せいねんこうけんせいど りねん そんちよう りよう そくしん りよう かん たいせい せいび ・成年後見制度の理念の尊重、利用の促進、利用に関する体制の整備など</p> <p>はつたつしょうがいしゃしえんほう いちぶ かいせい ほうりつ せこう 「発達障害者支援法の一部を改正する法律」の施行</p> <p>き め はつたつしょうがいしゃ しえん おこな とく じゅうよう しょうがいしゃ ・切れ目のない発達障害者の支援を行うことが特に重要であること、障害者 きほんほう いちぶかいせい しょうがいしゃさべつかいしやうほう せいりつ はいけい ほうりつぜんばん 基本法の一部改正や障害者差別解消法の成立などを背景に、法律全般にわ かいせい たり改正</p>

ねん げつ 年 月	ほうりつめい がいよう 法律名・概要
へいせい ねん がつ 平成29年 4月	<p>じゅうたくかくほようはいりよしや たい ちんたいじゅうたく きょうきゅう そくしん かん 「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する ほうりつ いちぶ かいせい ほうりつ せいてい 法律の一部を改正する法律」の制定</p> <p>ちんたいじゅうたくきょうきゅうそくしんけいかく さくせい じゅうたくかくほようはいりよしや にゅうきよ こぼ ・賃貸住宅供給促進計画の作成、住宅確保要配慮者の入居を拒まない ちんたいじゅうたく とろくせいど そうせつ きょじゅうしえんほうじん してい 賃貸住宅の登録制度の創設、居住支援法人の指定など</p>
<p>へいせい ねん がつ 平成30年 3月</p> <p>が 4月</p> <p>が 6月</p>	<p>げんご しゅわ ふきゅう すす き しょうがい ひと 「言語としての手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人 とない人とが支え合う社会づくり条例」の制定</p> <p>げんご しゅわ ふきゅう ちょうかくしょうがい とくせい おう こみゆにけーしょんしゅだん ・言語としての手話の普及、聴覚障害の特性に応じたコミュニケーション手段 せんたく きかい かくほ を選択する機会の確保</p> <p>しょうがいしやそうごうしえんほうおよ じどうふくしほう いちぶ かいせい ほうりつ せこう 「障害者総合支援法及び児童福祉法の一部を改正する法律」の施行</p> <p>いちぶへいせい ねん がつせこう (一部平成28年6月施行)</p> <p>じりつせいかつえんじよ そうせつ しゅうろうていちゃくしえん そうせつ じゅうどほうもんかいご ほうもんさき かくだい ・自立生活援助の創設、就労定着支援の創設、重度訪問介護の訪問先の拡大、 こうれいしょうがいしや かいごほけんさーびす えんかつ りよう きよたくほうもん じどうほつたつしえん 高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用、居宅訪問により児童発達支援 ていきょう さーびす そうせつ ほいくじょうほうもんしえん しえんたいしょう かくだい しょうがいじ を提供するサービスの創設、保育所等訪問支援の支援対象の拡大、障害児の さーびす ていきょうたいせい けいかくてき こうちく ほ そうぐひ しきゅうはんい かくだい サービス提供体制の計画的な構築、補装具費の支給範囲の拡大など</p> <p>しょうがいしやぶんかげいじゅつすいしんほう せこう 「障害者文化芸術推進法」の施行</p> <p>しょうがいしや ぶんかげいじゅつかつどう すいしん かん ほうりつ (障害者による文化芸術活動の推進に関する法律)</p> <p>ぶんかげいじゅつ かんしょう そうぞう きかい かくだい ぶんかげいじゅつ さくひんなど はつびょう きかい ・文化芸術の鑑賞・創造の機会の拡大、文化芸術の作品等の発表の機会の かくほ げいじゅつじょうか ち たか さくひんなど ひょうかどう けんりほご すいしん げいじゅつじょうか ち 確保、芸術上価値の高い作品等の評価等、権利保護の推進、芸術上価値 たかいさくひんなど はんばいなど かかるしえん ぶんかげいじゅつかつどう つうじたこうりゅう そくしん そうだん 高い作品等の販売等に係る支援、文化芸術活動を通じた交流の促進、相談 たいせい せいびとう 体制の整備など</p>
れいわ ねん がつ 令和元年 6月	<p>どくしょばりあふりーほう せこう 「読書バリアフリー法」の施行</p> <p>としよかん りよう かか たいせいせいび いんたーねっと りよう さーびす ていきょうたいせい ・図書館の利用に係る体制整備、インターネットを利用したサービス提供体制の きょうか 強化など</p>
れいわ ねん がつ 令和3年 6月	<p>しょうがいしやさべつかいしょうほう いちぶ かいせい ほうりつ せいてい 「障害者差別解消法の一部を改正する法律」の制定</p> <p>れいわ ねん がつせこう (令和6年4月施行)</p> <p>じぎょうしや しやかいてきしょうへき じよきよ じっし かか ひつよう ごりてき はいりよ ていきょう ・事業者による社会的障壁の除去の実施に係る必要かつ合理的な配慮の提供 ぎむか の義務化など</p> <p>いりょうてきけ あ じしえんほう せこう 「医療的ケア児支援法」の施行</p> <p>いりょうてきけ あ じおよ かぞく しえん かか せさく じっし いりょうてきけ あ じしえん せんたー ・医療的ケア児及びその家族の支援に係る施策の実施、医療的ケア児支援センター せつち の設置など</p>
れいかず ねん がつ 令和4年 5月	<p>しょうがいしやじょうほうあくせしびりてい こみゆにけーしょんせさくすいしんほう 「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」 せこう の施行</p>

ねん げつ 年 月	ほうりつめい がいよう 法律名・概要
がっ 12月	<p>しょうがいしゃ じょうほう しゅとくりよう いしそつう かか せさく そうごうてき すいしん ・ 障害者による情報の取得利用・意思疎通に係る施策を総合的に推進</p> <p>しょうがいしゃ そうごう しえんほうとう いちぶ かいせい ほうりつ せいてい 「障害者総合支援法等の一部を改正する法律」の制定 (れいわ ねん がっせ ころうとう 令和6年4月施行等)</p> <p>しょうがいしゃ ちいきせい かいつ しえんたいせい じゅうじつ しょうがいしゃ たよう しゅうろうに ー ず ・ 障害者等の地域生活の支援体制の充実、障害者の多様な就労ニーズに たい しえんおよ しょうがいしゃ こうよう しつ こうじよう すいしん せいしんしょうがいしゃ きぼう に ー ず 対する支援及び障害者雇用の質の向上の推進、精神障害者の希望やニーズ おう しえんたいせい せいび きょじゅうちとくれいたいしょうせつ かいごほけんしせつ ついか に応じた支援体制の整備、居住地特例対象施設に介護保険施設を追加など</p>

2 きほんりねん (2) 基本理念

しょうがい う む わ へだ そうご じんかく こせい そんちよう あ
障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重 し合いながら

きょうせい
共生 することができるよう、次の社会を目指します。

- ① しょうがい ひと ひと ちいき にな て ちいき あんしん く しゃかい
障害のある人もない人も地域の担い手となり、地域で安心して暮らせる社会
- ② きぼう そ はたら つづ しゃかい
希望に添って働き続けることができる社会
- ③ しょうがい つう まな つづ ぶんかげいじゅつ すぼ ー つ ぶんや ひとり
生涯を通じて学び続けられるとともに、文化芸術やスポーツなどの分野で一人ひとり
とくせい い かつやく しゃかい
の特性を活かして活躍できる社会

(3) しさく すす おうだんてきてん 施策を進めるにあたっての横断的視点

① しゃかい ばめん あくせしびりてい こうじよう 社会のあらゆる場面におけるアクセシビリティの向上

しょうがいしゃ しゃかい さんか じっしつてき しょうがい う む あんしん せいかつ
障害者の社会への参加を実質的なものとし、障害の有無にかかわらず、安心して生活
できるようにするため、しょうがいしゃ かつどう せいげん しゃかい さんか せいやく しせつ せつび
障害者の活動を制限し、社会への参加を制約する施設や設備、
さまざま せいど かんこう かんねんとう しゃかいてきしょうへき ばりあ じょきよ すすめ はーど そふ とりようめん
様々な制度や慣行、観念等の社会的障壁（バリア）の除去を進め、ハード・ソフト両面
にわたる しゃかい ばりあふりーか すいしん しゃかい ばめん あくせしびりてい
社会のバリアフリー化を推進し、社会のあらゆる場面におけるアクセシビリティ
こうじよう はか
の向上を図る。

② どうじしゃほんい そうごうてき ぶんやおうだんてき しえん 当事者本位の総合的かつ分野横断的な支援

しょうがいしゃ じこ せんたく じこ けつてい そんなちよう らいふすてーじ おう てきせつ しえん
障害者 の自己選択・自己決定が尊重され、ライフステージに応じた適切な支援を
う 受けられるよう、ふくし いりよう こよう きょういく ぶんかげいじゆつ すぼ ー つなど かくぶんや ゆうきてき
福祉、医療、雇用、教育、文化芸術・スポーツ等の各分野の有機的な
れんけい せさく そうごうてき てんかい きめ
連携のもと、施策を総合的に展開し、切れ目のない支援を行う。

③ 障害特性等に配慮したきめ細かい支援

しょうがいしゃせさく ねんれい しょうがい じょうたい せいかつ じつたいとう おう しょうがいしゃ こべつてき しえん
障害者 施策は、年齢、障害 の状態、生活の実態等に応じた障害者 の個別的な支援
ひつようせい ふ じっし
の必要性を踏まえて実施する。

ちてきしょうがい せいしんしょうがい はつたつしょうがい なんびよう こうじのう きのうしょうがい もう じゅうしょう
また、知的障害、精神障害、発達障害、難病、高次脳機能障害、盲ろう、重症
しんしんしょうがい た ちょうふくしょうがいなど しょうがい とくせい もと はいりよ
心身障害その他の重複障害等それぞれの障害 の特性や求められる配慮について、
ふみん りかい そくしん む こうほう けいはつかつどう おこな せさく じゅうじつ はか
府民のさらなる理解の促進に向けた広報・啓発活動を行うとともに、施策の充実を図る。

④ 障害のある女性、子ども及び高齢者に配慮した取組の推進

しょうがい じよせい こ およ こうれいしゃ はいりよ とりくみ すいしん
障害 のある女性、障害 のある子ども及び障害 のある高齢者 など、複合的に困難な
じょうきよう お しょうがいしゃ たい こま はいりよ ひつようせい ふ しょうがいしゃせさく
状況 に置かれた障害者 に対するきめ細かい配慮 の必要性を踏まえて障害者 施策を
てんかい
展開する。

⑤ PDCA サイクル等を通じた実効性のある取組の推進

しょうがいしゃせさく じっし あ びーでいーしーえーさいくる こうちく ちゃくじつ じつこう
障害者 施策の実施に当たっては、PDCA サイクルを構築し、着実に実行すると
しょうがいしゃけんり じょうやく じっし じょうきよう かん れいわ ねん がつ さいたく こうひょう しょうがいしゃ
もに、障害者 権利条約 の実施状況 に関し令和4年9月に採択・公表された障害者
けんり いんかい そうかつしよけんなど あつか せさく ふだん みなお おこな
権利委員会による総括所見等も扱うなど、施策の不断の見直しを行っていく。

しょうがいしゃ ひつよう ひつよう ばしょ てきせつ しえん う しちょうそんとう
また、障害者 が必要なときに必要な場所で適切な支援を受けられるよう、市町村等と
てきせつ れんけいおよ やくわりぶんたん しょうがいしゃせさく じっし
の適切な連携及び役割分担のもとで、障害者 施策を実施する。

こうかてき こうりつてき せさく すいしん かんてん こうれいしゃせさく いりようかんけいせさく
さらに、効果的かつ効率的に施策を推進する観点から、高齢者 施策、医療関係施策、

こども・子育て関係施策、男女共同参画施策等、障害者施策に関する他の施策・計画

等との整合性を確保し、総合的・計画的な施策の展開を図る。

高次脳機能障害

ケガや病気により、脳に損傷を負うことで記憶障害、注意障害、遂行機能障害、

社会的行動障害などの症状が出ることにより、日常生活又は社会生活に制約がある

じょうたい

(4) 計画の性格及び位置付け

この計画は、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策の総合的かつ計画的な

推進を図るために策定するものであり、京都府が講ずる障害者施策に関する総合的な計画と

して位置付け、障害者基本計画、障害福祉計画、障害児福祉計画を一体的に定めるもので

す。障害者基本計画は、障害者施策についての基本的な方向を示し、実効性ある施策を

総合的かつ計画的に推進するために定めるもので、障害福祉計画及び障害児福祉計画は、

障害者基本計画の実施計画として位置付け、また、各市町村が計画に定めるサービス等

見込量や数値目標、各圏域における課題を踏まえ策定します。

なお、令和元年の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書

バリアフリー法）」の施行により、障害者の社会参加を促進する施策の充実が図られており、

この計画は、読書バリアフリー法に基づき策定する「視覚障害者等の読書環境の整備の

推進に関する計画」としての性格も併せ持ちます。

なお、本府においては、障害者基本法に基づき、学識経験者や障害者団体及び各種障害のある

当事者等から構成されている「京都府障害者 施策推進協議会（障害者 総合支援法に基づく

「京都府障害者 自立支援協議会」を兼ねる。）を設置しており、計画の策定に当たっては、

同協議会の意見を聴くこととし、計画に反映させています。

また、本計画は、障害のある府民へのアンケートやパブリックコメントを行った上で策定
しています。

障害者自立支援協議会

障害のある人が地域で自立した生活ができるように支援するため、関係機関や関係団体、

障害福祉サービス事業者や医療・教育・雇用を含めた関係者が、地域の課題を共有し、

地域の支援体制の整備について協議を行うための場であり、地方公共団体が設置するもの。

(5) 計画の対象期間

計画の対象期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間とします。なお、障害福祉

計画・障害児福祉計画に関するものについては、令和6年度から令和8年度までの3年間と
します。

(6) 計画の対象となる障害者の範囲

この計画の対象となる障害者は、障害者基本法第2条の定義に基づき、「身体障害」、

知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある人であって、

障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける

状態にある人」とします。

(7) 分野別の施策体系

この計画では、共通する5つの横断的視点を基に、9つの分野から施策を構築し、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策を推進していきます。

I 障害のある人もない人も地域の担い手となり、地域で安心して暮らせる社会

- 1 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止
- 2 安全・安心な生活環境の整備
- 3 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実及び読書バリアフリーの充実
- 4 防災、防犯等の推進
- 5 保健・医療の推進
- 6 自立した生活の支援・意思決定支援の充実

II 希望に添って働き続けることができる社会

- 7 雇用・就業、経済的自立の支援

III 生涯を通じて学び続けられるとともに、文化芸術やスポーツなどの分野で一人ひとり

の特性を活かして活躍できる社会

- 8 生涯を通じて学び続けられる環境の整備
- 9 文化芸術やスポーツ等を通じた活動や機会の創出

(8) 成果目標の設定（詳細は「別表」参照）

計画期間に達成すべき目標として数値化が可能な施策について、成果目標を設定し、計画

の実効性を確保します。

(9) 計画の推進

けいかく すいしん あ えすでいーじーず じぞく かのう かいほつもくひょう りねん ふまえ たようせい ひと
計画の推進に当たっては、SDG s（持続可能な開発目標）の理念を踏まえ、多様性を認め

あ だれ かつやく ぜんいんさんか ささき しゃかい じつげん む きょうとふ しゅたい くに
合いながら、誰もが活躍し、全員参加で支える社会の実現に向けて、京都府が主体となり、国、

しちょうそん かんけいだんたい しせつ じぎょうしゃとう れんけい はか いったいてき そうごうてき とりくみ おこな
市町村、関係団体・施設・事業者等と連携を図り、一体的かつ総合的な取組を行います。

とく くに たい くに しょうがいしゃきほん けいかく しょうがいふくし さーびす どうおよ しょうがいじつうしよしえん どう
特に国に対しては、国の障害者基本計画、障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の

えんかつ じつし かくほ きほんてき ししん しょうがいしゃそうごうしえんほう どう もと ひつよう ぎょうざいせいじょう
円滑な実施を確保するための基本的な指針、障害者総合支援法等に基づく必要な行財政上

そち しえん ようせい
の措置と支援を要請します。

けいかく かか ほうしん せさく ふ ぜんちようてき そうごうてき とりくみ おこな
また、計画に掲げた方針や施策については、府として全庁的に総合的な取組を行います。

けいかく じつし あ きょうとふ しょうがいしゃせさく すいしんきょうぎかい きょうとふ しょうがいしゃじりつ しえんきょう
計画の実施に当たっては、「京都府障害者施策推進協議会（京都府障害者自立支援協

ぎかい いけん き しんちよくじょうきょう はあく てんけん おこな けいかくてき すいしん はか
議会）」の意見を聴きながら進捗状況の把握と点検を行い、計画的な推進を図ります。

えすでいーじーず じぞく かのう かいほつもくひょう SDG s（持続可能な開発目標）

さすてなぶる でいべろつぶめんと ごーるず りやくしやう へいせい ねん9 こくれんじぞく かのう かいほつさみつと
Sustainable Development Goalsの略称で、平成27年9月の国連持続可能な開発サミット

さいたく こくさいもくひょう だれひとり と のこ すろーがん れいわ ねん もくひょう
で採択された国際目標。「誰一人取り残さない」をスローガンに、令和12年を目標とする

ひんこんさくげん かくさ ぜせい へいわ こうちく たき ごーる たーげつと こうせい
貧困削減、格差の是正、平和構築など多岐にわたる17のゴール・169のターゲットから構成
されている。

2 しょうがいほけんふくしけんいき せつてい 障害保健福祉圏域の設定

(1) せつてい しゅし 設定の趣旨

しょうがい ひと たい ほけん ふくし さーびす せさく ないよう しちょうそん じんこうきぼ
障害のある人に対する保健福祉サービスについては、その施策内容や市町村の人口規模

しちょうそん たんどく じつし こんなん ばあい ちいき さーびす
などから、市町村によっては、単独での実施が困難な場合があることから、地域にサービスの

へんざい しょう しちょうそん ちいき とくせい じんこうきぼ ふ ふくすう しちょうそん ふく
偏在が生じないよう、市町村の地域特性や人口規模などを踏まえ、複数の市町村を含む

こういきてき けんち せさく てんかい はか ふいき ぜんたい ぼらんす さーびす きょうきゅうたいせい きぼん
広域的な見地から施策の展開を図り、府域全体のバランスのとれたサービス供給体制、基盤

せいび すいしん へいせい ねん がつ しょうがいほけん ふくしけんいき せつてい
 の整備を推進するため、平成10年11月から障害 保健福祉圏域を設定しています。

(2) せつてい かんが かつ
 設定の考え方

ほけん いりょうしやく およ こうれいしゃしやく れんけい はか ひつよう きょうとふ ほけん いりょうけいかく
 保健・医療施策及び高齢者施策との連携を図る必要があるため、京都府保健医療計画に
 もと じ いりょうけん およ きょうとふ こうれいしゃけんこうふくし けいかく もと こうれいしゃけんこうふくしけんいき どういつ
 基づく「2次医療圏」及び京都府高齢者健康福祉計画に基づく「高齢者健康福祉圏域」と同一
 くいき けんいき
 区域の6つの圏域としています。

きょうと おとくにけんいき だいとし とくれい きょうとし けんげん さだ
 なお、京都・乙訓圏域については、大都市特例により京都市の権限が定められていることか
 ら、きょうとし さぶけんいき およ おとくにさぶけんいき せつてい
 ら、「京都市サブ圏域」及び「乙訓サブ圏域」を設定しています。

けんいきめい 圏域名		しちやうそんめい 市町村名
たんご 丹後		みやづし きょうたんごし いねちやう よさのちやう 宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
ちやうたん 中丹		ふくちやまし まいづるし あやべし 福知山市、舞鶴市、綾部市
なんたん 南丹		かめおかし なんたんし きょうたんぼちやう 亀岡市、南丹市、京丹波町
きょうと 京都	きょうとしさぶけんいき 京都市サブ圏域	きょうとし 京都市
おとくに 乙訓	おとくにさぶけんいき 乙訓サブ圏域	むこうし ながおきやうし おおやまぎちやう 向日市、長岡京市、大山崎町
やましろきた 山城北		うじし じやうやうし やわたし きょうたなべし くみやまちやう いでちやう 宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、 うじたわらちやう 宇治田原町
やましろみなみ 山城南		きづがわし かさぎちやう わづかちやう せいにかちやう みなみやましろむら 木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

3 障害者手帳取得者数の推移

令和4年度末現在で、京都府における障害者手帳取得者数は、約19万8千人です。

障害者自立支援法が施行された平成18年度末（約16万2千人）との比較では、約3万6千人増えています。

	平成18年 (障害者自立 支援法施行)	令和2年	令和3年	令和4年	⑱→④ ぞうかりつ 増加率
身体障害	132,666	141,836	139,247	137,466	3.6% 増
知的障害	17,909	28,768	29,234	29,904	67.0% 増
精神障害	12,063	27,864	29,232	31,090	157.7% 増
合計	162,638	198,468	197,713	198,460	22.0% 増

(注) 京都市含む。各年度末時点の数字。

だい しょう かくぶんやべつせさく きほんほうこう
第2章 各分野別施策の基本方向

I しょうがい ひと ひと ちいき にな て ちいき あんしん く しゃかい
I 障害のある人もない人も地域の担い手となり、地域で安心して暮らせる社会

さべつ かいしょう けんり ようご すいしんおよ ぎやくたい ぼうし
1 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止

きほんてき かんが かつ
【基本的考え方】

だれ く きょうせいしゃかい じつげん む きょうとふ しょうがい ひと ひと とも
誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向け、「京都府障害のある人もない人も共に

あんしん く しゃかい じょうれい どう もと しょうがいおよ もと
安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」等に基づき、障害及び求められる

はいりょう かん りかい そくしん しょうがい ひと ひと そうごりかい ふか こうほう
配慮等に関する理解の促進や、障害のある人とない人の相互理解を深めるための広報・

けいはつかつどう じっし そうご こうりゅう そくしん
啓発活動を実施するとともに、相互の交流を促進します。

じょうれいおよ しょうがいしゃさべつ かいしょうほうどう もと しょうがいしゃ かつどう せいげん しゃかい
また、条例及び障害者差別解消法等に基づき、障害者の活動を制限し、社会への

さんか せいやく しゃかいてきしょうへき じょきよ とりくみ すす しょうがいしゃぎやくたい
参加を制約している社会的障壁を除去するための取組を進めるとともに、障害者虐待

ぼうしほう もと しょうがいしゃぎやくたい ぼうし など しょうがい ひとどう けんり ようご とりくみ
防止法に基づく障害者虐待の防止等、障害のある人等の権利擁護のための取組を

ちやくじつ すいしん
着実に推進します。

けんりようご すいしん ぎやくたい ぼうし
(1) 権利擁護の推進、虐待の防止

しょうがいしゃぎやくたいぼうしほう およ こうれいしゃぎやくたいぼうしほう もと しちょうそん せんもんしよくだんたいどう れんけい
障害者虐待防止法及び高齢者虐待防止法に基づき、市町村や専門職団体等と連携・

きょうりよく しょうがい ひと こうれいしゃ ぎやくたい みぜん ぼうし そうき はっけん そうき たいおう さいはつぼうし など
協力して、障害のある人や高齢者への虐待の未然防止、早期発見・早期対応、再発防止等

とりくみ すす しょうがい こうれい はんだんのうりよく じゅうぶん かつがた せいかつ
の取組を進めるとともに、障害や高齢により判断能力が十分でなくなった方々の生活を

まも せいねんこうけんせいどう り ようそくしん はか しょうがい ひとどう けんり ようご すいしん
守る成年後見制度等の利用促進を図り、障害のある人等の権利擁護を推進します。

しちょうそん せんもんしよくだんたいどう かんけいだんたい れんけい しょうがいしゃぎやくたいぼうしほう こうれいしゃぎやくたい
○ 市町村、専門職団体等の関係団体と連携し、障害者虐待防止法、高齢者虐待

ぼうしほう ひろ ふみん しゅうち ぎやくたい みぜん ぼうし そうき はっけん そうき たいおう はか
防止法について、広く府民に周知し、虐待の未然防止や早期発見・早期対応を図ります。

きょうとふ しょうがいしゃ こうれいしゃけんり ようご しえん せんたー せんもんしよくだんたい れんけい
○ 「京都府障害者・高齢者権利擁護支援センター」において、専門職団体と連携・

協力きょうりょくして、専門職せんもんしよくちゑむチームの市町村しちょうそんへの派遣はけん、専門職せんもんしよくによる電話相談でんわ そうだんを行うなど、
障害者しょうがいしゃぎやくたい虐待こうとししゃぎやくたい、高齢者虐待たいおうまどぐちの対応窓口となる市町村しちょうそんの権利擁護けんり ようごの取組とりくみをきめ細かく
支援しえんします。

- 虐待ぎやくたいじれい事例もとに基づき、市町村職員しちょうそんしよくいんを対象たいしょうとする事例検討会じれい けんとうかいを行うとともに、市町村
等しちょうそんが開催かいさいする権利擁護研修けんり ようご けんしゅうどう等に専門職せんもんしよくの講師こうしを派遣はけんするなど、関係職員かんけいしよくいんの
スキルアップすきるあっぷや資質向上ししつ こうじょうを図ります。

- 障害者しょうがいしゃせつ施設じぎょうしょ・事業所しちょうそんしよくいん・市町村職員たいしょうを対象ぎやくたいぼうし けんしゅうとする虐待防止研修かいさいを開催し、施設・
事業所じぎょうしょにおける障害者虐待しょうがいしゃぎやくたいの未然防止みぜん ぼうし等などの取組とりくみの促進そくしんを図ります。

- 家庭裁判所かてい さいばんしょ、市町村しちょうそん、専門職団体せんもんしよくだんたいどう等かんけいだんたいの関係団体れんけいと連携し、成年後見制度せいねんこうけんせいどの正しい
知識ちしきの周知しゅうちを図り制度の適切な利用はかを促進てきせつ りようするとともに、市町村しちょうそんの成年後見制度利用せいねんこうけんせいど りよう
促進そくしんに係る体制整備かか たいせいせいびの取組とりくみを支援しえんします。

- 法人後見ほうじんこうけんの取組とりくみや市民後見人しみん こうけんじんの養成等ようせいどうを促進そくしんするため、市町村職員しちょうそんしよくいんを対象たいしょうとする
先進事例等せんしんじれい どうの勉強会べんきょうかいを開催かいさいするとともに、市町村しちょうそんが行う成年後見制度利用支援事業せいねんこうけんせいど りよう しえん じぎょうや
成年後見制度法人後見支援事業せいねんこうけんせいど ほうじんこうけんしえん じぎょうを支援しえんします。

- 障害等しょうがいどうにより判断能力はんだんのうりょくが不十分な人ふじゅうぶん ひとに対して、福祉サービス利用援助ふくし さーびす りよう えんじょ（福祉サービス
に関する情報提供かん じょうほうていきょう・助言じよげん、利用手続りよう てつづき、利用料支払いりようりょうしほらの援助えんじょ、日常的にちじょうてきぎんせんかんり金銭管理等など）を行う
ことにより、安心あんしんして地域ちいきで自立した生活じりつが送れるように支援せいかつ おくします。

成年後見制度

家庭裁判所で選任された成年後見人や保佐人等が、認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない人を保護するため、その人の身の回りに配慮した財産管理等を行う制度。

(2) 障害を理由とする差別の解消の推進

障害の有無に関わらず、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向け、府民誰もが、障害のある人や高齢者等の自立した日常生活や社会生活を確保することの重要性について理解を深め、一人ひとりが互いを思いやり、支え合えるようにするため、幅広い府民への啓発活動を実施し、「心のバリアフリー」を推進します。

条例や障害者差別解消法等に基づく、障害を理由とした不利益取扱いや合理的配慮について、広く府民、事業者等の関心と理解を深める啓発活動を行うとともに、身近な地域で相談に応じる相談体制、調整体制を整備し、バリアの解消を支援します。

- 障害のある人等の支援を必要とする方々が毎日の生活を送る上で支障となる様々な社会的障壁（バリア）をなくしていくため、府民一人ひとりが、それぞれの立場でできる支援をする応援者となっただけできるよう、心のバリアフリーを推進する啓発活動を実施します。

- 条例の趣旨・内容を広く府民に周知し、障害のある人の社会参加と府民の理解を促進するため、府の各種広報媒体を通して啓発を実施するとともに、市町村やテレビ、新聞等のマスメディアの協力を得ながら啓発活動を実施します。

- 障害を理由とした不利益取扱いの具体的事例や、障害のある人への配慮の望ましい事例などを収集・整理の上、事例集の改訂版を作成して、広く府民、事業者等に周知し、障害のある人等の社会参加を制約するバリアの解消を促進します。
- 障害を理由とした不利益取扱いや合理的配慮の個別の事案について、身近な地域で相談に応じる体制を整備するとともに、条例に基づく「京都府障害者相談等調整委員会」を設置し、より専門性の高い不利益取扱いの事案等の助言・あっせんによる解決を図ります。
- 行政機関、民間事業者等の合理的配慮の取組を促進するため、行政機関等の窓口職員への研修や事業者を対象とするセミナーの実施等の取組を推進します。
- 障害者週間を中心として、障害者団体と連携し、府内各地で啓発活動（チラシや「ほっとはあと製品」の配布）を実施し、理解促進を図ります。
- 障害者福祉の啓発を内容としたポスター及び体験作文を募集し、啓発ポスターとして使用するとともに、入賞作品を「京都とっておきの芸術祭」等で展示します。
- 府内の障害のある人や関係者が集い、広く障害に関する理解と認識を深め、障害のある人の自立と社会参加意欲を増進し、障害者福祉の増進を図ります。
- 聞こえのサポーター養成講座を開催することにより、見えない障害である聴覚障害への理解促進を図ります。
- 精神障害のある人及びその家族からの相談に応じ必要な助言等を行うとともに、

せいしんほけん ふくし かん ただ ちしき りかい ふきゅう つと せいしんしょうがい ひと じりつ
精神保健福祉に関する正しい知識と理解の普及に努めるなど、精神障害のある人の自立
しゃかいさんか そくしん はか けんこうすいしんいん せつち
と社会参加の促進を図る「こころの健康推進員」を設置します。

- 認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してでき
る範囲で手助けする「認知症 サポーター」や「認知症 サポーター養成講座」の講師役とな
る「キャラバン・メイト」の養成等、認知症を正しく理解し、地域で支え合える環境づくり
をすす
を進めます。

かくしちょうそん にんちしょうさぽーたー ー たー とう しえんしゃ にんちしょう ひと かぞく
また、各市町村における認知症 サポーター等の支援者と認知症の人やその家族の
ニーズとをつなぐ「チームオレンジ」の構築を支援します。

- 障害のある人を含む性暴力の被害者や配偶者等からの暴力の被害者に対し、
「京都性暴力 被害者ワンストップ相談支援センター 京都 SARA」や、配偶者暴力
相談支援センターにおいて相談支援を行います。

- 旧優生保護法に基づく優生手術を受けた方に対する一時金の支給については、
都道府県が請求の受付等を行っており、着実に支給が行われるよう、広く周知等に
努めます。

心のバリアフリー（バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱（内閣府））

だれ しえん ひつよう かがた じりつ にちじょうせいいかつ しゃかいせいいかつ かくほ じゅうようせい
誰もが、支援を必要とする方々の自立した日常生活や社会生活を確保することの重要性

について理解を深め、自然に支え合うことができるようにすること。

2 安全・安心な生活環境の整備

(きほんてき かんが かつ) 【基本的考え方】

障害のある人がそれぞれの地域で安全に安心して暮らしていくことができる生活環境の実現を図るため、住環境の整備、移動しやすい環境の整備、アクセシビリティに配慮した施設等の普及促進等、障害のある人に配慮したまちづくりの総合的な推進を通じ、生活環境における社会的障壁の除去を進め、アクセシビリティの向上を推進します。

(1) 障害のある人に配慮したまちづくりの総合的な推進

子どもや高齢者、障害のある人をはじめ誰もが暮らしやすい人にやさしいまちづくりを推進するため、施設のバリアフリー情報の提供やおもいやり駐車場の利用証制度の推進に取り組めます。

- 京都府福祉のまちづくり条例に定める特定まちづくり施設やおもいやり駐車場の協力施設等を中心に、「人にやさしいまちづくりホームページ」において施設のバリアフリー情報を提供します。
- 全ての府民にとって暮らしやすいまちづくりを推進し、障害のある人や高齢者など誰もが安心して外出できる社会の実現を目指して、京都おもいやり駐車場利用証制度を推進します。
- 身体に障害がある人や高齢者が安心・安全に通行できる交通安全施設及び道路交通環境の整備を推進します。

また、バリアフリー法に基づく重点整備地区内の特定道路における京都府管理道路の

ばりあふりーか はか
バリアフリー化を図ります。

(2) 住宅の確保

しょうがい ひと ちいき じりつ せいかつ すいしん たよう せたい きょじゅう こうりゅう
障害のある人の地域での自立した生活を推進するため、多様な世帯が居住し交流できる

ふえい じゅうたくとう せいび ばりあふりーか ふえいじゅうたく ゆうせんにゆうきよ とりくみ すいしん
府営住宅等の整備やバリアフリー化、府営住宅への優先入居などの取組を推進します。

○ しょうがい ひと こうれいしゃ こそだ せたい たよう せたい きょじゅう こうりゅう
障害のある人や高齢者、子育て世帯はもとより、多様な世帯が居住し交流できる

ふえい じゅうたくとう せいび ゆにばーさるでざいん かんが かつ すいしん
府営住宅等を整備し、ユニバーサルデザインの考え方によるまちづくりを推進します。

○ しょうがい ひと せいかつ かつどう しょうがい ばりあふりー しょう ふえい じゅうたく
障害のある人の生活や活動の障害とならないよう、バリアフリー仕様の府営住宅

けんせつ おこな きせつ ふえい じゅうたく じゅうこない えれべーたー せっち
の建設を行うとともに、既設の府営住宅においても、住戸内やエレベーターの設置をは

じめとする共用部分のバリアフリーの改善を進めます。

○ かねい しんたいきのう ていか しょうがい しょう ばあい す つづ
加齢による身体機能の低下や障害が生じた場合にも住み続けられるよう、

ばりあふりー かいしゅうどう きぞん じゅうたく きのう こうじょう はか こうじ たいして とりあつかいきんゆうきかん
バリアフリー改修等の既存住宅の機能向上を図る工事に対して、取扱金融機関と

ていけい ていきんり りふおーむ しきん ゆうし おこな
提携して低金利でリフォーム資金の融資を行います。

○ ぎょうせい くわ ふどうさん かんけいしゃ ふくし かんけいしゃ れんけい みんかんちんたいじゅうたく
行政に加え、不動産関係者、福祉関係者などが連携して、民間賃貸住宅における

じゅうたくせいふていねっと とりくみ そくしん しょうがい こうれいしゃ じゅうたくかくほ
住宅セーフティネットの取組を促進し、障害のある人、高齢者などの住宅確保

ようはいりよしや あんしん く じゅうたく かくほ
要配慮者が安心して暮らせる住宅を確保します。

○ しょうがいしゃせたい ふえい じゅうたく にゆうきよ しえん いっぱんぼしゅう べつ ねん かい
障害者世帯の府営住宅への入居を支援するため、一般募集とは別に、年3回

ゆうせんわく もう ぼしゅう おこな にゆうきよきかい かくほ はか
優先枠を設けて募集を行い、入居機会の確保を図ります。

(3) 移動しやすい環境の整備等

しょうがい ひと こうれいしゃ だれ あんしん がいしゅつ てつどうえきしゃ どうろ
障 害のある人や高齢者をはじめ誰もが安心して外出できるよう、鉄道駅舎や道路におけ
だんさかいしやう こうつうあんぜんしせつ どうろこうつうかんきやう せいびそくしん すいしん
る段差解消や、交通安全施設、道路交通環境の整備促進などを推進します。

- てつどうえきしゃおよ しゅうへんちく ぼりあふりーか いったいてき そくしん こうれいしゃ
鉄道駅舎及びその周辺 地区におけるバリアフリー化を一體的に促進し、高齢者・
しょうがいしゃとう こうきやうこうつうきかん りやう いどう えんかつか はか ちゅうしん てつどう
障害者 等の公共 交通機関を利用した移動の円滑化を図るため、その中心 となる鉄道
えきしゃ たいしやう こっこほじよ せいど きやうちやう かんけいしちやう てつどうじぎやうしや おこな
駅舎を対象 に、国庫補助制度と協調 し、関係市町とともに、鉄道事業者 が行う
ぼりあふりーか じぎやう たい じよせい
バリアフリー化事業に対して助成します。

- しんたい しょうがい ひと こうれいしゃ あんしん あんぜん つうこう こうつうあんぜんしせつ およ どうろ とうつう
身体に障害 がある人や高齢者が安心・安全に通行 できる交通安全施設及び道路交通
かんきやう せいび すいしん
環境 の整備を推進します。

また、ぼりあふりーほう もと じゅうてんせいびち くない とくていどうろ きやうとふ かんり どうろ
また、バリアフリー法に基づく重点 整備地区内の特定 道路における京都府管理道路の

ぼりあふりーか はか さいけい
バリアフリー化を図ります。〈再掲 2(1)〉

- しんたい しょうがい ひと ちゅうしゃきんし じよがいしていしや ひやうしやう こうふ しんせい しんさ
身体に障害 のある人などからの駐車 禁止除外指定車標章 の交付申請により、審査
とうがいひやうしやう こうふ あんぜん ちゅうしゃかんきやう かくほ はか
のうえ当該標章 を交付し、安全な駐 車環境 の確保を図ります。

(4) あくせしびりてい はいりよ しせつ とう ふきやうそくしん アクセシビリティに配慮した施設等の普及促進

ぼりあふりーほう およ きやうとふ ふくし じやうれい もと おお ひと りやう しせつ
バリアフリー法及び京都府福祉のまちづくり条例 などに基づき、多くの人が利用する施設の
ぼりあふりーか とう すすめ だれ あんしん ゆ き すいしん
バリアフリー化等を進め、誰もが安心して行き来できるまちづくりを推進します。

- きやうとふ ふくし じやうれい さだ とくてい しせつ ちゅうしゃじやう
京都府福祉のまちづくり条例 に定める特定 まちづくり施設やおもいやり 駐車場
きやうりよくしせつ とう ちゅうしん ひと ほーむぺーじ しせつ
協力 施設等を中心 に、「人にやさしいまちづくりホームページ」において施設の
ぼりあふりーじやうほう ていきやう さいけい
バリアフリー情報を提供します。〈再掲 2(1)〉

- すべ ふみん く すいしん しょうがい ひと こうれいしゃ だれ
全ての府民にとって暮らしやすいまちづくりを推進し、障害 のある人や高齢者 など誰

もが安心して外出できる社会の実現を目指して、おもいやり駐車場利用証制度を推進します。〈再掲2(1)〉

- 多数の人が利用する府立都市公園についてバリアフリー化を推進するとともに、市町村管理の公園施設について、バリアフリー化を推進します。
- 多数の人が利用する府立都市公園について、障害の有無や年齢などに関わらず、あらゆる子どもたちが一緒に遊ぶことができるインクルーシブ遊具を設置します。
- バリアフリー法及び京都府福祉のまちづくり条例に基づく協議、指導、認定の各段階を通じて、建設時及び維持保全計画におけるバリアフリー化について建築主・事業者等への指導・助言を民間指定確認検査機関と連携して行います。
- 警察署、交番、駐在所は、日々、多数の人が利用することから施設のバリアフリー化を推進することとし、建て替え等の機会に障害のある人が利用できるトイレの設置を推進するほか、ユニバーサルデザインの考え方による施設整備を推進します。

3 情報 アクセシビリティの向上・意思疎通支援及び読書バリアフリーの充実

【基本的考え方】

障害のある人が必要な情報に円滑にアクセスすることができるよう、障害のある人に配慮したサービスの提供等の取組を通じて情報アクセシビリティの向上を推進します。

併せて、障害のある人が円滑に意思表示やコミュニケーションを行うことができるよう、意思疎通支援を担う人材の育成やサービスの利用の促進等の取組を通じて意思疎通

支援の充実を図ります。

また、障害（視覚・発達・肢体不自由、その他の障害による表現の認識が困難な者及び知的障害等により配慮を要する者（以下、「視覚障害のある人等」という。））の有無にかかわらず全ての方が等しく読書を通じて文字・活字文化に触れることができる取り組みを進めます。

(1) 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実

① わかりやすい情報の提供

障害のある人が円滑に情報を取得・利用し、意思表示やコミュニケーションを行うことができるよう、わかりやすい情報提供や、コミュニケーション支援の充実等を推進します。

○ 聴覚障害のある人が利用する録画物その他各種情報記録媒体の製作及び手話通

訳者の派遣や養成等の便宜等を供与し、聴覚障害のある人への支援拠点となる京都府

聴覚障害者情報提供施設の設置・運営を支援します。

○ 視覚や聴覚に障害のある人が日常生活上の必要な情報を容易に得て、また、

発信できるように、点字図書館などの充実・利用促進に努めます。

○ 府民だよりのバリアフリー化を図るため、文字拡大版、点字版、音声版を発行します。

○ 京都府のホームページの内容をより工夫し、障害のある人に対して、有効な情報を

発信し、WEBアクセシビリティに配慮したホームページを構築します。

○ 障害のある人の情報・コミュニケーション支援のため、初心者向けIT講座、視覚・

ちょうかくとうしょうがいべつあいていーこうざ あいていーそうだん じっし
聴覚 等障害 別 I T 講座や I T 相談 などを実施します。

② 意思疎通支援の充実

しょうがい ひと じょうほうほしょう かくほ しゅわつう やくしゃなど はけん ようせい はか こういき
障害 のある人の情報 保障を確保するため、手話通訳者等の派遣や養成を図るほか、広域
しんこうきょく ふ きかん まどぐち かんきょうせいび つと
振興局 など府機関窓口における環境 整備に努めます。

○ ちょうかくしょうがい ひと こみゆにけーしょん かくほ しゅわつう やくしゃ ようやくひつきしゃ
聴覚 障害 のある人のコミュニケーションを確保するため、手話通訳者・要約筆記者
はけん とう じっし
派遣等を実施します。

○ ちょうかく しょうがい ひと じょうほうほしょう こみゆにけーしょん しえん あぶり ゆーでいー
聴覚 に障害 のある人の情報 保障のため、コミュニケーション支援アプリ (UD
とーく こういきしんこうきょく ふ きかん まどぐち せつち えんかつ いし そつう ひつよう じょうほうていきょう
トーク) を広域振興局 など府機関窓口を設置し、円滑な意思疎通や必要な情報 提供
かんきょうせいび おこな
ができるよう環境 整備を行います。

○ しょうがい ひと ちいき せいかつ ささ しかく しょうがい ひと てんやくほうしん
障害 のある人の地域生活を支えるため、視覚に障害 のある人のための点訳奉仕員、
ろうどくほうしん など ようせいじぎょう じゅうじつ はか じんざい ようせい かくほ つと だいどく
朗読奉仕員等の養成事業の充実を図るなど、人材の養成・確保に努めます。また、代読、
だいひつじぎょう しょうがいふくし さーびす ちいき せいかつしえん じぎょう じっし つと
代筆事業が障害 福祉サービス・地域生活支援事業において実施されるよう努めます。

○ ちょうかく しょうがい でんわ そうだん こんなん ひと りよう でんわ りれーさーびす
聴覚 に障害 があり、電話での相談が困難な人が利用できるよう、電話リレーサービス
そうだん う つ けいさつそうごうそうだんしつ そうだんせんようふあつくす せつち じかん
での相談を受け付けるほか、「警察総合相談室」に相談専用ファックスを設置し、24時間
うけつけ おこな
受付を行います。

③ 選挙等における配慮等

しょうがい ひと せんきょけん えんかつ こうし せんきょとう かん じょうほうていきょう じゅうじつ
障害 のある人が選挙権 を円滑に行使できるよう、選挙等に関する情報 提供 の充実
とうひょうかんきょう こうじょう つと
や、投票環境 の向上 に努めます。

- 選挙公報の点字・音声版の配布など、点字・音声・インターネットを通じた選挙等に
関する情報提供の充実に努めます。

- 投票所の施設・設備のバリアフリー化や、代理投票制度の円滑な実施について、
市町村選挙管理委員会と協力して推進します。

- 投票所での投票が困難な人の投票機会を確保するため、指定病院等における
不在者投票制度の周知に努めます。

④ 行政機関等における配慮及び障害者理解の促進等

- 府民だよりや京都府ホームページ等を障害のある人も利用しやすくするとともに、援助
や配慮が必要なことが外見からは分かりにくい方が、周囲から援助等を受けやすくなるよ
う、ヘルプマークの普及を促進します。

- 府民だよりのバリアフリー化を図るため、文字拡大版、点字版、音声版を発行します。

<再掲 3(1)①>

- 京都府のホームページの内容をより工夫し、障害のある人に対して、有効な情報を
発信し、WEBアクセシビリティに配慮したホームページを構築します。 <再掲 3(1)①
>

- 聴覚に障害のある人の情報保障のため、コミュニケーション支援アプリ（UD
トーク）を広域振興局など府機関窓口を設置し、円滑な意思疎通や必要な情報提供
ができるよう環境整備を行います。 <再掲 3(1)②>

- 聴覚に障害があり、電話での相談が困難な人が利用できるよう、電話リレーサービス

での相談を受け付けるほか、「警察総合相談室」に相談専用ファックスを設置し、24時間
受付を行います。〈再掲 3(1)②〉

- 義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、援助
や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい方が、周囲の方に配慮を必要と
していることを知らせるためのヘルプマークの普及を促進します。

ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病の人、又は妊娠初期の人など、
援助や配慮を必要としていることが外見からはわからない人が、周囲の人に配慮を必要とし
ていることを知らせることで、援助を得やすくするためのマーク。

(2) 読書バリアフリーの充実

府立図書館、市町村立図書館、学校・大学図書館、点字図書館、当事者団体、行政などの
関係機関が連携し、視覚障害のある人等が利用しやすい書籍等の充実など、以下の取組を
推進します。

① 視覚障害者等による図書館の利用に係る体制整備

府立図書館は、市町村立図書館、学校・大学図書館、点字図書館（以下、「市町村立図書
館等」という。）との連携を図り、アクセシブルな書籍を充実させるため、既存の取組を
活用しつつ相互利用の拡大を図るとともに、施設・設備のバリアフリー化に一層
取り組みます。

市町村立図書館等において、読書支援機器などの活用や役割に応じたアクセシブルな

書籍が充実するよう、連携を図ります。

また、府立図書館では来館者が求める資料や情報を得られるよう、効果的な案内やカウン

ターサービスの向上など利用しやすい環境整備に一層取り組むとともに、市町村立

図書館等においても幼児期から障害をとおして各年齢に応じた図書や、研究・研鑽等に

必要な図書が利用しやすい環境となるよう、連携を図ります。

② インターネットを利用したサービスの提供 体制の強化

府立図書館は、視覚障害者情報総合ネットワークシステム「サピエ」、国立国会図書館

「視覚障害者等用データ送信サービス」等の障害者用資料検索システムの周知を図る

とともに、京都府図書館総合目録ネットワークの利用促進に向けた利用者への周知などの

取組を行います。併せて、市町村立図書館等と周知等において連携を図ります。

府立図書館、市町村立図書館等がダイジェスト図書などのアクセシブルな図書を収集した

場合、サピエや総合目録ネットワークに登録し、他館との相互利用が積極的に進むよう、

連携を図ります。

③ 特定書籍・特定電子書籍等の製作支援

関連機関等と協力して、点字・録音図書の製作支援を推進するとともに、アクセシブル

な図書を製作する団体・出版社等と、あらゆる場面で意見交換などを通じて、利用可能な

図書の拡大を目指します。

④ 端末機器等及びこれに関する情報の入手支援、情報通信技術の習得支援

あくせしぶる でんし しよせきなど りよう たんまつきき とう りよう かんけい じょうほう
アクセシブルな電子書籍等を利用するための端末機器等の利用にあたり、関係する情報
こうほう おこな しかく、しょうがい ひとどう ふりつ としよかん しちようそんりつとしよかん とう しょくいん
の広報を行うとともに、視覚障害のある人等、府立図書館、市町村立図書館等の職員、
きょういん こうしゅうかい かいさい
教員 などへの講習会を開催します。

⑤ せいさくじんざい としよかん さーび すじんざい いくせい 製作人材、図書館サービス人材の育成

とうじしゃ しえん だんたい た かんけいだんたいとう れんけい てんやくほうしいん おんやくほうしいん あくせしぶる
当事者・支援団体、その他関係団体等と連携して点訳奉仕員、音訳奉仕員、アクセシブル
でんし でーたせい さくしゃなど ようせい いくせい おこな
な電子データ製作者等の養成・育成を行います。

ししよ ししよ きょうゆ がっこうししよ とう ししつ こうじょう はか としよ しえん きき しよう ほうほう しょうがい
司書、司書教諭、学校司書等の資質の向上を図るため、図書支援機器の使用方法や障害
ふくし さーびす けんしゅうかい かいさい
福祉サービスの研修会を開催します。

ふりつ としよかん しちようそんりつとしよかん とう とうじしゃ しえんしゃ れんけい あいしーていーぎじゆつ かつようとう
府立図書館、市町村立図書館等、当事者・支援者との連携や、ICT技術の活用等に
たよう どうかしよけいたい たいおう じんざい いくせい はか
より、多様な読書形態に対応できる人材の育成を図ります。

さびえ サピエ

しかく、しょうがい ひと はじめ、め もじ よ こんなん ひと たい、さまさま
視覚障害のある人を始め、目で文字を読むことが困難な人に対して、様々な

じょうほう てんじ おんせいでーた ていきょう ネットワーク。
情報を点字、音声データなどで提供するネットワーク。

きょうとふ としよかん そうごうもくろく ネットワーク 京都府図書館総合目録ネットワーク

きょうとふない こうりつとしよかん どくしょしせつ だいがくとしよかんとうさんかかん しょぞうしりょう しょし、でーた
京都府内公立図書館・読書施設、大学図書館等参加館の所蔵資料の書誌データを

いつかつ けんさく きょうとふとしよかん そうごうもくろく ちゅうしん ふりつ としよかん うんこう れんらく
一括して検索できる「京都府図書館総合目録」を中心に、府立図書館が運行する連絡

きょうりょくしゃ つか さんかかん そうごきょうりょく そうごたいしゃく ささ ネットワーク。
協力車を使い、参加館の相互協力・相互貸借を支えるネットワーク。

とくていしよせき 特定書籍

ちよさくけんほうだい じょうだい こうまた だい こうほんぶん きてい せいさく しかく、しょうがい
著作権法第37条第1項又は第3項本文の規定により製作される視覚障害のある

ひととう りょう しょせき てんじ としよ かくだいとしよなど
人等が利用しやすい書籍（点字図書、拡大図書等）。

とくていでんし、しょせき 特定電子書籍

ちよさくけんほうだい じょうだい こうまた だい こうほんぶん きてい せいさく しかく、しょうがい
著作権法第37条第2項又は第3項本文の規定により製作される視覚障害のある

ひととう りょう でんし、しょせき だいじー としよ おんせいよ あ、たいおう でんし、しょせき
人等が利用しやすい電子書籍（ダイジー図書、音声読み上げ対応の電子書籍、

おーでいおぶく など
オーディオブック等）。

4 ぼうさい ぼうはんとう すいしん 防災、防犯等の推進

きほんてき かんが かつ 【基本的考え方】

しょうがい ひと ちいき しゃかい あんしん あんぜん く ぼうさい
障害のある人が地域社会において、安心して安全に暮らすことができるよう、防災

たいさく すいしん しょうがい ひと はんざいひがい しょうひしゃひがい まも ぼうはん
 対策を推進するとともに、障害のある人を犯罪被害や消費者被害から守るため、防犯
 たいさく しょうひしゃとらぶる ぼうし む とりくみ すいしん
 対策や消費者トラブルの防止に向けた取組を推進します。

(1) 防災対策の推進

さいがいじ じょうほうていきょう ひがい う こうれいしゃ しょうがい ひと
 災害時のわかりやすい情報提供や、被害を受けやすい高齢者、障害のある人などの
 ようはいりよしゃ てきせつ ひなん しえん しちょうそん とりくみ しえん ぼうさいたいさく すいしん
 要配慮者を適切に避難支援するための市町村の取組の支援など、防災対策を推進します。

○ ぎょうとふ さいがいじ ようはいりよしゃひなん しえん せんたー しちょうそんいき ふ けんいき こ
 京都府災害時要配慮者避難支援センターにおいて、市町村域や府県域を超える

だいきぼ こういささいがいじ びょういん しゃかいふくし しせつ とう ひなん うけいれ しえん
 大規模・広域災害時における病院、社会福祉施設等の避難・受入を支援します。

○ さいがいじ ひがい う こうれいしゃ しょうがい ひと ようはいりよしゃ あんしん
 災害時に被害を受けやすい高齢者、障害のある人などの要配慮者が安心して

す ひなん ぼしょ めざ ふくし ひなんじょ ふくし ひなん こーなー せっち しちょうそん とりくみ
 過ごせる避難場所を目指して、福祉避難所や福祉避難コーナーの設置など市町村の取組を
 しえん
 支援します。

○ ひなんじょ こみゆにけーしょん しえん ひつよう しょうがい ひと こうれいしゃとう はいりよ
 避難所においてコミュニケーション支援が必要な障害のある人や高齢者等に配慮し

たきき せいび そくしん
 た機器整備を促進します。

○ さいがいじ こうれいしゃ しょうがい ひと ようはいりよしゃ てきせつ しえん きょうとふ さいがい
 災害時に高齢者や障害のある人などの要配慮者を適切に支援できる京都府災害

はけん ふくし ちーむ ふくし ひなん さぽーとりーだー ようせい
 派遣福祉チームや福祉避難サポートリーダーを養成します。

○ こうれいしゃ しょうがい ひと ようはいりよしゃ てきせつ ひなん しえん しちょうそん
 高齢者や障害のある人などの要配慮者を適切に避難支援するため、市町村が

と く こべつひなん けいかくさくせいすいしん しえん
 取り組む個別避難計画作成推進を支援します。

○ きょうとふ こうほうてれび ほんぐみ らじお ほんぐみ こうほうし ふみん えすえぬえす
 京都府広報テレビ番組、ラジオ番組、広報紙「きょうと府民だより」、SNSや

ほーむぺーじ など かくしゅこうほうぼいたい かつよう しょうがい ひと ちいき しゃかい あんぜん
 ホームページ等の各種広報媒体を活用し、障害のある人が地域社会において安全に、

あんしん く ぼうはん さいがいじょうほう はんざい じこ あ じょうほう
安心して暮らすことができるよう、防犯や災害情報、犯罪や事故に遭わない情報を
はっしん
発信します。

- 府民の安心安全に寄与するため、防災防犯メールの利用促進が図られるよう、府から
じゅうみん じょうほうはっしん かくじゅう おこな しちょうそん たい しゅうち おこな しえん
住民への情報発信の拡充を行い、市町村に対しても周知が行えるよう支援していき
ます。

個別避難計画

こうれいしゃ しょうがいしゃ みずか ひなん こんなん ひなん こうどうようしえんしゃ さくせい ひなん しえん
高齢者や障害者など自ら避難することが困難な避難行動要支援者ごとに作成する避難支援

のための計画。

(2) 防犯対策の推進

ふあつくす めーる あぶり かつよう きんきゅうつうほう すいしん けいたいたんまつとう かつよう ぼうさい
ファックスやメール、アプリを活用した緊急通報の推進や、携帯端末等を活用した防災・

ぼうはんじょうほう ていきょう かくしゅこうほうばいたい かつよう はんざい こうつうじこ あ じょうほう
防犯情報の提供、各種広報媒体を活用した犯罪や交通事故に遭わないための情報の

はっしん ぼうはんたいさく すいしん
発信など、防犯対策を推進します。

- 聴覚及び言語機能に障害のある人が、犯罪被害や交通事故に遭ったり目撃したとき
みずか けいさつ つうほう めーる ぼんしすてむ ふあつくす ぼん
に、自ら警察に通報することができる「メール110番システム」「FAX110番
しすてむ およ ぼんあぶりしすてむ りべんせい こうじょう はか
システム」及び「110番アプリシステム」の利便性の向上を図ります。

- 防犯・犯罪発生情報等を希望する方に対して、タイムリーに携帯電話や
すまーとふぉん とう めーる はいしん ぼうはんいしき こうようとう つと
スマートフォン等へメール配信し、防犯意識の高揚等に努めます。

- 聴覚の障害のある人などが地域安全情報の提供を受ける機会を得られるよう、

えいぞうなど けいほつしりょうおよ たぶれつと たんまつ かつよう しゅわ けいさつしよくいんとう ぼうはん
映像等の啓発資料及びタブレット端末の活用や手話のできる警察職員等による防犯
きょうしつ かいさい ぼうはんしどう おこな
教室を開催し、防犯指導を行います。

- 京都府広報テレビ番組、ラジオ番組、広報紙「きょうと府民だより」、SNS や
ホームページ等^{など}の各種^{かくしゅ}広報媒体^{こうほうぼいたい}を活用し、障害^{しょうがい}のある人が地域社会^{ひと ちいき しゃかい}において安全^{あんぜん}に、
安心して暮らすことができるよう、防犯^{ぼうはん}や災害情報^{さいがいじょうほう}、犯罪^{はんざい}や事故^{じこ}に遭^あわない情報^{じょうほう}を
発信^{はっしん}します。〈再掲^{さいけい}4(1)〉

メール110番システム

聴覚^{ちょうかく}や言語機能^{げんごきのう}に障害^{しょうがい}のある方^{かた}でも110番^{ばん}通報^{つうほう}ができるよう、平成14年1月か

ら運用^{うんよう}を開始^{かいし}したインターネット回線^{いんたーねつと かいせん}を利用してメール^{めーる}のやりとりをする通報受理^{つうほうじゅり}

システム。

FAX110番システム

聴覚^{ちょうかく}や言語機能^{げんごきのう}に障害^{しょうがい}のある方^{かた}でも110番^{ばん}通報^{つうほう}ができるよう、平成2年10月か

ら運用^{うんよう}を開始^{かいし}したファックスによる通報受理^{つうほうじゅり}システム。

110番アプリシステム

聴覚^{ちょうかく}や言語機能^{げんごきのう}に障害^{しょうがい}のある方^{かた}でも110番^{ばん}通報^{つうほう}ができるよう、令和元年9月か

ら運用^{うんよう}を開始^{かいし}したスマートフォン等^{すまーとふおん}に専用^{とう せんよう}のアプリケーションプログラム^{あぶりけーしょんぷろぐらむ}を

ダウンロードし、氏名^{しめい}等を登録^{とうろく}することで使用可能^{しようかのう}となる文字^{もじ}等^{とう}による通報受理^{つうほうじゅり}

システム。

(3) 消費者トラブルの防止及び被害からの救済

障害のある人の消費者被害を防止するため、関係機関と連携した地域の見守り活動や、成年後見制度の利用促進などにより、障害のある方々に係る消費者トラブルの防止及び被害からの救済を図ります。

- 障害のある人の消費者被害を防止するため、京都府警察、市町村、福祉関連団体、事業者等地域の多様な主体と連携した見守り体制（消費者安全確保地域協議会）を構築し、地域での見守りの強化を図ります。

- 家庭裁判所、市町村、専門職団体等の関係団体と連携し、高齢者や障害のある人を消費者被害などから守る成年後見制度の正しい知識の周知を図り、制度の適切な利用を促進します。

消費者安全確保地域協議会

消費者安全法第11条の3に定める協議会。消費者安全の確保のための取組を効果的かつ

円滑に行うため、地方公共団体及び地域の関係者が連携して構築する。

5 保健・医療の推進

【基本的考え方】

障害のある人が身近な地域で必要な医療やリハビリテーションを受けられるよう、支援体制の充実を図るとともに、精神障害のある人が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神障害のある人への医療の提供・支援を可能な限り地域において行います。

(1) 保健・医療の充実等

高齢化が進み、障害の重度化・重複化の傾向が高まる中で、障害のある人が身近な地域で必要な医療やリハビリテーションを受けられるよう、地域医療体制等の充実を図ります。

- 障害のある人が住み慣れた地域や家庭において自立した生活が送れるよう、地域における障害児・者に対する医療・リハビリテーション提供体制の充実や医療・保健・福祉分野の関係機関の連携体制の強化を図り、継続的かつ適切なリハビリテーションが受けられるよう総合的なリハビリテーション提供体制を推進します。

- リハビリテーション関係者への研修等の実施や各圏域の地域リハビリテーション支援センターによる地域リハビリテーションの推進、府リハビリテーション教育センターによるかかりつけ医等に対するリハビリテーション教育の実施、府立医科大学リハビリテーション医学教室によるリハビリテーション専門医等の養成等総合的に施策を推進します。

- 障害のある人など社会的に弱い立場の人などへの医療費助成制度の拡充を図り、障害のある人の自立と社会参加を支援するとともに、市町村が実施する公費負担医療制度を支援することにより、障害のある人が安心して医療を受けられるよう努めます。

- 障害者施設入所者等を対象に、むし歯や歯周病を予防するため、歯科医師・歯科衛生士による歯科健診・保健指導等を実施します。

- 「京都歯科サービスセンター中央診療所」及び「京都歯科サービスセンター北部診療所」により、市町村と連携し、府内で暮らす障害のある全ての人々が安心して歯科

診療を受けられるように努めます。

- 認知症疾患医療センターを核とした認知症サポート医、一般病院、かかりつけ医等のネットワークを強化し、早期発見・早期対応できる体制を整備します。
- 臓器提供に関する京都府民の意思を尊重できるように、移植医療に関する正しい知識を普及・啓発するための、「意思（おも）いをつなぐグリーンリボン京都府民運動」を、関係機関・団体と共に推進します。また、臓器移植の専門職として、臓器移植コーディネーターを配置し、臓器提供発生時の対応や府民・医療従事者等の相談支援、移植医療に関する出前講座を行い、移植医療に関する理解の促進を図ります。

(2) 保健・医療を支える人材の育成・確保

障害のある人等が身近な地域で必要な医療の提供等を受けられるよう、医師・看護師等の育成・確保の取組を充実・強化します。

- 府内への就業を希望する理学療法士等養成施設の学生への修学資金の貸与、北部地域や介護系施設を含めたリハビリテーション就業フェア等の人材確保対策の実施やリハビリテーション従事者の資質向上のための研修会の開催、障害者施設等での受入研修等により人材育成に努めます。
- 高次脳機能障害の診断・治療に携わる医師（精神科、脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科等）が少ないことから、高次脳機能障害に係る専門知識や福祉的な支援に早期につながるよう精神保健福祉手帳の取得に必要な診断書作成などについての医療関係者向け研修会を実施します。

(3) 難病等に関する保健・医療施策の推進

難病患者に対し、総合的な相談・支援や地域における受入病院の確保を図るとともに、

在宅療養上の適切な支援を行うことにより、安定した療養生活の確保と難病患者及び

その家族の生活の質の向上を図ります。

- 在宅難病患者の生活の質の向上に向けて、保健所ごとに設置した「難病対策地域協議会」を中心にして、医療や生活に係る相談指導、難病に対する正しい知識の提供、患者同士の交流など、保健、医療、福祉サービスが効果的に提供できるようにネットワークを拡充するとともに、地域の総合的な支援体制の充実を図ります。

- 難病患者の病状や療養実態に即した支援が地域で適切に提供できるよう、「難病診療連携拠点病院」及び、「難病医療協力病院」を核に、各地域の「指定難病医療機関」等と相互のネットワーク体制を強化します。

- いわゆる難病のうち、指定難病については、治療が極めて困難であり、医療費も高額であることから、これらの疾患に関する医療の確立、普及を図るとともに、患者の医療費の負担軽減を図るため、「難病患者に対する医療等に関する法律」に基づき、保険診療の患者負担分の一部について公費負担を行います。

- 小児慢性特定疾病患者について、今後、成人難病への円滑な移行を推進するとともに、保育所や学校などの児童受入環境の整備を図るために関係機関による連携強化を図ります。

(4) 精神保健・医療の適切な提供等

せいしんしょうがい ひと いりょう ていきょう しえん かのう かぎ ちいき おこな せいしん
精神障害のある人への医療の提供・支援を可能な限り地域において行うとともに、精神

しっかん にゅういんちゅう ひと そうき たいいんおよ ちいき いこう すいしん しゃかいてきにゅういん かいしょう
疾患で入院中の人の早期退院及び地域移行を推進し、いわゆる社会的入院を解消するため

め、せいしんしょうがい ひと ちいき せいかつ しゃかいしげん せいび はか
め、精神障害のある人が地域で生活できる社会資源の整備を図ります。

○ こころ びょうき も かた しんたい びょうき へいはつ きゅうきゅうたいおう ひつよう ばあい いっばん
心の病気を持った方が、身体の病気を併発し救急対応が必要な場合に、一般

きゅうきゅうびょういん せいしんか びょういん れんけい えんかつ うけいれいりょうきかん ほんそう てきせつ ちりょう
救急病院と精神科病院が連携して、円滑に受入医療機関に搬送し、適切な治療が

う たいせいせいび すす
受けられる体制整備を進めます。

○ きんきゅう いりょう ひつよう せいしんしょうがい ひととう びょういんりんぱんたいせいとう
緊急に医療を必要とする精神障害のある人等のために、病院輪番体制等による

じかん せいしんか きゅうきゅうたいせい かくほ
24時間の精神科救急体制を確保します。

○ ふりつらく なんびょういん びょうとうさいせいび すす たようか せいしんか いりょうにーず たいおう
府立洛南病院の病棟再整備を進め、多様化する精神科医療ニーズに対応します。

○ いりょうきかん にゅういんかんじゃとう たい せいしんいりょうしんさかい じんけん はいりょ
医療機関における入院患者等に対して、精神医療審査会などにより、人権に配慮し

てきせつ しょうぐ かくほ
た適切な処遇を確保します。

○ つういんいりょうひ じよせいとう つう せいしんか いりょう じゅしん きかい ほしょう
通院医療費の助成等を通じて、精神科医療を受診する機会を保障します。

また、いりょうおよ ほんご にゅういん じしょうたがい おそ みと ばあい
また、医療及び保護のために入院させなければ自傷他害の恐れがあると認めた場合の

いりょうほんご えんかつ じっし いりょうひ ふたん けいげん はか
医療保護を円滑に実施するため、その医療費負担の軽減を図ります。

○ ざいたく せいしんしょうがい ひと しゃかいさんか そくしん せいしんほけんふくしそごうせんたー
在宅の精神障害のある人の社会参加を促進するため、精神保健福祉総合センターに

せいしんか けあ じっし どうよう しえん ふない かくち いりょうきかん じっし
において精神科デイ・ケアを実施するとともに、同様の支援が府内各地の医療機関で実施さ

とりくみ すいしん
れるよう取組を推進します。

(5) いぞんしょうたいさく すいしん 依存症対策の推進

あるこーる やくぶつおよ ぎゃんぶる いぞんしょうかんじゃ ちいき てきせつ いりょう う
アルコール、薬物及びギャンブルなどの依存症患者が地域で適切な医療を受けられるよう、
い りょうていきょうたいせい せいび はか かんじゃ かぞく にーず おう しゃかいふつき しえん
医療提供体制の整備を図るとともに、患者や家族のニーズに応じた社会復帰を支援します。

- じどう せいしんいりょう あるこーる やくぶついぞんしょう どう せんもんてき せいしんか いりょう
児童精神医療、アルコール・薬物依存症、てんかん等の専門的な精神科医療について、
きょうとふ ぜんたい たいおう いりょうていきょうたいせい せいび はか
京都府全体で対応できる医療提供体制の整備を図ります。
- やくぶついぞんしょうかんじゃ かぞくどう てきせつ いりょう しえん う えぬびーおー れんけい
薬物依存症患者やその家族等が適切な医療や支援を受けられるよう、NPOと連携
し、そうだんたいおうおよ しゃかいふつき しえん じっし
し、相談対応及び社会復帰支援を実施します。

6 じりつ せいかつ しえん いし けっていしえん じゅうじつ 自立した生活の支援・意思決定支援の充実

きほんてき かんが かつ
【基本的考え方】
みづか いし けっていおよ ひょうめい こんなん ひと ふく すべ しょうがい ひと たい
自ら意思を決定及び表明することが困難な人を含め、全ての障害のある人に対し、
ひつよう いし けっていしえん おこな しょうがい ひと みづか けってい もと みちか ちいき
必要な意思決定支援を行うとともに、障害のある人が自らの決定に基づき、身近な地域で
そうだんしえん う たいせい こうちく
相談支援を受けることのできる体制を構築します。
しょうがい ひと じりつ しゃかいさんか そくしん らいふすてーじ そ さまざま
また、障害のある人の自立と社会参加を促進するため、ライフステージに沿った様々な
せいかつじょう かだい にーず たいおう しえん たいせい せいび すす しょうがい ひと
生活上の課題やニーズに対応した支援体制の整備を進めるとともに、障害のある人の
じこ せんたく じこ けってい そんちょう りようしゃほんい しえん そくしん
自己選択や自己決定が尊重される利用者本位の支援を促進します。

(1) いし けっていしえん じゅうじつ 意思決定支援の充実

しょうがい ひと ひつよう しえん う みづか けってい もと しゃかい かつどう さんか
障害のある人が、必要な支援を受けながら、自らの決定に基づき社会の活動に参加するこ
とができ、みづか のうりよく さいだいげんはつき しえん おこな
とができ、自らの能力を最大限発揮できるよう支援を行います。

- しょうがいとう はんだんのうりよく ふじゅうぶん ひと たい ふくし きーびす りよう えんじよ ふくし
障害等により判断能力が不十分な人に対して、福祉サービス利用援助（福祉

サービスに関する情報 提供・助言、利用手続、利用料支払いの援助、日常的 金銭管理
等)を行うことにより、安心して地域で自立した生活が送れるように支援します。〈再掲
1(1)〉

- 認知症の人の生活に関わる関係者(医療・福祉・介護、法曹、金融機関等)に対する
研修の実施等により、認知症の人の意思決定を支援します。

(2) 相談支援体制の整備

障害のある人が、自らの決定に基づき、身近な地域で相談支援を受けることができる体制
を構築するため、様々な障害種別に対応した相談支援を提供する体制の整備を図ります。

- 各障害保健福祉圏域に障害者自立支援協議会を設置し、就労支援や医療的ケア、
精神障害、発達障害などの各専門部会を置いて、ゼネラルケアマネージャーを中心と
する関係機関等とのネットワークを構築し、困難事例等への広域的な対応を図ります。

- 相談支援の質の向上及びサービス等利用計画の適切な作成等を図るため、相談支援
従事者の養成、スキルアップを進めるとともに、相談担当職員等の支援を行う人材の
養成を図るなど、相談支援体制を充実します。

- 気軽に話ができる居場所づくり等を進めるとともに、精神保健福祉総合センターや
保健所等の心の健康相談の充実、地域で相談に応じる「こころの健康推進員」の養成、
夜間・休日の電話相談の充実等により、身近な相談体制を整備します。

- 発達障害者支援センターはばたきは、発達障害者圏域支援センターを束ねる専門
機関として、困難ケースへのスーパーバイズ等を担うとともに、発達障害者圏域支援

センター（府内6箇所）は、地域の中核的な支援機関として、圏域内のネットワークを作り、相談支援事業所等の支援を行うため、地域支援マネージャーを配置し、市町村・保育所等子育て支援機関・障害福祉サービス事業所等への指導・助言、各種支援により、人材育成や地域の支援体制の整備を行います。

○ また、発達障害児支援拠点（府内3箇所）において、学齢期の児童を中心とした相談支援を行うとともに、教育機関との連携強化を一層促進します。

○ 京都府医療的ケア児等支援センター（愛称「ことのわ」）において、医療的ケア児やその家族の相談に応じるとともに、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の各関連分野の支援が受けられるよう、関係機関等への情報の提供及び研修等の業務や連絡調整等、関係者が連携を図る協議の場を設け、総合的な支援体制を構築します。

○ 高次脳機能障害支援拠点における相談支援を継続して実施するとともに、高次脳機能障害に関わる医療機関、福祉サービス提供事業者等への研修や支援機関相互の連携会議により、地域における高次脳機能障害のある人への支援体制の充実を図ります。

○ 府保健所や難病相談・支援センターにおいて、難病患者等の相談・支援、地域交流活動の促進などを行うとともに、医療機関、患者団体及び行政機関等との連携を強めることにより、患者等の療養上、日常生活上の悩みや不安等の解消を図ります。

○ 就労支援など患者等の持つ様々なニーズに対応する相談・支援を実施することによ

り、難病 患者の社会参加を促進します。

○ 「京都府認知症 コールセンター」や「京都府若年性 認知症 コールセンター」など、身近に相談できる窓口の設置により、認知症の早期発見及び認知症の人やその家族の介護負担等の軽減を図ります。

○ 若年性 認知症 に関する相談 にワンストップ で対応 できる 若年性 認知症 支援 コーディネーターの設置や、関係機関とのネットワークの構築等により、若年性 認知症 の方やその家族が、必要な制度やサービスにつながる支援体制を整備します。

○ 児童虐待 やDV、非行、ひきこもりなど、複雑・多様化する家庭問題に迅速・的確に対応するため、「京都府家庭支援総合センター」を中心に関係機関の連携・協力のもと、家庭問題に関する総合的・専門的な相談支援を行います。

○ 障害のある人を含む性暴力の被害者や配偶者等からの暴力の被害者に対し、「京都性暴力 被害者ワンストップ相談支援センター 京都 SARA」や、配偶者暴力相談支援センターにおいて相談支援を行います。〈再掲 1(2)〉

○ 府内各市町村において、府民が抱える複雑・複合化した課題に対応するため、相談者や内容の属性に関わらず、重層的に支援する体制の構築を推進します。

○ 悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、専門機関等必要な支援につなげ、見守るゲートキーパーの養成を進めます。

○ 京都府自殺ストップセンターを運営し、自死・自殺を考えるなど、深刻な悩みを抱える

かたがた たい でんわ そうだん じっし たじゅうさいむ ろうどうもんだいとう そうだんないよう
方々に対する電話相談を実施します。また、多重債務や労働問題等、相談内容により
せんもんか たいおう ひつよう ばあい ほりつそうだん ろうどうそうだんとう せんもんそうだん つな けいぞく
専門家の対応が必要な場合は、法律相談や労働相談等の専門相談に繋ぐなど、継続した
そうだんしえん おこな
相談支援を行います。

- 府内の相談・支援機関からなるネットワーク「京のいのち支え隊」による連携、情報共有を進め、より良い相談・支援体制の構築を図る等の活動を通じて、「オール京都」体制での寄り添い支援を進めます。

- SNSを活用した相談窓口の広報など、若者向けの対策を一層推進します。

- 安全で不自由なく暮らせる住宅にするためにバリアフリー改修などの設計内容や工事方法について専門家が相談に応じる住宅相談を実施します。

- 特別支援学校を卒業した重度心身障害のある人等の日中活動の場となる生活介護事業等に対して、身体機能の低下などを予防できるよう、リハ専門職による訪問相談を行います。

- 府、市町村、警察、京都犯罪被害者支援センター等が一体となり、ワンストップで犯罪被害者等の支援を行うため、社会福祉士がコーディネートする支援調整会議を開催し、司法、心理、福祉の専門家の助言を踏まえた支援計画を策定して、被害者の状況変化に応じ見直しを行いながら中長期にわたり途切れることのない支援を行います。

医療的ケア

人工呼吸器による吸引管理、かくたん吸引その他の医療行為。

ゲートキーパー

自殺の危険を示すサインや深刻な悩みを抱えている人に気づき、声をかけ、話を

聞いて必要な支援につなぎ、見守ることができる人で、「命の門番」と言われている。

特別支援学校

障害のある幼児、児童、生徒に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に

準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立

を図るために必要な知識を授けることを目的とする学校。

(3) 地域移行支援、在宅サービス等の充実

障害のある人が個々のニーズや実態に応じて、自らの選択・決定により必要なサービスを

受けられるよう、市町村等との連携のもと、在宅サービス等の量的・質的な充実を図ります。

- 障害者総合支援法や児童福祉法に基づく障害福祉サービス等の実施計画である

本計画に定める障害福祉サービス等の必要量の確保に向け、市町村や関係機関等と

連携してサービス提供基盤の整備を図ります。

- 医療的ケアが必要な障害児者や重度障害児者に対し、医療型短期入所の受け入れを

行う医療機関への支援や、適正なサービス等利用計画の作成に対する支援を行い、地域

での生活が安心して継続できるよう環境の整備を図ります。

- 通院等の外出に支援を要する高齢者や障害のある人の移動手段を確保するための福祉有償運送事業者の車両購入に対する助成及び運転協力者養成講習を実施します。
- 在宅で安心して生活ができるよう、訪問リハビリテーション事業所の整備を推進します。
- 障害者総合支援法及び児童福祉法に基づくサービス体系に対応した事業所を確保するため、サービス提供に必要な支援を行います。
- 障害者自立支援協議会の意見等を踏まえ、グループホーム等の「住まいの場」の確保を図るとともに、生活介護、就労継続支援事業所等の「活動の場」を充実します。
- 障害のある人が必要なサービスを適切に選択できるよう、ホームページや「障害福祉のてびき」等を活用しつつ、市町村と連携して、制度の周知を図るとともに、障害福祉サービス等を行う事業者の情報提供に努めます。
- 創作的活動や生産活動の機会を提供し社会との交流促進などを行う地域活動支援センターの機能の充実強化を支援し、地域生活支援の促進を図ります。
- 施設入所者の地域生活移行に関する意向について、施設において移行の支障となっている要因や必要な支援を含めて把握し、適切に意思決定支援を行いつつ確認し、結果について関係機関と共有することを支援します。
- 医療的ケア児等については、医療・福祉・保育・教育など、多分野・多職種による連携した支援が必要であるため、府域・圏域・市町村域で医療的ケア児等の関係機関が連携

を^{はか}図るための^{きょうぎ}協議の^ば場を^{もう}設けるとともに、^{たぶんや}多分野に^{わた}渡る^{しえん}支援を^{そうごうちょうせい}総合調整する

^{こーでいねーたー}コーディネーターの^{はいち}配置を^{そくしん}促進します。

- ^{もう}盲ろう者の^{しや}自立と^{じりつ}社会参加を^{しやかいさんか}図るため、^{はか}コミュニケーション^{こみゆにけーしょん}及び^{およ}移動^{いどう}等の^{とう}支援^{しえん}を行う
^{つうやく}通訳・^{かいじょいん}介助員^{はけん}を派遣します。

- ^{せいしんほけん}精神保健福祉^{ふくし}総合^{そうごうせんたー}センターや^{ほけんじょ}保健所^{とう}等の^{ほけん}心の^{けんこうさうだん}健康相談^{じゅうじつ}を^{ちいき}充実するとともに、^{ちいき}地域^{ほけん}の^{きよてん}拠点^{ほけんじょ}である^{せいしんほけん}保健所^{ふくし}において、^{せいしんほけん}精神保健福祉^{ふくし}総合^{せんたー}センターの^{ぎじゅつしえん}技術支援^{うけ}を受けつつ、
^{ちいき}地域・^{しよくいきれんけいすいしんかいぎ}職域連携推進会議^{しょうがいしやじりつしえんきょうぎかいとう}や^{かつよう}障害者自立支援協議会^{さんぎょうほけんとう}等^を活用して、^{れんけいたいせい}産業保健^{こうちく}等との^{れんけい}連携体制^を構築^します。

- ^{たいいんご}退院後^{しえん}支援^{けいかく}計画^{さくせい}の^{ちいき}作成^{いこう}、^{しえん}地域移行^{ちいき}支援^{ちいき}・^な地域定着^{そうだんしえん}支援^{じゅうじしや}を^{ようせい}担う^{相談}相談^{支援}従事者^の養成^を、
^{たいいんご}退院後^{でいけあ}の^{ほうもんしえん}デイケア^{あうとりーち}や^{せいしんか}訪問支援^{きゅうきゅういりようたいせい}（アウトリーチ）^{じゅうじつ}、^{せいしんか}精神科救急^を医療体制^を充実^しすると
^{しょうがいしやじりつ}ともに、^{しえん}障害者^{きょうぎ}自立支援協議会^{とう}等^{をつう}を通じ、^{しょうがいしやふくし}障害者^{いりよう}福祉圏域^{きょうぎ}毎^の保健・福祉・医療^のの協議^を
^ばの^{せっち}場^にを設置^し、^{にゅういんかんじや}入院患者^{ちいき}の^{いこう}地域移行^{およ}及び^{たいいんかんじや}退院患者^{ちいき}の^{ていちゃく}地域定着^{すいしん}を^を推進^します。

- ^{ほうもん}訪問^{ひつよう}が必要な^{かぞく}家族^{たい}に対し、^{ほけんじょ}保健所職員^{しょういん}が^{ちゅうしん}中心^{めりでんぼん}となり、^{ほうもんかぞく}メリデン版^{しえん}訪問家族支援^のの
^{しゅほう}手法^{もち}を用いた^{かぞく}家族支援^{しえん}を^{じっし}実施^しするとともに^{けあらーあせすめんとひょう}ケアラーアセスメント票^{かぞく}（家族^のの
^{せるふちえつくひょう}セルフチェック票^{かつよう}）の^{ふきゅうけいはつ}活用・普及啓発^{ほけん}により、^{ふくし}保健・福祉・医療^{いりようかんけいしや}関係者^{かぞく}の^{しえん}家族支援^{すいしん}を^を推進^し
^します。

- ^{こうじ}高次脳機能^{のうきのう}障害^{しょうがい}のある^{ひと}人^{たい}に対し、^{いりよう}医療^{ふくし}、福祉^{ぎょうせい}、行政^{れんけい}の^{りはびり}連携^{いりよう}により、^{りはびり}リハビリ^{いりよう}医療^かから^{しゅうろう}就労^{けいぞく}まで^{さぼーと}を^{しくみ}継続^{きょうとふりつ}して^{しんしん}サポート^{しょうがいしやふくし}する^を仕組み^ををつくり^まます。^{きょうと}京都府立^{しんしん}心身障害者^{ふくし}福祉^{センター}センター^{せんたー}で^{せんもんがいらい}専門外来^{せいかつくんれんじぎょうしょ}と^{いったいてき}生活訓練事業所^{くんれん}が^{おこな}一体的^{とりく}に^{おこな}訓練^をを行う^を取組み^をを行います。

- 認知症が疑われる人などを適切な医療・介護サービスつなげるため、各市町村に設置された「認知症初期集中支援チーム」の運営・人材育成を図ります。
- 認知症の人やその家族が集う「認知症カフェ」の設置の拡大や運営の支援などにより、認知症の人の居場所づくりや社会参加を支援します。
- 認知症等による行方不明者を早期に発見するため、広域模擬訓練の実施など多様な搜索支援を行います。
- 認知症疾患医療センターや認知症カフェ等における「本人・家族教室」の開催を促進し、認知症の人やその家族がお互いに支えあうピアサポートの場づくりを推進します

メリデン版訪問家族支援

精神障害のある人とその家族が、自ら困難を切り抜けられるよう、問題を解決する手法を習得するための支援。

(4) 障害のある子どもに対する支援の充実

保健、医療、保育、教育、就労支援等の関係機関とも連携を図った上で、障害のある児童及びその家族に対して、乳幼児期から学校卒業まで一貫した支援を身近な地域で提供できる体制の構築を図ります。

① 重層的な地域支援体制の構築

- 障害児通所支援について、障害のある児童の障害種別や年齢別等のニーズに

おう みぢか ちいき ていきょう しちょうそん せつち かてい せんたー
応じて、身近な地域で提供できるように、市町村に設置されることも家庭センターと
れんけい しえん たいせい こうちく じどう はったつしえん せんたー ちゅうかく しょうがいじしえん たいせい
連携した支援体制の構築や、児童発達支援センターを中核とした障害児支援体制の
こうちく ちいき じつじょう おう すす
構築を、地域の実情に応じて進めます。

② 重症 心身障害児・医療的ケア児等に対する支援体制の整備

じゅうしょうしんしんしょうがいじ いりょうてきけあじ どう たい しえん たいせい せいび
○ 重症 心身障害児・医療的ケア児が身近な地域で児童発達支援や放課後等

でいきーびす じぎょう う ちいき かだい せいり ちいき しげん かいはつ じんざい
ダイサービス事業を受けられるよう、地域における課題の整理や地域資源の開発、人材
いくせいとう おこな しえん たいせい じゅうじつ はか
育成等を行いながら、支援体制の充実を図ります。

きょうとふ いりょうてきけあじ どうしえん せんたー あいしょう いりょうてきけあじ
○ 京都府医療的ケア児等支援センター（愛称「ことのわ」）において、医療的ケア児や

かぞく そうだん おう じょうほう ていきょう じよげんどう おこな ほけん いりょう しょうがい
その家族の相談に応じるとともに、情報の提供、助言等を行い、保健、医療、障害

ふくし ほいく きょういくとう かくかんれんぶんや しえん う かんけいきかん どう じょうほう
福祉、保育、教育等の各関連分野の支援が受けられるよう、関係機関等への情報の

ていきょうおよ けんしゅうとう ぎょうむ れんらくちょうせいとう かんけいしゃ れんけい はか きょうぎ ぼ もう そうごうてき
提供及び研修等の業務や連絡調整等、関係者が連携を図る協議の場を設け、総合的

しえん たいせい こうちく
な支援体制を構築します。

みぢか ちいき かぞく れすぱいと きのう かくほ いりょうがたんきにゅうしょう
○ 身近な地域で家族のレスパイト機能を確保できるように、医療型短期入所等における

うけいれたいせい じゅうじつ きんきゅうじ さいがいじ いりょうてきけあじ どう たい ちいき しえん
受入体制の充実や、緊急時・災害時における医療的ケア児等に対する地域での支援

たいせい きょうか すす
体制の強化を進めます。

ちいき いりょうてきけあじ どう にーず かんあん そうだんしえん せんもんいん いりょうてきけあじ しえん
○ 地域の医療的ケア児等のニーズを勘案し、相談支援専門員など、医療的ケア児支援に

かか かんれんぶんや そうごうてき ちょうせい いりょうてきけあ じとうこーでいねーたー はいち
係る関連分野を総合的に調整する医療的ケア児等コーディネーターを配置できるように、

けんしゅうじつしゅう じんざい かくほ しつ こうじょう は か そうだんしえんていきょうたいせい こうちく
研修実施等により人材の確保、質の向上を図りながら、相談支援提供体制の構築を

はか
図ります。

- 強度行動障害^{きょうどこうどうしょうがい}や高次脳機能障害^{こうじのうきのうしょうがい}を有する障害児^{ゆうしょうがいじ}に対して適切な支援^{たいてきせつしえん}ができるよう、地域の支援ニーズ^{ちいきしえんにいず}を把握^{はあく}し、課題の整理^{かだいせいり}や専門的人材育成^{せんもんてきじんざいいくせい}、地域の関係機関^{ちいきかんけいきかん}と連携^{れんけい}をはかりつつ、支援体制^{しえんたいせい}の構築^{こうちく}を進めます^{すす}。

レスパイト

家族^{かぞく}による一時的ケア^{いちじてきけあ}を代替^{だいたい}してリフレッシュ^{りふれっしゅ}してもらうこと。

強度行動障害

自傷^{じしょう}、他害^{たがい}、こだわり^{こわ}、もの壊し^{すいみん}、睡眠の乱れ^{みだ}、異食^{いしょく}、多動^{たどう}など本人^{ほんにん}や周囲^{しゅうい}の人のくらし

に影響^{えいきょう}を及ぼす行動^{およこうどう}が、著しく高い頻度^{いちじるたかひんど}で起こるため、特別^{とくべつ}に配慮^{はいりよ}された支援^{しえん}が必要^{ひつよう}にな

っている「状態^{じょうたい}」。

③ 難聴児支援のための中核的機能^{なんちようじしえんちゅうかくてききのう}を有する体制^{ゆうたいせい}の構築等^{こうちくどう}

- 難聴児^{なんちようじ}の早期発見^{そうきほっけん}・早期療育^{そうきりょういく}を総合的^{そうごうてき}に推進^{すいしん}するための計画^{けいかく}は、本計画^{ほんけいかく}に盛り込む^{もりこ}こととし、難聴児支援^{なんちようじしえん}のための早期発見^{そうきほっけん}・早期療育^{そうきりょういく}を総合的^{そうごうてき}に推進^{すいしん}するため、市町村^{しちょうそん}、児童発達支援センター^{じどうはったつしえんせんたー}、特別支援学校等^{とくべつしえんがっこうどう}と連携^{れんけい}した中核的機能^{ちゅうかくてききのう}を果たす体制^{はたいせい}の確保^{かくほ}を進め^{すす}、新生児聴覚^{しんせいじ}スクリーニング検査^{ちようかくすくりにんぐ}から療育^{けんさ}につなげる体制整備^{りょういく}のための協議^{たいせいせいび}の場の設置^{きょうぎ}や療育^ぼを遅滞^{せっち}なく実施^{りょういく}するための体制整備^{ちたい}、難聴児^{じっし}及びその家族^{たいせいせいび}への切れ目^{なんちようじおよ}のな^{かぞく}の切^きれ目^めのな^めい支援^{しえん}の充実^{じゅうじつ}を図ります^{はか}。

- 学齢期前^{がくれいきまえ}の聴覚^{ちようかくしょうがいじ}障害児^{ちようかく}に聴覚^{しどうとう}・ことばの指導等^{おこな}を行い、手話等^{しゅわとう}の言語能力^{げんごのうりよく}・コミュニケーション能力^{こみゆにけーしょん}の獲得^{のうりよく}に向けた支援^{かくとく}を行うとともに、保護者^むに対する相談支援^{しえん}等^{おこな}を実施^{ほごしゃ}します^{たい}。

○ 身体障害者手帳の対象とならない軽・中等度の難聴児に対し、補聴器給付事業を実施し、対象児の成長発達を促します。

○ 認識力・探索力を養い、経験を広げるための取組を支援します。

○ 小児リハビリテーションの先端病院などでリハビリテーション専門職を受入れ、
実地研修を行い人材育成を図るとともに、小児リハビリテーション関連施設についての
情報発信に努めます。

④ 障害児の地域社会への参加・包容（インクルージョン）の推進について

○ 全ての子どもが、障害の有無にかかわらず、様々な遊び等を通じて共に過ごし、
それぞれの子どもが互いに学び合い、共に成長できるように、地域社会への参加・包容
（インクルージョン）を推進します。

○ 児童発達支援センターが保育所や認定こども園等に対して専門的支援や助言を行う
とともに、地域の障害児通所支援事業所等が、保育所等訪問支援等を活用しながら、府内
全域において、障害児の地域社会への参画・包容を推進する体制の構築を目指します。

○ 医療的ケア児等が地域の中で健やかに育ち、全ての子育て世帯が安心して必要な
サービスを利用できるように、医療機関等と連携した子育て支援体制の推進、看護師の
確保、たん吸引を行うことのできる保育士の養成などを推進します。

⑤ 保育、保健医療、教育、就労支援等の関係機関と連携した支援

○ 障害児通所支援の体制整備にあたり、保育所や認定こども園等の子育て支援施策と
の連携を図ると共に、障害のある児童の支援並びに健全な育成を進めるため、市町村

に設置されることも家庭センターや、子育て支援や医療担当部署との連携体制を確保します。また、卒業時及び就業時において、支援の円滑な引継ぎのため、学校、障害福祉サービス事業所の連携や、教育委員会等との連携体制を強化します。

- 学齢期前までの視覚障害児に基本的な生活習慣の取得、集団生活などの訓練を行い、社会生活に適応するための基礎習得を支援するとともに、保護者に対する相談支援等を実施します。

(5) 発達障害児・者への支援の充実

発達障害のある人が、身近な地域で安心して生活ができるよう、発達障害の早期発見・早期療育支援を進めるとともに、医療提供体制の充実、京都府発達障害者支援センターはばたきや発達障害者圏域支援センターを中心とした地域での支援体制の整備など、ライフステージを通じた支援体制の充実を図ります。

① 乳幼児期における早期発見・早期療育支援実施

- 市町村が、子ども家庭支援センターを中心とした子育て世帯への包括的な支援体制及び児童発達支援センターを中心とした地域の障害児支援体制を整備し、民間事業者とも連携しながら、早期発見・早期支援のための地域支援体制の整備の充実を図れるように、地域のニーズに応じた専門職人材の育成・確保を進めます。
- 発達障害児の早期発見・早期支援には、発達障害児とその家族等への支援も重要であることから、各地域において、保護者等が発達障害の特性を理解し、必要な知識や方法を身につけ、適切な対応ができるよう、ペアレントトレーニング等の家族等に対する支援体制の構築を進めます。

- 就学前 までの子どもの発育・発達の支援に関わる従事者を対象に、各保健所が地域の特性に応じ、子どもの発育・発達の支援に関わる研修会等を企画・実施します。

② 医療提供体制の充実

- 発達障害の診断・診療を行う医師の育成、医療提供体制の整備のため、「医療的支援を必要とする子どもと保護者が速やかに診療へ繋がる医療提供体制」及び「医師確保が困難な北部地域も含め、府全域における持続性のある医療提供体制」の構築を進めます。

③ 相談体制の充実

- 発達障害者支援センターはばたきは、発達障害者圏域支援センターを束ねる専門機関として、困難ケースへのスーパーバイズを担うとともに、職能団体と連携して、各地域で必要となる専門職育成等の役割を担います。
- 発達障害者圏域支援センターは、地域の中核的な支援機関として、圏域内のネットワークを作り、相談支援事業所等の支援を行うため、地域支援マネージャーを配置し、地域資源の把握や圏域課題を明らかにし、市町村・保育所等子育て支援機関・障害福祉サービス事業所等への指導・助言、各種支援を通じた地域の人材育成等により、地域の支援体制の整備を行います。
- 学齢期の児童を中心とした寄り添い型の相談支援については、府内の専門医療機関における初診待機期間の解消と併せ、医療、福祉、相談をトータルパッケージで提供できる「発達障害児支援拠点」の機能強化や、教育機関との連携強化を一層促進します。

- 学齢期前の聴覚障害児に聴覚・ことばの指導等を行い、手話等の言語能力・コミュニケーション能力の獲得に向けた支援を行うとともに、保護者に対する相談支援等を実施します。〈再掲 6(4)③〉

- 学齢期前までの視覚障害児に基本的な生活習慣の取得、集団生活などの訓練を行い、社会生活に適応するための基礎習得を支援するとともに、保護者に対する相談支援等を実施します。〈再掲 6(4)⑤〉

④ 関係機関相互のネットワーク形成及び普及啓発等の推進

- 「京都府発達障害者支援体制整備検討委員会」等において、本府発達障害児・者施策の方向性の議論と発達障害児・者支援に係る関係機関のネットワーク形成を推進するとともに、関係団体と共同した普及啓発活動を実施し、4月2日の「世界自閉症啓発デー」を始めとした発達障害の理解促進や家族支援の充実に努めます。

ペアレントトレーニング

ほめられることで子どもが達成感を味わい、自信を深め、将来の生きる力を育めるよう、

保護者等を対象に子どものほめ方のトレーニングをする教室。

(6) 障害福祉サービスの質の向上等

- 障害福祉サービス等の質の向上を図るため、サービスを提供する職員への研修、事業者に対する適切な苦情解決の推進、第三者評価の適切な実施等に努めます。

- 障害福祉サービス等が円滑に実施されるよう、サービスを提供する事業者の指導・

監督を適切に行うとともに、介護職員による喀痰吸引等の医療的ケアに関する研修、ヘルパーの養成研修、相談支援従事者の養成・確保を推進する研修など、サービス提供人材の確保と質の向上を図ります。

- 福祉サービスに関する利用者等からの苦情を適切に解決するため、事業者における適切な苦情解決の促進を図るとともに、事業者段階では解決の困難な苦情については、公正・中立な第三者機関である運営適正化委員会を設け、福祉サービスに関する苦情解決の体制整備とその適正な運用を図ります。

- 京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構（平成17年10月14日発足）のもとでの第三者評価の推進を図り、利用者本位のより質の高い介護・福祉サービスを安心して選択できる環境づくりを一層推進します。

(7) 福祉用具その他のアクセシビリティの向上に資する機器の普及促進及び身体障害者

補助犬の育成等

補装具や日常生活用具の給付・貸付、介護・リハビリのための機器の普及促進、身体障害者補助犬法に基づく補助犬の育成等を推進します。

- 障害のある人の日常生活や社会生活の向上を図り、社会参加を支援するため、補装具の給付や日常生活用具の給付・貸付を実施する市町村に対し財政支援等を行います。

- 医療機器だけでなく介護・福祉人材の不足解消や身体的・精神的負担の軽減等のため介護・福祉ロボットも含めた先端機器の普及促進や新たなリハビリテーション技術

ひろ けんしゅうとう じっし
広めるための研修等を実施します。

- 身体障害者 補助犬の育成及び訓練等を行う法人に対する助成を実施します。

(8) 障害 福祉を支える人材の育成・確保・定着

しょうがいふくし さーびす どう えんかつ じっし さーびす ていきょう じんざい ようせい かくほ
障害 福祉サービス等が円滑に実施されるよう、サービスを提供 する人材の養成・確保と
しつ こうじょう はか
質の向上 を図ります。

- きょうとふ じりつ しえんきょうぎかい せんもんぶかい じんざいいくせいぶかい せっち そうだんしえん じゅうじしゃ
京都府自立支援協議会の専門部会として人材育成部会を設置し、相談支援従事者
ようせいけんしゅう さーびす かんり せきにんしゃとうけんしゅうとう しどうしゃ じんざいいくせい はか すきーむ こうちく
養成研修、サービス管理責任者等研修等の指導者の人材育成を図るスキームを構築
します。

- しょうがい ひと ちいき あんしん く せいしん しょうがい ひと ちょうかく しかく
障害のある人が地域で安心して暮らせるために、精神に障害のある人、聴覚や視覚
しょうがい ひと しょうがいとくせい おう へるぼー じんざい ようせい かくほ はか
に障害のある人など障害特性に応じたヘルパーなどの人材の養成・確保を図ります。

ちてき しょうがいまた せいしんしょうがい こうどうじょう こんなん ゆう しょうがい ひと きげん
また、知的障害 又は精神障害 で行動上の困難を有する障害のある人が危険を
かいひ ひつよう えんご おこな もの ようせい
回避するために必要な援護を行う者を養成します。

- しょうがい ひと ちいき せいかつ さき しかく しょうがい ひと どうこうえんご
障害のある人の地域生活を支えるため、視覚に障害のある人のための同行援護
じゅうじしゃ てんやくほうしん ろうどくほうしん など ようせいじぎょう じゅうじつ はか じんざい ようせい かくほ
従事者や点訳奉仕員、朗読奉仕員等の養成事業の充実を図るなど、人材の養成・確保
つと さいけい
に努めます。〈再掲 3(1)②〉

- しょうがい ひと もつと みぢか そうだんしゃ しんたいしょうがいしゃそうだんいん ちてき しょうがいしゃ
障害のある人にとって最も身近な相談者である身体障害者 相談員、知的障害者
そうだんいんおよ けんこうすいしんいんなら じょうれい ちいき そうだんいん けんしゅうじぎょう
相談員及びこころの健康推進員並びにいきいき条例による地域相談員の研修事業を
じゅうじつ そうだんいん ししつ こうじょう かつどう じゅうじつ はか
充実し、相談員の資質の向上と活動の充実を図ります。

- しょくいん しょうがいぜんどう しょくばかんきょう せいび しょうがいふくし げんぼ はらすめんと
職員の処遇改善等による職場環境の整備や障害福祉現場におけるハラスメント

たいさく あいしーてー ろぼっと どうにゆう じむ ふたん けいげん ぎょうむ こうりつか しえん
対策、ICT・ロボットの導入による事務負担の軽減、業務の効率化を支援します。

- 認知症を正しく理解し、適切に対応できるよう、かかりつけ医や看護師、医療関係者等の認知症対応力向上研修を実施します。

- 認知症の人の介護を実践する施設・居宅サービス事業所の実務者及び指導者を対象として、実践者研修、リーダー研修等を実施します。

II 希望に添って働き続けることができる社会

7 雇用・就業、経済的自立の支援

【基本的考え方】

はたら いよく しょうがい ひと てきせい おう のうりよく じゅうぶん ほっき
働く意欲のある障害のある人が、その適性に応じて能力を十分に発揮することがで
きるよう、多様な就業の機会を確保するとともに、福祉的就労の工賃の水準が向上
するような支援等を通じて、福祉的就労の充実を促進します。

(1) 総合的な就労支援

きょうとじよぶぱーく こーなー ちゅうしん しょうがい ひと しゅうろう かん そうだん
京都ジョブパーク「はあとふるコーナー」を中心に、障害のある人の就労に関する相談
から能力開発・向上、定着支援までの総合的な取組を、福祉、教育機関等との
ネットワークを強化して推進します。

- 京都ジョブパーク「はあとふるコーナー」を中心に、相談から就職準備支援、職場体験・実習、職場定着支援まで、福祉、教育、医療など様々な関係機関と連携し、障害の特性に応じたきめ細かな就労支援を行います。

- 身近な地域に設置された障害者 就業 ・生活支援センターにおいて、障害 のある人の生活支援や職場定着 支援などを行います。

(2) 経済的自立の支援

特別障害者 手当や特別給付金の支給等により、障害 のある人及びその家族に対する経済的負担の軽減等を図ります。

- 特別障害者 手当、障害児 福祉手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当等の各種 手当を支給し、障害 のある人及びその家族の経済的 ・精神的負担の軽減を図ります。
- 国民年金制度の改正時に、制度の対象 とならなかった在日外国人の無年金障害者 に対して、国が措置するまでの間 の経過的措置として特別給付金を支給します。

(3) 障害者 雇用の促進

障害 のある人が、その適性と能力 を十分に発揮することができるよう、企業との協働による雇用の場の創出 と拡大を図るとともに、障害者 雇用に積極的 に取り組む企業を応援する取組などを推進し、障害者 雇用の促進をします。

- 「京都障害者 雇用企業サポートセンター」において、企業に障害者 雇用に関する専門スタッフを派遣し、コンサルティングや企業内の障害者 雇用支援人材を育成するなど、就労 から雇用管理、定着 支援まで総合的に支援します。

- 特例子会社や障害 のある人を多数雇用する事業所の創設に対する支援を行うとともに、セミナー、見学会等を開催し、特例子会社等の設立の促進や、中 小企業 の連携 ・

共同きょうどうによる障害者しょうがいしゃ雇用の拡大かくだいを促進そくしんします。

- 障害しょうがいのある人ひとを雇用こようするために必要ひつようとなる施設しせつ又は設備また せつび等の整備とう せいび及び定着およ ていちゃくの取組とりくみをする事業主じぎょうぬしに対して、必要たいしてな整備ひつよう せいびに要する経費よう けいひを補助ほじょすることにより、障害しょうがいのある人ひとの安定的な雇用あんていてき こようの確保かくほと就労しゅうろうの機会きかいの拡大かくだいを図ります。
- 府庁ふちようの職場しょくばにおいて、あらゆる障害しょうがいのある人ひとの雇用こようや職場実習しょくばじっしゅうを積極的せっきよくてきに推進すいしんし、その実務経験じつむ けいけんをもとに一般企業いっぱんきぎょうへの就労しゅうろうにつなげます。
- 障害しょうがいのある人ひとの雇用こように積極的せっきよくてきに取り組む企業と く きぎょうを「京都はあとふる企業きょうと きぎょう」として知事ちじが認証にんしょうし、認証企業にんしょうきぎょうが実践じっせんしている働きやすい職場づくりの先進事例はたら しょくば せんしんじれいをホームページなどほーむぺーじで紹介しょうかいすることにより、障害者雇用しょうがいしゃこようへの機運きうんを高め、府内企業たか ふない きぎょうへの普及・啓発ふきゅう けいはつを図ります。
- 障害しょうがいのある人ひとの雇用こようの実例じつれいやインターシップいんたーしっぷの進め方すす かつ、指導しどうノウハウのうほうを学ぶセミナーまな せみナーの開催かいさいなど、インターシップいんたーしっぷの実施じっしを支援しえんすることで雇用こようを促進そくしんします。
- 重度障害じゅうどしょうがいがある人ひとの就労機会しゅうろうきかいの拡大かくだいや就労継続しゅうろうけいぞくを支援しえんするため、雇用施策こよう しやくとの連携れんけいによる重度障害者等就労支援特別事業じゅうどしょうがいしゃとうしゅうろうしえん とくべつじぎょうを実施する市町村じっしへの支援しちょうそん しえんに取り組とみます。

特例子会社とくれいこがいしゃ

雇った障害やと しょうがいのある人ひとを親会社おやがいしゃの雇用こようとみなして雇用率こようりつに合算がっさんできる子会社こがいしゃのこと。障害しょうがいのある人ひとが5人以上にんいじょうで、従業員じゅうぎょういんに占める割合し わりあいが20%ばーせんといじょう以上じょうけんであることなどの条件じょうけんを満たした場合は、厚生労働大臣こうせいろうどうだいじんが認定にんていする。

(4) 障害 特性に応じた就労 支援及び多様な就業 の機会の確保

障害 のある人の雇用・就労 を促進するため、障害 特性に応じた就労 支援の充実・強化
を図るとともに、就職 を希望する人の能力 向上 など就業力 強化の取組等を推進しま
す。

○ 京都ジョブパーク「はあとふるコーナー」を中心 に、相談から就職 準備支援、職場

体験・実習、職場定着 支援まで、福祉、教育、医療など様々な関係機関と連携し、

障害 の特性に応じたきめ細かな就労 支援を行います。〈再掲7(1)〉

○ 高等技術専門校において、障害 のある人の就業力 の強化と安定雇用を目指し、

それぞれの障害 特性に応じた職業 訓練を行い、人材育成の強化を図ります。

○ 国の離職者等再就職 訓練 (委託訓練) 事業を活用し、それぞれの障害 特性に

合わせた訓練や支援メニューの充実・多様化を図ります。

○ IT を活用して就労 可能な技術を身につけるための研修 を開催するとともに、

就労 を希望する修了者 等をIT サポートセンターに登録し、仕事の受注、仕事の

配分等を実施します。

○ 北部リハビリテーション支援センターにおいて高次脳機能障害 の支援

コーディネーターによる職業 能力 評価を行い、復職 や就職 が円滑に進むように

支援します。

○ 障害 のある人が日ごろ培った職業 技能を競い合い、職業 能力 の向上 とともに、

障害 のある人に対する理解と認識 を深め、雇用の促進を図ることを目的として、

あびりんびつく きょうとたいかい まいとしかいさい きょうぎしゆもく じゅうじつ さんか じぎょうしょ
アビリンピック京都大会を毎年開催するとともに、競技種目の充実や参加事業所、
いっばんらいじょうしゃ ぞうだい つと
一般来場者の増大に努めます。

ぜんこくしょうがいしゃぎのう きょうぎたいかい だいひょうせんしゅはけん しえん
また、全国障害者技能競技大会の代表選手派遣などを支援します。

(5) 福祉的就労の充実

ふくし しょうぼ はたら しょうがい ひと じりつ しゃかいさんか しえん みんかんきぎょうなど れんけい
福祉の職場で働く障害のある人の自立と社会参加を支援するため、民間企業等とも連携し

て、こうちんこうじょう とりくみ すいしん しょうがいしゃしゅうろうしせつ とう ていきょう ぶっぴん
工賃向上の取組を推進するとともに、障害者就労施設等の提供 する物品・

さーびす ゆうせんちょうたつ せっきょくてき すいしん ふくしてき しゅうろう じゅうじつ はか
サービスの優先調達を積極的に推進するなど、福祉的就労の充実を図ります。

○ ふ ちょうしゃないとう じょうせつはんばいこーなー せつち ふない しゅうろうけいぞくしえん じぎょうしょとう
府庁舎内等において常設販売コーナーを設置し、府内の就労継続支援事業所等の

ほっとはあと せいひん はんばい
ほっとはあと製品を販売します。

○ ふくし じぎょうしょ しんしょうひんかいはつ ぶらんどか さぽーと きょうどうはつちゅう かくだい
福祉事業所における新商品開発やブランド化へのサポート、共同発注の拡大、

あいしーていー かつようとう こうふか かちか せいさんせいこうじょう つう ふくしてき しゅうろう
ICTの活用等による高付加価値化や生産性向上を通じて福祉的就労における

こうちんこうじょう そくしん
工賃向上を促進します。

○ しょうがいしゃゆうせんちょうたつすいしんほう もと きょうとふ しょうがいしゃしゅうろうしせつ とう ていきょう
障害者優先調達推進法に基づき、京都府において、障害者就労施設等の提供す

る物品・サービスの優先調達を積極的に推進します。

また、ふない しちょうそん せっきょくてき とりくみ はたら
また、府内市町村へも積極的な取組を働きかけます。

(6) 京都式農福連携の推進

きょうとしきのうふくれんけい すいしん
「京都式農福連携・6次産業化プロジェクト」を創設し、障害者の就農・就労人材を育成

するチャレンジ・アグリ認証を、さらに普及拡大するとともに、のうふくれんけいせいひん じ さんぎょうか
するチャレンジ・アグリ認証を、さらに普及拡大するとともに、農福連携製品の6次産業化

ぶらんどか しえん きょうとしきのうふくれんけいじぎょう い のうぎょうぶんや しゅうろう そくしん
やブランド化を支援し、京都式農福連携事業を生かした農業分野での就労を促進します。

6次産業化

いちじ さんぎょう としての 農業 と、にじ さんぎょう としての 製造業 、さんじ さんぎょう としての 小売業 等の

じぎょう と総合的 かつ 一体的 な推進を図り、ちいき しげん を活用した新たな付加価値を生み出す

とりぐみ おも じれい として、のうさんかこう、しんしょうひんかいはつ 開発、こみゅにていかふえ などがあげられる。

Ⅲ 生涯を通じて学び続けられるとともに、文化芸術 やスポーツなどの分野で一人ひとりの特性

を活かして活躍できる社会

8 生涯を通じて学び続けられる環境の整備

【基本的考え方】

しょうがい の有無によって分け隔てられることなく、かのう かぎ とも きょういく を受けることのできる仕組みの整備を進めるとともに、しょうがい のある人が、がっこうそつぎょうご も含めたその一生を

つう じて、みずか かのうせい につきゅう できる環境を整え、ちいき いちいん として豊かな人生を送ることができるよう、しょうがい を通じて教育 やスポーツ、ぶんか とう さまざまな機会に親しむための

せさく を推進します。

また、しょうがい のある児童生徒としょうがい のない児童生徒とのこうりゅうおよ 及び共同 学習 などを

つう じて、しょうがい のある人とない人とのそうごりかい そくしん を図ります。

(1) インクルーシブ教育システムの推進

きょうとふ きょういくしんこうばん に基づき、しょうがい の有無に関わらず児童生徒一人ひとりのじりつ や

しゃかいさんか めざ しゅうがくまえ そつぎょうご いっかん きょういく すいしん しりつ
社会参加を目指し、就学前 から卒業後 までの一貫した教育 を推進するほか、私立
こうとうがっこう たい うんえいじよせい つう しゅうがくそくしんとう はか
高等学校 等に対する運営助成を通じて就学 促進等を図ります。

- 特別な支援を必要とする児童生徒数が増加し、様々な教育的 ニーズが求められている
なか いんくるーしぶ きょういくしすてむ りねん こうちく む しょうがい じどう せいと しょうがい
中、インクルーシブ教育 システムの理念の構築に向けて、障害 のある児童生徒と障害
のない児童生徒が可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求 するとともに、一人ひとりの
じどう せいと かのう かぎ おな ぼ とも まな ついきゅう ひとり
の児童生徒が可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求 するとともに、一人ひとりの
きょういくてきにーず もっと てきかく こた しどう ていきょう たよう じゅうなん しく
教育的 ニーズに最も的確に 応える指導を提供 できるよう、多様で柔軟 な仕組みの
せいび すいしん
整備を推進します。

- 発達障害 を含む障害 のある子どもへの切れ目ない支援を行うため、京都府
はったつしょうがい ふく しょうがい こ き め しえん おこな きょうとふ
発達障害 を含む障害 のある子どもへの切れ目ない支援を行うため、京都府
すーぱーさぽーとせんたー かくふりつとくべつしえん がっこう せっち ちいき しえん せんたー かく
スーパーサポートセンターと各府立特別支援学校 に設置された地域支援センターが核と
なつてせんもんてき ぎじゆつ かつよう かんけいきかん れんけい はか こ ほごしゃ きょういん ちいき
なって専門的な技術を活用し、関係機関と連携を図り、子ども・保護者・教員 ・地域を
しえん
支援します。

- 障害 のある幼児が就園 している私立幼稚園に対する運営費を助成し、障害 のある
しょうがい ようじ しゅうえん しりつようちえん たい うんえいひ じよせい しょうがい
障害 のある幼児が就園 している私立幼稚園に対する運営費を助成し、障害 のある
ようじ しゅうえんそくしん ようじ きょういく しんこう はか
幼児の就 園促進と幼児教育 の振興を図ります。

- 障害 のある生徒が在籍 している私立高等学校 に対する運営費を助成し、障害 のある
しょうがい せいと ざいせき しりつこうとうがっこう たい うんえいひ じよせい しょうがい
障害 のある生徒が在籍 している私立高等学校 に対する運営費を助成し、障害 のある
せいと しゅうがくそくしん はか
生徒の就学 促進を図ります。

インクルーシブ教育 システム (障害者 の権利に関する条約 第24条)

にんげん たようせい そんちやうとう きょうか しょうがいしや せいしんできおよ しんたいでき のうりよくとう かのう かぎ さいだい
人間の多様性の尊重 等の強化、障害者 が精神的 及び身体的 な能力 等を可能な限り最大

げんど はつき じゆう しゃかい こうかてき さんか かのう もくてき もと しょうがい
限度まで発揮させ、自由な社会 に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害 の

もの しょうがい もの とも まな しく
ある者と障害 のない者が共に学ぶ仕組みのこと。

(2) 教育環境の整備

障害のある児童生徒が、住み慣れた地域の中で必要な支援のもと、年齢や能力、障害の

特性を踏まえた十分な教育を受けられるよう、特別支援教育を必要とする児童生徒の

多様な障害特性を踏まえた教育環境の整備を図ります。

- 向日が丘支援学校改築基本構想に基づき、長岡京市の共生型福祉施設構想と連携した新たな学校づくりを行います。

- 府立特別支援学校における医療的ケアが必要な児童生徒に対して、適切な教育的支援や支援体制の整備等を行うため、福祉タクシーの利用に対する助成や看護師配置等に要する支援を実施します。

- 小・中学校の通常学級に在籍する発達障害等がある児童生徒に対して、適切な教育的支援や支援体制の整備等を行うため、非常勤講師を配置し、特別支援教育の充実を図ります。

- 特別な支援を必要とする生徒が、必要な支援の下で十分な教育を受けられるよう、府立高校において教育環境の整備を行います。

- 発達障害等がある生徒への支援体制を整備し、府立高校における特別支援教育の充実を図ります。

- 障害の重度・重複化、多様化に伴い、医療的ケアを安全に実施する体制を確保するとともに、快適かつ、安全な学校生活の充実に向けて一人ひとりのニーズに合わせたきめ細やかな教育を推進します。

○ 視覚・聴覚 障害 のある人の豊かな生活に向けての学習 活動や社会参加の促進を
図るため、実践交流 や指導者としての資質向上 を図る指導者研修会 を実施します。

○ 障害 の重度・重複化、多様化に対応した低床型 スクールバスを整備します。

(3) 生涯 を通じた多様な学習 活動の充実

生涯 を通じて学習 や情報 取得ができるよう、情報 提供 施設等の設置運営等を支援す
るとともに、文化・芸術、スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加を促進します。

○ 聴覚 障害 のある人が利用する録画物その他各種情報 記録媒体の製作及び手話通
訳者の養成・派遣等の便宜等を供与し、聴覚 障害 のある人への支援拠点となる京都府
聴覚 障害者 情報 提供 施設の設置・運営を支援します。〈再掲 3(1)〉

○ 視覚や聴覚 に障害 のある人が日常生活上の必要な情報 を容易に得て、また、
発信できるように、点字図書館などの充実 に努めます。〈再掲 3(1)〉

○ 芸術 系大学、芸術家、福祉事業者、企業、美術館、行政 その他の関係機関が連携
し、障害 のある人の文化芸術 活動を強力 に推進する組織「きょうと障害者 文化
芸術 推進機構」を中核 として、障害 のある人の文化芸術 活動を通じた社会参加を
推進します。

○ 障害 のある人がスポーツやレクリエーションを行い交流 できる場として、障害
者ふれあい広場を開催します。

○ 障害 のある人のスポーツ活動を保障するため、府立の体育施設（府立体育館、丹波

しぜん うんどうこうえんおよ ふしみこう こうえん さん あびりていーず じょうよう しょうがい ひと
自然運動公園及び伏見港公園、サン・アビリティーズ城陽) において、障害のある人
と
かいごしゃ たいしょう すぼ一つ じっし
とその介護者を対象 にスポーツのつどいを実施します。

(4) 交流 及び共同 学習 の推進

しょうがい じどう せいと しょうがい じどう せいと こうりゅうおよ きょうどうがくしゅう しょうがい
障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流 及び共同 学習 など、障害のある
ひと ひと こうりゅう せっきょくてき すいしん そうご りかい そくしん はか こうりゅうきかい かくだい
人とない人との交流 を積極的 に推進し、相互の理解促進を図るなど、交流 機会の拡大を
はか
図ります。

- かくふりつ とくべつしえん がっこう ようじ じどう せいと ゆた ところ しゃかいせい きょうちょうせい
各府立特別支援学校の幼児・児童・生徒が、豊かな心 をはぐくみ、社会性 や協調性
とうしゃかいじりつ きそ つちか すぐ ぶんか すぼ一つ とお こうりゅうかい じっし
等社会 自立の基礎を培うように優れた文化やスポーツを通した交流会 を実施します。
- ふりつ とくべつしえん がっこう きょうしよく めざ だいがくせいなど きょういくぼらんていあ
府立特別支援学校において、教職 を目指す大学生等を教育 ボランティアとして
う い
受け入れます。
- ゆた しぜん なか しょうがい こ しょうがい こ しぜん たいけんかつどう
豊かな自然の中で、障害のある子どもが障害のない子どもとともに自然体験活動を
とお たよう たちば りかい ところ ふか しえん ところ しゅたいせい つちか
通して、多様な立場を理解し、心 のふれあいを深め、支援する心 や主体性を培う「みど
きやんぷ じっし
りキャンプ」を実施します。
- とくべつしえん がっこう かよ こ ちいき きょうせいしゃかい く とくべつしえん
特別支援学校に通う子どもたちが地域共生 社会 で暮らしていくために、特別支援
がっこう りかい かんしん たか と く おこな こみゆにてい すくーる
学校についての理解や関心を高める取り組みを行うとともに、コミュニティ・スクールの
とりくみとう すいしん ちいき じゅうみん ねつとわーく すず がっこう ちいき じゅうみん ちから
取組等を推進し、地域住民 とのネットワークづくりを進め、学校と地域住民 が力 を
あ がっこううんえい めざ
合わせた学校運営 を目指します。
- ふりつ とくべつしえん がっこうこうとうぶ せいと みずか せいさくひん はんばいじっしゅう じつえん じっし
府立特別支援学校高等部の生徒自らが製作品の販売実習 ・実演 を実施します。

- 外部機関等と連携し、府立特別支援学校生徒の清掃や接客 など4分野の職種 別 専門的 技能を客観的 に評価する京 しごと技能検定を実施します。

- 好立地にある「ぶらり嵐山」を有効活用し、障害 のある人の手づくり製品等の展示・販売等を行い、障害 のある人の社会 参画 への理解を深めるとともに、交流 機会の拡大 を図ります。

9 文化芸術 やスポーツ等を通じた活動や機会の創出

【基本的考え方】

障害 のある人の文化芸術 活動及びスポーツへの参加を通じて、障害 のある人の生活を豊かにするとともに、府民の障害 への理解と認識を深め、障害 のある人の自立と社会参加を促進します。

(1) 文化・芸術 活動の振興

障害 のある人の文化・芸術 活動が活発に行われるよう、芸術 系大学などと連携して、その環境 整備を行い、障害 のある人の社会 参加の促進や、障害 のある人の芸術 作品の素晴らしさの周知を図るとともに、文化・芸術 を通じて障害 のある人とない人の交流 を促進し相互理解を深めます。

- 芸術 系大学、芸術家、福祉事業者、企業、美術館、行政 その他の関係機関が連携 し、障害 のある人の文化芸術 活動を強力 に推進する組織「きょうと障害者 文化芸術 推進機構」を中核 として、障害 のある人の文化芸術 活動を通じた社会 参加を推進します。 <再掲 8(3)>

- 障害のある人の芸術文化活動の可能性を切りひらき、障害のある人の社会参加の促進を図るとともに障害に対する理解と認識を深めるため、障害者作品展・ものづくりワークショップ等を開催します。

(2) **スポーツ、レクリエーション活動の推進**

障害のある人の自立と社会参加の促進や、潤いのある生活を促進するため、スポーツ、レクリエーション活動の推進を図ります。また、その活動による障害のある人となない人の交流の機会を通して、相互理解の促進を図ります。

- 障害のある人のスポーツ競技力の向上を目指し、「天皇盃全国車いす駅伝競走大会」や「全京都障害者総合スポーツ大会」への支援を行うとともに、全国障害者スポーツ大会に京都府選手団を派遣します。

- サン・アビリティーズ城陽における障害者スポーツの拠点機能の強化をおこなうとともに、パラ・パワーリフティング競技を始め障害者スポーツの振興を図ります。

- 障害のある人がスポーツやレクリエーションを行い交流できる場として、障害者ふれあい広場を開催します。＜再掲 8(2)＞

- 府内各地で障害者スポーツが広がるよう、地域で活動する障害者スポーツ指導員を増員します。

- 障害のある人のスポーツ活動を保障するため、府立の体育施設（府立体育館、丹波自然運動公園及び伏見港公園、サン・アビリティーズ城陽）において、障害のある人とその介護者を対象にスポーツのつどいを実施します。＜再掲 8(3)＞

第3章 サービス見込量及び計画的な基盤整備

1 サービス見込量

計画期間中（令和6年度から令和8年度）における各年度の障害福祉サービスの種類ごとに、必要なサービスの見込量を定めます。（※各年度のサービス見込量は1箇月分の数値）

(1) 障害福祉サービス等の体系

① 障害のある人を対象としたサービス（障害者総合支援法）

○ 介護給付

① 居宅介護（ホームヘルプ）

② 重度訪問介護 ③ 同行援護

④ 行動援護 ⑤ 療養介護

⑥ 重度障害者等包括支援

⑦ 短期入所（ショートステイ）

⑧ 生活介護 ⑨ 施設入所支援

○ 訓練等給付

① 自立訓練（機能訓練・生活訓練）

② 就労選択支援 ③ 就労移行支援

④ 就労継続支援（A・B型）

⑤ 就労定着支援 ⑥ 自立生活援助

⑦ 共同生活援助（グループホーム）

○ 自立支援医療

○ 補装具

② 障害のある児童を対象としたサービス (児童福祉法)

○ 障害児通所支援

① 児童発達支援

② 放課後等デイサービス

③ 保育所等訪問支援

④ 居宅訪問型児童発達支援

○ 障害児入所支援

① 福祉型障害児入所施設

② 医療型障害児入所施設

③ 相談支援 (障害者総合支援法、児童福祉法)

○ 計画相談支援

○ 障害児相談支援

○ 地域相談支援

① 地域移行支援 ② 地域定着支援

④ 地域生活支援事業 (障害者総合支援法)

○ 市町村地域生活支援事業

相談支援、意思疎通支援、移動支援等

○ 都道府県地域生活支援事業

専門性の高い相談支援、意思疎通支援等

⑤ 地域生活支援促進事業 (障害者総合支援法)

○ 市町村地域生活支援促進事業

○ 都道府県地域生活支援促進事業

(2) サービス見込量の合計

	サービスの種類	現状	サービス見込量			④→⑧	
	単位 (人分)	(令和4年度)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	増加量	
障害のある人等を対象としたサービス	居宅介護	6,450	6,867	7,167	7,485	1,035	
	重度訪問介護	543	622	664	707	164	
	同行援護	917	973	1,005	1,036	119	
	行動援護	1,041	1,204	1,329	1,444	403	
	重度障害者等包括支援	0	4	4	5	5	
	生活介護	7,009	11,791	12,380	12,854	5,845	
	自立訓練(機能訓練)	44	70	70	70	26	
	自立訓練(生活訓練)	322	341	354	369	47	
	就労選択支援	(新 R7.10~(予定))			173	209	
	就労移行支援	719	1,156	1,236	1,318	599	
	就労継続支援(A型)	1,766	2,047	2,198	2,363	597	
	就労継続支援(B型)	6,903	7,412	7,747	8,094	1,191	
	療養介護	404	404	408	411	7	
	短期入所	1,638	1,984	2,188	2,427	789	
	就労定着支援	212	235	248	262	50	
	自立生活援助	11	30	32	32	21	
	共同生活援助	2,352	2,612	2,816	3,014	662	
施設入所支援	2,320	2,277	2,251	2,222	-98		

障害のある児童を対象としたサービス	児童発達支援	4,237	4,552	4,762	4,982	745
	放課後等デイサービス	7,024	7,310	7,732	8,176	1,152
	保育所等訪問支援	137	213	245	285	148
	居宅訪問型児童発達支援	14	43	43	44	30
	障害児入所支援	109	125	125	125	16
相談支援	計画相談支援	5,594.2	6,201.0	6,587.0	6,988.0	1,393.8
	地域移行支援	8.0	42.0	43.0	45.0	37.0
	地域定着支援	158.4	179.5	188.5	197.5	39.1
	障害児相談支援	3,153.2	2,668.0	2,855.0	3,062.0	-91.2

子ども・子育て支援等の定量的な目標の設定	利用ニーズを踏まえた必要 な見込み量（人）	定量的な目標（見込み）（人）		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
保育所、認定こども園、 地域型保育事業	7,179	7,757	—	—
放課後児童健全育成事業	3,433	3,524	—	—

(3) 圏域ごとのサービス見込量

① 訪問系サービス

○ 居宅介護（ホームヘルプ）

入浴、排せつ又は食事の介護など、居宅での生活全般にわたる援助を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	2,390時間分 (177人分)	2,425時間分 (180人分)	2,470時間分 (184人分)
中丹	3,265時間分 (255人分)	3,294時間分 (265人分)	3,312時間分 (275人分)
南丹	6,034時間分 (285人分)	6,223時間分 (293人分)	6,420時間分 (301人分)
京都・乙訓	145,823時間分 (4,848人分)	153,661時間分 (5,042人分)	161,499時間分 (5,247人分)
山城北	21,938時間分 (989人分)	23,996時間分 (1,061人分)	26,310時間分 (1,138人分)
山城南	5,135時間分 (313人分)	5,353時間分 (326人分)	5,594時間分 (340人分)
計	184,585時間分 (6,867人分)	194,952時間分 (7,167人分)	205,605時間分 (7,485人分)

○ 重度訪問介護

重度の肢体不自由者その他の障害者であって、常時介護を要する者を対象とし

た、居宅での介護のほか、外出時における移動中の介護などを総合的に行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	453時間分 (8人分)	453時間分 (8人分)	454時間分 (8人分)
中丹	1,055時間分 (8人分)	1,127時間分 (9人分)	1,229時間分 (10人分)
南丹	2,685時間分 (9人分)	3,118時間分 (10人分)	3,651時間分 (11人分)
京都・乙訓	181,921時間分 (501人分)	193,630時間分 (523人分)	205,339時間分 (545人分)
山城北	31,524時間分 (89人分)	36,802時間分 (107人分)	42,400時間分 (126人分)
山城南	784時間分 (7人分)	770時間分 (7人分)	757時間分 (7人分)
計	218,422時間分 (622人分)	235,900時間分 (664人分)	253,830時間分 (707人分)

○ 同行援護

視覚障害しかく、しょうがいにより、移動いどうに著しい困難いちじる、こんなんを有する障害者ゆう 又は障害児しょうがいしやまた、しょうがいじ、たいしょうを対象とした、
 外出がいしゅつじ時の移動いどうに必要な情報ひつよう提供じょうほうていきようや移動いどうの支援しえんを行う。
おこな

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	904時間分 (43人分)	908時間分 (43人分)	911時間分 (43人分)
中丹	1,640時間分 (65人分)	1,966時間分 (68人分)	2,419時間分 (70人分)
南丹	625時間分 (34人分)	656時間分 (35人分)	689時間分 (36人分)
京都・乙訓	16,032時間分 (699人分)	16,787時間分 (722人分)	17,542時間分 (745人分)
山城北	2,821時間分 (115人分)	3,134時間分 (120人分)	3,516時間分 (125人分)
山城南	477時間分 (17人分)	522時間分 (17人分)	572時間分 (17人分)
計	22,499時間分 (973人分)	23,973時間分 (1,005人分)	25,649時間分 (1,036人分)

○ 行動援護

知的障害 又は精神障害 により、行動上 著しい困難を有する障害者 又は障害児
 を対象 とした、行動の際に生じうる危険回避のための援護や外出 時の移動の支援を
 行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	745時間分 (20人分)	746時間分 (20人分)	746時間分 (20人分)
中丹	521時間分 (54人分)	643時間分 (79人分)	806時間分 (116人分)
南丹	388時間分 (10人分)	399時間分 (10人分)	410時間分 (11人分)
京都・乙訓	28,607時間分 (918人分)	30,897時間分 (981人分)	33,187時間分 (1,044人分)
山城北	5,321時間分 (150人分)	6,984時間分 (184人分)	7,512時間分 (194人分)
山城南	1,123時間分 (52人分)	1,139時間分 (55人分)	1,199時間分 (59人分)
計	36,705時間分 (1,204人分)	40,808時間分 (1,329人分)	43,860時間分 (1,444人分)

○ 重度障害者等包括支援

常時介護を要する重度の障害者又は障害児であって、その介護の必要な程度が著しく高い者を対象とした、居宅介護をはじめとする障害福祉サービスを包括的に
おこなう。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	35時間分 (2人分)	35時間分 (2人分)	35時間分 (2人分)
中丹	0時間分 (0人分)	0時間分 (0人分)	40時間分 (1人分)
南丹	200時間分 (1人分)	200時間分 (1人分)	200時間分 (1人分)
京都・乙訓	155時間分 (1人分)	155時間分 (1人分)	155時間分 (1人分)
山城北	0時間分 (0人分)	0時間分 (0人分)	0時間分 (0人分)
山城南	0時間分 (0人分)	0時間分 (0人分)	0時間分 (0人分)
計	390時間分 (4人分)	390時間分 (4人分)	430時間分 (5人分)

② 日中 活動系サービス

○ 生活介護

常時介護を要する障害者を対象とした、主として日中に障害者支援施設などで

行われる、入浴、排せつ、食事の介護や、創作的活動又は生産活動の機会の提供などを行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	8,020時間分 (424人分)	8,052時間分 (426人分)	8,085時間分 (428人分)
中丹	13,182時間分 (710人分)	13,647時間分 (731人分)	14,093時間分 (750人分)
南丹	9,132時間分 (499人分)	9,248時間分 (504人分)	9,365時間分 (509人分)
京都・乙訓	72,959時間分 (4,178人分)	74,883時間分 (4,326人分)	76,930時間分 (4,480人分)
山城北	14,359時間分 (5,568人分)	16,967時間分 (5,971人分)	17,070時間分 (6,254人分)
山城南	7,342時間分 (412人分)	7,521時間分 (422人分)	7,704時間分 (433人分)
計	124,994時間分 (11,791人分)	130,318時間分 (12,380人分)	133,247時間分 (12,854人分)

○ 自立訓練（機能訓練）

地域生活を営むことができるよう、有期限の支援計画に基づき、身体的

リハビリテーション、日常生活に係る訓練等の支援を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	55人日分 (3人分)	55人日分 (3人分)	55人日分 (3人分)
中丹	62人日分 (13人分)	62人日分 (13人分)	62人日分 (13人分)
南丹	35人日分 (4人分)	36人日分 (4人分)	37人日分 (4人分)
京都・乙訓	444人日分 (43人分)	444人日分 (43人分)	444人日分 (43人分)
山城北	58人日分 (5人分)	59人日分 (5人分)	60人日分 (5人分)
山城南	25人日分 (2人分)	25人日分 (2人分)	25人日分 (2人分)
計	679人日分 (70人分)	681人日分 (70人分)	683人日分 (70人分)

○ 自立訓練（生活訓練）

地域生活を営むことができるよう、有期限の支援計画に基づき、日常生活能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	173人日分 (9人分)	173人日分 (9人分)	173人日分 (9人分)
中丹	73人日分 (3人分)	51人日分 (2人分)	51人日分 (2人分)
南丹	196人日分 (12人分)	201人日分 (13人分)	206人日分 (13人分)
京都・乙訓	3,127人日分 (186人分)	3,145人日分 (187人分)	3,163人日分 (188人分)
山城北	1,084人日分 (118人分)	1,160人日分 (131人分)	1,249人日分 (145人分)
山城南	363人日分 (13人分)	391人日分 (12人分)	441人日分 (12人分)
計	5,016人日分 (341人分)	5,121人日分 (354人分)	5,283人日分 (369人分)

○ 就労 選択支援

しょうがい ひとほんにん しゅうろうさき はたら かた よ せんたく ほんにん
 障害 のある人本人が就労先 ・働き方についてより良い選択ができるよう、本人の
 きぼう しゅうろうのうりよく てきせいとう あ せんたく しえん おこな
 希望、就労 能力 や適性等に合った選択の支援を行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後		にんぶん 21人分	にんぶん 37人分
ちゅうたん 中丹		にんぶん 4人分	にんぶん 8人分
なんたん 南丹		にんぶん 3人分	にんぶん 3人分
きょうと おとくに 京都・乙訓		にんぶん 116人分	にんぶん 123人分
やましろきた 山城北		にんぶん 9人分	にんぶん 14人分
やましろみなみ 山城南		にんぶん 20人分	にんぶん 24人分
けい 計		にんぶん 173人分	にんぶん 209人分

○ 就労 移行支援

一般就労等を希望する障害のある人に対し、有期限の支援計画に基づき、就労に必要な知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適性に合った職場への就労・定着を図る等の支援を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	111人日分 (11人分)	111人日分 (11人分)	111人日分 (11人分)
中丹	100人日分 (142人分)	102人日分 (176人分)	105人日分 (211人分)
南丹	322人日分 (17人分)	322人日分 (17人分)	327人日分 (18人分)
京都・乙訓	9,579人日分 (817人分)	10,021人日分 (855人分)	10,450人日分 (892人分)
山城北	1,985人日分 (129人分)	2,112人日分 (136人分)	2,237人日分 (143人分)
山城南	769人日分 (40人分)	820人日分 (41人分)	879人日分 (43人分)
計	12,866人日分 (1,156人分)	13,488人日分 (1,236人分)	14,109人日分 (1,318人分)

○ 就労 継続支援 (A型)

一般企業等での雇用が困難な者に対し、雇用契約に基づく就労の機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識・能力の向上を図る等の支援を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	1,651人日分 (80人分)	1,658人日分 (80人分)	1,759人日分 (86人分)
中丹	2,150人日分 (116人分)	2,222人日分 (119人分)	2,314人日分 (123人分)
南丹	1,670人日分 (87人分)	1,727人日分 (90人分)	1,785人日分 (93人分)
京都・乙訓	26,594人日分 (1,293人分)	28,531人日分 (1,382人分)	30,467人日分 (1,471人分)
山城北	7,693人日分 (407人分)	8,694人日分 (465人分)	9,894人日分 (528人分)
山城南	1,260人日分 (64人分)	1,213人日分 (62人分)	1,207人日分 (62人分)
計	41,018人日分 (2,047人分)	44,045人日分 (2,198人分)	47,426人日分 (2,363人分)

○ 就労 継続支援 (B型)

一般企業等での雇用が困難な者、一定年齢に達している者等に対し、一定の賃金

水準のもとで、就労や生産活動の機会を提供し、知識・能力の向上・維持を図る

等の支援を行う。(雇用契約は結ばない)

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	7,072人日分 (371人分)	7,166人日分 (376人分)	7,258人日分 (381人分)
中丹	10,955人日分 (616人分)	11,372人日分 (638人分)	11,762人日分 (658人分)
南丹	7,062人日分 (411人分)	7,493人日分 (435人分)	7,970人日分 (461人分)
京都・乙訓	83,373人日分 (4,705人分)	86,219人日分 (4,874人分)	89,082人日分 (5,043人分)
山城北	17,491人日分 (1,097人分)	18,767人日分 (1,198人分)	20,159人日分 (1,309人分)
山城南	3,313人日分 (212人分)	3,542人日分 (226人分)	3,796人日分 (242人分)
計	129,266人日分 (7,412人分)	134,559人日分 (7,747人分)	140,027人日分 (8,094人分)

○ 療養 介護

主として日中に病院などの施設で行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的
 管理下での介護や日常生活上の援助を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	22人分	22人分	22人分
中丹	47人分	48人分	49人分
南丹	35人分	36人分	37人分
京都・乙訓	220人分	220人分	220人分
山城北	68人分	70人分	71人分
山城南	12人分	12人分	12人分
計	404人分	408人分	411人分

○ 短期入所 (ショートステイ)

居宅においてその介護者の病気の場合など、障害者支援施設などへの短期間の入所による入浴、排せつ、食事の介護などを行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	615人日分 (74人分)	626人日分 (75人分)	636人日分 (76人分)
中丹	811人日分 (137人分)	853人日分 (171人分)	889人日分 (219人分)
南丹	563人日分 (102人分)	601人日分 (106人分)	642人日分 (110人分)
京都・乙訓	4,595人日分 (997人分)	4,769人日分 (1,060人分)	4,948人日分 (1,126人分)
山城北	2,352人日分 (515人分)	2,591人日分 (600人分)	2,960人日分 (702人分)
山城南	784人日分 (159人分)	880人日分 (176人分)	人日分 (194人分)
計	9,720人日分 (1,984人分)	10,320人日分 (2,188人分)	11,068人日分 (2,427人分)

○ 就労 定着 支援

就労 移行支援等を利用し、一般就労 に移行した障害者 に対して、就労 に伴う

生活面 の課題に対応 できるよう、事業所 ・家族との連絡調整 等の支援を一定の期間に
わたり行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	5人分	5人分	5人分
中丹	8人分	10人分	12人分
南丹	8人分	8人分	8人分
京都・乙訓	141人分	147人分	152人分
山城北	59人分	61人分	65人分
山城南	14人分	17人分	20人分
計	235人分	248人分	262人分

③ 居住系サービス

○ 自立生活援助

集団生活ではなく一人暮らしを希望する利用者に対して、定期的に利用者の居室を

訪問し、生活状況を確認し、必要な助言や医療機関等との連絡調整等を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	3人分	3人分	3人分
中丹	3人分	3人分	3人分
南丹	3人分	3人分	3人分
京都・乙訓	13人分	14人分	15人分
山城北	6人分	7人分	6人分
山城南	2人分	2人分	2人分
計	30人分	32人分	32人分

○ 共同生活援助（グループホーム）

主として夜間において、共同生活を営むべき住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	211人分	236人分	241人分
中丹	287人分	303人分	320人分
南丹	194人分	198人分	202人分
京都・乙訓	1,287人分	1,393人分	1,505人分
山城北	480人分	512人分	547人分
山城南	153人分	174人分	199人分
計	2,612人分	2,816人分	3,014人分

○ 施設入所 支援

夜間において、介護が必要な者や通所が困難な自立訓練又は就労 移行支援等の

利用者に対し、居住の場を提供するとともに、安定した日常生活が営めるよう支援をおこなう。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	164人分	162人分	159人分
中丹	281人分	279人分	278人分
南丹	171人分	170人分	169人分
京都・乙訓	1,267人分	1,249人分	1,231人分
山城北	327人分	324人分	320人分
山城南	67人分	67人分	65人分
計	2,277人分	2,251人分	2,222

④ 障害児支援

○ 児童発達支援

障害児に対し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	393人日分 (138人分)	392人日分 (141人分)	411人日分 (144人分)
中丹	955人日分 (277人分)	980人日分 (296人分)	1,002人日分 (315人分)
南丹	598人日分 (187人分)	636人日分 (199人分)	678人日分 (212人分)
京都・乙訓	16,812人日分 (2,929人分)	17,370人日分 (3,029人分)	17,947人日分 (3,133人分)
山城北	4,339人日分 (802人分)	4,684人日分 (852人分)	5,057人日分 (905人分)
山城南	1,372人日分 (219人分)	1,585人日分 (245人分)	1,820人日分 (273人分)
計	24,469人日分 (4,552人分)	25,647人日分 (4,762人分)	26,915人日分 (4,982人分)

○ ほうかご とうでいきーびす
放課後等デイサービス

しゅうがく しょうがいじ たい じゅぎょう しゅうりょうごまた きゅうぎょうび せいかつのうりよく こうじょう
就学 している障害児 に対し、授業 の終了後 又は休業 日に、生活能力 の向上 の
ためひつよう くんれん しゃかい こうりゅう そくしんとう おこな
に必要な訓練、社会との交流の促進等を行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後	にんにちぶん 1,219人日分 にんぶん (212人分)	にんにちぶん 1,248人日分 にんぶん (221人分)	にんにちぶん 1,267人日分 にんぶん (225人分)
ちゅうたん 中丹	にんにちぶん 3,146人日分 にんぶん (386人分)	にんにちぶん 3,208人日分 にんぶん (422人分)	にんにちぶん 3,260人日分 にんぶん (457人分)
なんたん 南丹	にんにちぶん 5,401人日分 にんぶん (536人分)	にんにちぶん 5,912人日分 にんぶん (598人分)	にんにちぶん 6,478人日分 にんぶん (668人分)
きょうと おとくに 京都・乙訓	にんにちぶん 48,369人日分 にんぶん (4,194人分)	にんにちぶん 50,128人日分 にんぶん (4,352人分)	にんにちぶん 51,960人日分 にんぶん (4,517人分)
やましろきた 山城北	にんにちぶん 16,272人日分 にんぶん (1,525人分)	にんにちぶん 18,019人日分 にんぶん (1,632人分)	にんにちぶん 19,990人日分 にんぶん (1,747人分)
やましろみなみ 山城南	にんにちぶん 4,910人日分 にんぶん (457人分)	にんにちぶん 5,405人日分 にんぶん (507人分)	にんにちぶん 5,948人日分 にんぶん (562人分)
けい 計	にんにちぶん 79,317人日分 にんぶん (7,310人分)	にんにちぶん 83,920人日分 にんぶん (7,732人分)	にんにちぶん 88,903人日分 にんぶん (8,176人分)

○ 保育所等訪問支援

保育所等の児童が集団生活を営む施設等に通う障害児に対し、その施設における

障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援等を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	27人日分 (18人分)	28人日分 (19人分)	29人日分 (20人分)
中丹	39人日分 (33人分)	49人日分 (41人分)	62人日分 (49人分)
南丹	4人日分 (3人分)	4人日分 (3人分)	4人日分 (3人分)
京都・乙訓	131人日分 (67人分)	133人日分 (68人分)	137人日分 (70人分)
山城北	79人日分 (73人分)	92人日分 (82人分)	105人日分 (94人分)
山城南	44人日分 (19人分)	80人日分 (31人分)	150人日分 (49人分)
計	324人日分 (213人分)	386人日分 (245人分)	487人日分 (285人分)

○ 居宅訪問型 児童発達支援

しょうがいじつうしょうしえん りよう がいしゅつ いちじる こんなん じゅうど しょうがい
 障害児通所 支援を利用するために外出 することが著しく困難な、重度の障害 のある

じどう たい きょたく ほうもん にちじょうせいかつ きほんてき どうさ しどう どう ほったつしえん
 児童に対し、居宅を訪問し、日常 生活における基本的な動作の指導等といった発達支援
 を行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後	にんにちぶん 8人日分 にんぶん (3人分)	にんにちぶん 8人日分 にんぶん (3人分)	にんにちぶん 10人日分 にんぶん (4人分)
ちゅうたん 中丹	にんにちぶん 2人日分 にんぶん (1人分)	にんにちぶん 2人日分 にんぶん (1人分)	にんにちぶん 2人日分 にんぶん (1人分)
なんたん 南丹	にんにちぶん 6人日分 にんぶん (2人分)	にんにちぶん 6人日分 にんぶん (2人分)	にんにちぶん 6人日分 にんぶん (2人分)
きょうと おとくに 京都・乙訓	にんにちぶん 209人日分 にんぶん (27人分)	にんにちぶん 209人日分 にんぶん (27人分)	にんにちぶん 209人日分 にんぶん (27人分)
やましろきた 山城北	にんにちぶん 38人日分 にんぶん (8人分)	にんにちぶん 38人日分 にんぶん (8人分)	にんにちぶん 38人日分 にんぶん (8人分)
やましろみなみ 山城南	にんにちぶん 6人日分 にんぶん (2人分)	にんにちぶん 6人日分 にんぶん (2人分)	にんにちぶん 5人日分 にんぶん (2人分)
けい 計	にんにちぶん 269人日分 にんぶん (43人分)	にんにちぶん 269人日分 にんぶん (43人分)	にんにちぶん 270人日分 にんぶん (44人分)

○ 障害児入所支援

児童入所施設に入所又は指定医療機関に入院する障害児に対し、保護、日常生活の指導、知識技能の付与を行う。また、そのうち知的障害のある児童、肢体不自由のある児童、重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童に対し、治療を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
府域全体	125人分	125人分	125人分

⑤ 相談支援

○ 計画相談支援

障害福祉サービス又は地域相談支援の支給決定に係るサービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成、サービス事業者等との連絡調整等を行う。

圏域	令和6年度	令和7年度	令和8年度
丹後	339.0人分	345.0人分	352.0人分
中丹	311.0人分	322.0人分	333.0人分
南丹	717.0人分	740.0人分	763.0人分
京都・乙訓	2,697.0人分	2,909.0人分	3,121.0人分
山城北	1,942.0人分	2,062.0人分	2,192.0人分
山城南	195.0人分	209.0人分	227.0人分
計	6,201.0人分	6,587.0人分	6,988.0人分

○ ちいき いこう しえん
地域移行支援

しょうがいしゃしえん しせつ にゆうしょまた せいしんかびょういん にゆういん しょうがいしゃとう たい ちいき
 障害者 支援施設に入所 又は精神科病院 に入院 している障害者 等に対し、地域
 せいかついこう かつどう たい そうだん しょうがいふくし きーびすじ ぎょうしゃとう どうこうしえん とう
 生活移行のための活動に対する相談、障害 福祉サービス事業者 等への同行支援等を
 おこな
 行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後	5.0人分 <small>にんぶん</small>	5.0人分 <small>にんぶん</small>	5.0人分 <small>にんぶん</small>
ちゅうたん 中丹	3.0人分 <small>にんぶん</small>	3.0人分 <small>にんぶん</small>	3.0人分 <small>にんぶん</small>
なんたん 南丹	3.0人分 <small>にんぶん</small>	3.0人分 <small>にんぶん</small>	3.0人分 <small>にんぶん</small>
きょうと おとくに 京都・乙訓	22.0人分 <small>にんぶん</small>	22.0人分 <small>にんぶん</small>	23.0人分 <small>にんぶん</small>
やましろきた 山城北	7.0人分 <small>にんぶん</small>	8.0人分 <small>にんぶん</small>	9.0人分 <small>にんぶん</small>
やましろみなみ 山城南	2.0人分 <small>にんぶん</small>	2.0人分 <small>にんぶん</small>	2.0人分 <small>にんぶん</small>
けい 計	42.0人分 <small>にんぶん</small>	43.0人分 <small>にんぶん</small>	45.0人分 <small>にんぶん</small>

○ ちいき ていちやくしえん
地域定着 支援

きょたく たんしん せいかつ しょうがいしゃまた どうきよ かぞく しえん う
居宅において単身で生活する障害者 又は同居の家族による支援を受けられない

しょうがいしゃ たい じょうじ れんらくたいせい かくほ しょうがい とくせい きいん きんきゅうじたい とう そうだん
障害者 に対し、常時の連絡体制の確保、障害 の特性に起因する緊急 事態等の相談、

きんきゅうほうもんと う しえん おこな
緊急 訪問等の支援を行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後	4.0人分 にんぶん	4.0人分 にんぶん	4.0人分 にんぶん
ちゅうたん 中丹	2.0人分 にんぶん	2.0人分 にんぶん	2.0人分 にんぶん
なんたん 南丹	3.0人分 にんぶん	3.0人分 にんぶん	3.0人分 にんぶん
きょうと おとくに 京都・乙訓	48.5人分 にんぶん	55.5人分 にんぶん	62.5人分 にんぶん
やましろきた 山城北	120.0人分 にんぶん	122.0人分 にんぶん	124.0人分 にんぶん
やましろみなみ 山城南	2.0人分 にんぶん	2.0人分 にんぶん	2.0人分 にんぶん
けい 計	179.5人分 にんぶん	188.5人分 にんぶん	197.5人分 にんぶん

○ しょうがいじそうだんしえん
障害児相談支援

しょうがいじつうしょしえん しきゆうけつてい かか しょうがいじしえん りよう けいかく さくせい きーびすじ ぎょうしゃとう
障害児通所支援の支給決定に係る障害児支援利用計画の作成、サービス事業者等と
れんらくちょうせいとう おこな
の連絡調整等を行う。

けんいき 圏域	れいわ ねんど 令和6年度	れいわ ねんど 令和7年度	れいわ ねんど 令和8年度
たんご 丹後	104.0人分 <small>にんぶん</small>	114.0人分 <small>にんぶん</small>	124.0人分 <small>にんぶん</small>
ちゅうたん 中丹	74.0人分 <small>にんぶん</small>	76.0人分 <small>にんぶん</small>	82.0人分 <small>にんぶん</small>
なんたん 南丹	604.0人分 <small>にんぶん</small>	639.0人分 <small>にんぶん</small>	676.0人分 <small>にんぶん</small>
きょうと おとくに 京都・乙訓	425.0人分 <small>にんぶん</small>	480.0人分 <small>にんぶん</small>	543.0人分 <small>にんぶん</small>
やましろきた 山城北	1,363.0人分 <small>にんぶん</small>	1,438.0人分 <small>にんぶん</small>	1,517.0人分 <small>にんぶん</small>
やましろみなみ 山城南	98.0人分 <small>にんぶん</small>	108.0人分 <small>にんぶん</small>	120.0人分 <small>にんぶん</small>
けい 計	2,668.0人分 <small>にんぶん</small>	2,855.0人分 <small>にんぶん</small>	3,062.0人分 <small>にんぶん</small>

2 圏域障害者 自立支援協議会での課題整理等

市町村、障害 当事者、相談支援事業者、障害 福祉サービス事業者、保健・医療、教育、企業などの関係団体等で構成する各圏域の障害者 自立支援協議会等において、以下のような現状 分析・課題整理がなされました。

(1) 丹後圏域

① 障害 福祉計画における課題

圏域の障害者数の状況について、管内の身体障害者 手帳保持者は、令和4年度末時点で全手帳 保持者に占める65歳以上の割合が82・9%と年々増加傾向にあり、療育 手帳・精神保健福祉手帳の所持者数も同様に増加を続けています。今後「共生型」社会 資源の整備等、介護保険事業所 との一層の連携が求められています。

丹後圏域では、丹後圏域障害者 自立支援協議会（以下「協議会」という）において5つの専門 部会（相談支援部会・発達障害 部会・医療的ケア部会・精神保健福祉部会・就労 部会）を設置し、一人ひとりの尊厳と人権が尊重 され、誰もが自分らしく生きることができ、多様性が認められる地域共生 社会を実現するため、協議を重ねています。

まず発達障害者 を支援していく上で課題となることとして、困難を抱える生徒が早期に支援機関と繋がることを目指すことによる「切れ目ない支援」を構築していくことが挙げられ、教育 関係との連携を深めていくことが重要 です。

また、先述 した精神保健福祉手帳の所持者数及び精神科への通院者数は増加しており、関係市町と協働 し「精神障害者 にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を推進し、メンタルヘルスに課題を抱えた人への対応や、地域で安心して医療を受けられる体制づくり等幅広い課題への対応が必要 となっています。

いりょうてきけあ ひつよう じゅうど しょうがい ほう しえん
医療的ケアを必要とする重度の障害のある方への支援については、これまでに

ひ つづ さいがいじ たいおう しょうがいじ しょうがいしゃ えんかつ さーびす いこう かだい
引き続き災害時における対応や、障害児から障害者への円滑なサービス移行の課題に

たい けんとう ひつよう きょうとふ いりょうてきけあじ とうしえん せんたー
対して検討していく必要があります、京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」とも

れんけい と く すす じゅうよう かんが
連携した取り組みを進めていくことが重要であると考えています。

しょうがいしゃしゅうろう かん しゅうろうけいぞくしえん がたじぎょうしょ ふくしてき しゅうろう
障害者就労に関しては、就労継続支援A型事業所をはじめとする、福祉的就労

じぎょうしょ いっぱんしゅうろう けいす すく げんじょう ちいき いっぱんきぎょう
事業所から一般就労につながるケースが少ない現状となっており、地域の一般企業へ

はたら とも かくしゅうろうけいじぎょうしょ いっぱんしゅうろう む すきるあつぷ かだい
の働きかけと共に、各就労系事業所の一般就労に向けたスキルアップも課題となっ
ています。

② しょうがいじふくし けいかく かだい 障害児福祉計画における課題

たんごけんいき はったつしょうがい じどう しえん せんもん いりょうきかん すく
丹後圏域における発達障害をもつ児童への支援については、専門の医療機関が少ない

しゅうがくまえ ほけんじょ くりにつく たすう たいおう たいき
ため、就学前においては、保健所でのこどもクリニックでも多数対応しているが、待機

きかん なが そうき ふあん かいしょう かだい はったつしょうがいなど たつとくせい じどう も
期間が長く、早期の不安解消に課題があります。発達障害等、発達特性のある児童を持つ

ほごしゃ いくじ ふあん いくじ こんなんかん けいげん はか べあれんととれーにんぐ ほいくじょ
保護者の育児不安や育児困難感の軽減を図るため、「ペアレントトレーニング」、保育所、

ようちえん とう こ かか しえんしゃ りきりょうこうじょう はか ていーチャーとれーにんぐ
幼稚園等で子どもに関わる支援者の力量向上を図る「ティーチャートレーニング」、

にゅうようじけんしんなど こ はったつ み ほけんし とう しえん けんしゅうかいとう じっし
乳幼児健診等で子どもの発達を診る保健師等の支援につながる研修会等を実施するなど、

ほごしゃ しえん いっそう じゅうじつ ひつよう けんいき はったつしょうがいとう かか せいと
保護者への支援の一層の充実が必要です。また、この圏域では、発達障害等を抱えた生徒

いっばんこうとうがっこう しんがく ざいせき わりあい ほかけんいき おお がくしゅうけいぞく しんろ とう たいおう
が一般高等学校に進学・在籍する割合が他圏域より多く、学習継続や進路等の対応に

くりよ けっか ふとうこう きゅうがく たいがく せいと げんじょう
苦慮し、結果として不登校、休学、退学となる生徒がでてきている現状があります。その

たいさく こうとうがっこう ふくし とうかんけいきかん こんだんかい じっし き め しえん
対策として、高等学校と福祉等関係機関の懇談会を実施し、「切れ目のない支援」ができる

たいせい こうちく はか
体制の構築を図っています。

いりょうてきけあじ かん こうど いりょう はったつ いりょうてきけあ ひつよう みしゅうがくじ
医療的ケア児に関しては、高度医療の発達により、医療的ケアを必要とする未就学児が

ふ よそう いりょう ほけん きょういく ふくし ぶんや れんけい ひつよう げんじょう
増えると予想される場所であり、医療・保健・教育・福祉分野と連携が必要な現状に

あります。

圏域の「圏域在宅療養児支援体制検討会」と圏域障害者自立支援協議会医療的部会との連携を図り、安心・安全に子育てできる環境を整備し、総合的な支援体制を構築していく必要があります。

(2) 中丹圏域

① 障害福祉計画における課題

この圏域では、当事者が安心して暮らし続けることが出来る生活の場となる住居の確保が、病院や施設からの地域移行の円滑な推進や家族の高齢化等に伴う種々の対応のために重要な課題となっています。グループホームの整備を進める一方で、民間住宅への入居等は特に困難な場合があるため、障害のある人に対する地域住民の理解の促進や普及啓発など地域で支える力を育む取組が必要です。

医療的ケアを必要とする障害のある人が安心して地域で暮らしていくためには、保健、医療、福祉、教育、労働等の関係機関が連携して支援していくことが重要です。さらに災害発生時には地域住民による支援も必要であり、日頃からの関係づくりが求められます。

次に障害のある人が就労を継続するには、就労後の定着のためのサポートが大切であり、仕事のことだけでなく、生活面や金銭面についても関係機関による一体的な支援が必要です。さらに、企業側も勤務されている障害のある人の特性等を適切に理解し対応出来るよう、支援者側が企業に対し経過や企業の特徴・環境を考慮した支援内容を伝えられるようなスキルアップが求められています。このようなことを通じて、双方の特性に応じた職場になるよう上手にマッチングさせ、定着につなげることが必要です。

福祉的^{ふくしてきしゅうろう}就労^{こうちんこうじょう}では、工賃^{せいひん}向上^{ふか}のため製品^{かち}の付加価値^{たか}を高め、独自の^{どくじ}商品^{しょうひん}開発^{かいはつ}や販路^{はんろ}

拡大^{かくだい}が求め^{もと}られています。

また発達^{はったつしょうがい}障害^{こうじ}や高次脳機能^{のうきのう}障害^{しょうがい}、精神^{せいしん}障害^{しょうがい}については、当事者^{とうじしゃ}が生活^{せいかつ}訓練^{くんれん}、

コミュニケーション^{こみゆにけいしよん}スキル^{すきる}を学^{まな}べる場^{ばしょ}所^{もと}が求め^{もと}られており、各支援^{かくしえん}機^き関^{かん}同^{どう}士^しが自^{みづか}らの特^{とく}徴^{ちよう}

や体制^{たいせい}を明^{めい}確^{かく}にし、当事者^{とうじしゃ}・家^か族^{ぞく}に周^{しゅう}知^ちしていくとともに、障^{しょう}害^{がい}に對^{たい}する理^り解^{かい}促^{そく}進^{しん}を

広^{ひろ}く進^{すす}めるための普^ふ及^{きつ}啓^{けい}発^{はつ}が必^{ひつ}要^{よう}です。

そのため、各市^{かくし}での重^{じゅう}層^{そう}的^{てき}支^{たい}援^{せい}体^{たい}制^{せい}整^じ備^び事^じ業^{ぎょう}等^{とう}を活^{かつ}用^{よう}した関^{かん}係^{けい}機^き関^{かん}の連^{れん}携^{けい}をとりなが

ら、複^{ふく}合^{ごう}的^{てき}な要^{よう}因^{いん}のある人^{ひと}への相^{そう}談^{だん}支^{たい}援^{せい}体^{たい}制^{せい}の整^{せい}備^び、個^こ別^{べつ}相^{そう}談^{だん}をとおして地^ち域^{いき}課^か題^{だい}や

ニ^にー^ずズ^ずを抽^{ちゅう}出^{しゅつ}できる相^{そう}談^{だん}支^{たい}援^{せい}事^じ業^{ぎょう}所^{しょ}の一般^{いっぱん}相^{そう}談^{だん}支^{たい}援^{せい}体^{たい}制^{せい}の充^{じゅう}実^{じつ}、相^{そう}談^{だん}支^{たい}援^{せい}専^{せん}門^{もん}員^{いん}の

増^{ぞう}員^{いん}、相^{そう}談^{だん}支^{たい}援^{せい}の質^{しつ}の向^{こう}上^{じょう}など、体^{たい}制^{せい}の強^{きょう}化^かが必^{ひつ}要^{よう}です。また研^{けん}修^{しゅう}機^き会^{かい}の充^{じゅう}実^{じつ}を

図^{はか}るためにも、より多^{おほ}くの関^{かん}係^{けい}職^{しょく}員^{いん}の研^{けん}修^{しゅう}参^{さん}加^かが可^{かのう}能^{にん}な近^{きん}隣^{りん}地^ち域^{いき}での開^{かい}催^{さい}が望^{のぞ}まれてい
ます。

② 障^{しょう}害^{がい}児^い福^{ふく}祉^し計^{けい}画^{かく}に^おける課^か題^{だい}

この圏^{けん}域^{いき}では、障^{しょう}害^{がい}のある児^じ童^{どう}に對^{たい}する地^ち域^{いき}支^{たい}援^{せい}体^{たい}制^{せい}を構^{こう}築^{ちく}するた^め、早^{そう}期^き療^{りょう}育^{いく}・

支^し援^{えん}ニ^にー^ずズ^ずの高^{たか}まりを踏^ふまえ、適^{てき}切^{せつ}な支^し援^{えん}策^{さく}の検^{けん}討^{とう}・提^{てい}供^{きょう}のため^の児^じ童^{どう}の計^{けい}画^{かく}相^{そう}談^{だん}体^{たい}制^{せい}

の充^{じゅう}実^{じつ}が求^{もと}められています。また児^じ童^{どう}発^{はつ}達^{だつ}支^{たい}援^{せい}、放^{ほう}課^か後^ごデ^でイ^いサ^さー^びス、日^に中^{ちゅう}一^{いち}時^じ支^し援^{えん}

及^{およ}び保^ほ育^{いく}所^{じょ}訪^{ほう}問^{もん}支^し援^{えん}事^じ業^{ぎょう}等^{とう}の充^{じゅう}実^{じつ}も図^{はか}ることが必^{ひつ}要^{よう}とさ^されてい^ます。さらには小^{しょう}・

中^{ちゅう}学^{がく}校^{こう}の特^{とく}別^{べつ}支^し援^{えん}学^{がく}級^{きゅう}等^{とう}に通^{つう}級^{きゅう}している子^こどもた^ちの放^{ほう}課^か後^ご児^じ童^{どう}ク^くラ^らブ^ぶなど、

受^うけ入^いれ先^{さき}を拡^{かく}充^{じゅう}して^いく必^{ひつ}要^{よう}が^あります。

医^い療^{りょう}的^{てき}ケ^けア^あ児^いに^ついては、人^{じん}工^{こう}呼^こ吸^{そく}器^き装^{さう}着^{ちやく}児^いの短^{たん}期^き入^{にゅう}所^{じょ}利^か用^{りよう}が可^{かのう}能^{にん}な医^い療^{りょう}型^{がた}施^し設^{せつ}は数^{かず}

が少^{すく}ないた^め、利^り用^{りよう}するに^は遠^{えん}方^{ぽう}へ^の移^い動^{どう}が必^{ひつ}要^{よう}な状^{じょう}況^{きやう}とな^ってお^り、本^{ほん}人^{にん}・家^か族^{ぞく}にと

つて受^うけ入^いれ準^{じゅん}備^びや信^{しん}頼^{らい}関^{かん}係^{けい}づ^くり^り等^{とう}、身^{しん}体^{たい}的^{てき}・経^{けい}済^{ざい}的^{てき}な負^ふ担^{たん}が生^{しょう}じてい^ます。このよ

うな短期入所 の利用促進が進まない現状 などを含め、「医療的 ケア児及びその家族に
対する支援に関する法律」施行に伴う様々な場面での受け入れ体制の整備・充実 を
進めることが求められています。

発達障害 に関しては、検診等の場を活用して早期に発見し、就学前 からの早期支援
が最も大切ですが、専門医が不足していることや、ニーズのある子どもが増えていること
もあり、初診や療育 開始までに時間がかかっています。

併せて早期発見された幼児や保護者等への、指導助言を担う支援者のスキルアップを
図るとともに、教育 機関との連携が重要 と考えます。

(3) 南丹圏域

① 障害 福祉計画における課題

この圏域は、市街地から山間部まで幅広い地域で構成されていますが、社会資源は山
間部に少なく、人口の多い地域に偏っています。都市部に近いこともあり、府全域の
人口比を考えると入所 施設が多くある地域でもあります。

近年、就労 継続支援B型やグループホームの事業所数が増加しており、地域生活へ
移行するための受け皿の整備は進んでいる一方、重度の障害 がある人に対する支援、
多様化するニーズに的確に対応できる相談支援体制の強化が求められています。

また、慢性的な人手不足により利用者のニーズに応えることが難しくなっている
事業所もあり、障害 福祉サービスが適正かつ円滑に実施できるよう従事者の質の向上
を図るとともに、福祉人材の確保・定着 が課題となっています。

精神障害 のある人への支援については、精神障害者 にも対応した地域包括
ケアシステムの構築に向け、保健・医療・福祉関係者との連携強化が必要ですが、圏

いきない にゅういんびょうしょう せいしんか いりょうきかん きんきゅうじ たいおう にゅういんじ
域内に入院 病床 のある精神科医療機関がないことから、緊急 時の対応、入院 時や

たいいんご しえん けんいき こ れんけい ふかけつ
退院後支援において圏域を超えた連携が不可欠となっています。

ちいき せいかつしえん きよてん せいび しゃかいしげん へんざい ちいき ていきょうかのう
地域生活支援拠点の整備については、社会資源が偏在し地域によって提供 可能な

さーびす げんてい きんきゅうじ じんそく そうだんしえん かくじつ う い
サービスも限定されることから、緊急 時における迅速な相談支援や確実な受け入れがで

きるよう かくじぎょうしょ とくしよく のうほう い けんいきぜんたい めんてきせいびがた せいび
きるよう各事業所の特色 やノウハウを活かして圏域全体で「面的整備型」による整備を

おこな れいわ ねんど うんよう かいし こんご こべつ じあん たいおう けんしょう なか
行い、令和4年度から運用を開始しました。今後、個別事案について対応・検証 する中

きのう じゅうじつ はか ひつよう
で機能の充実 を図る必要があります。

しょうがいしゃ と ま さまざま かだい かいけつ なんたんけんいきしょうがいじしゃそうごうしえん
障害者 を取り巻く様々な課題解決にあたっては、南丹圏域 障害児者 総合支援

ねつとわーく ねつと そうだんしえん ぶかい いりょうてきけあ ぶかい ほつたつしょうがいしえん ぶかい
ネットワーク「ほつとネット」に相談支援部会、医療的ケア部会、発達障害 支援部会、

せいしんほけん ふくし ぶかい もう けんいき ちいき かだい めいかくか たいおうさく
精神保健福祉部会を設け、圏域における地域課題を明確化するとともに、その対応策につ

きょうぎ けんとう
いて協議・検討しています。

また、きょういく こよう ぶんや なんたんかんないちいき とくべつしえん きょういくそうごうすいしんじぎょう
また、教育、雇用分野においては、南丹管内地域特別支援教育 総合推進事業

うんえいきょうぎかい きょうと せんたー みなみたんぶろつく じょうほうきょうゆう たいおう
運営協議会や京都ほつとはあとセンター南丹 ブロックと情報 共有 し対応していると
ころです。

こんご けんいき し ちょう ちいき じりつ しえんきょうぎかい れんどう らいふさいくる
今後とも、圏域 2市1町 の地域自立支援協議会と連動しながら、ライフサイクルと

たよう にーず おう ねつとわーく こうちく かんけいきかん いっそう れんけい もと
多様なニーズに応じたネットワークの構築など関係機関との一層の連携が求められます。

② しょうがいふくし けいかく かだい 障害児福祉計画における課題

けんいき しゅっしょうすう げんしょう きんねん いりょうてきけあじ ぞうか
この圏域においても出生数は減少 しておりますが、近年の医療的ケア児の増加や

ほつたつしょうがい にんち ひろ じょせい しゅうろりつ じょうしょう しゃかいじょうきょう へんか なか
発達障害 の認知の広がり、女性の就労率 の上昇 など社会状況 が変化する中で、

しょうがいじ たい しえん にーず たか
障害児 に対する支援ニーズはますます高まっています。

じどう ほつたつしえん ほうかご とうでいさーびす じぎょうしょ たよう しゅたい さんにゅう ぞうか けいこう
児童発達支援や放課後等デイサービス事業所は、多様な主体の参入 もあり増加傾向に

あります。しかしながら、ほごしゃ しゅうろうしえん れすぱいと かくほ にちじょうてき ささ
あります。しかしながら、保護者の就労 支援やレスパイトの確保など日常的 に支えてい

る家族への支援の観点からすると十分にニーズを満たしているとは言えず、また適切な運営や支援の質の確保についても課題があります。

障害のある児童は通級指導教室や特別支援学校だけでなく、昼間定時制、全日制高校にも在籍していることから、障害に対する理解の促進や福祉的な支援の必要性が増しています。特別支援学校卒業生等の進路については毎年課題となっており、障害の特性や状態に応じ本人の希望に沿った進路先が選択できるよう教育・労働・福祉など関係機関の更なる連携が求められます。

医療的ケア児支援については、家族が全面的に支えることで生活が成り立っている現状があります。この圏域には、医療的ケア児に対応できる医療型障害児施設がありますが、他に活用できる社会資源が乏しく、災害時・緊急時の対応や医療的ケア児等コーディネーターの養成等の課題があります。

発達障害児支援については、早期発見・早期支援が重要となりますが、この圏域に限らず専門の医療機関が少ないため、その対応までに時間がかかってしまうことが懸念されます。そのため、乳幼児健診の場において気づき・発見した段階で速やかに支援につなげていく仕組みづくりが重要であり、保護者支援の充実や療育機関だけでなく保育所、幼稚園関係者等のスキルアップに向けた取組も必要となっています。

教育分野との連携は進みつつあり、移行支援ファイルの活用数も増えてきています。

就学前から就学、小学校から中学校、中学校から高等学校への切れ目のない

支援を強化するため更に推進していく必要があります。

(4) 京都市サブ圏域

① 障害福祉計画における課題

この圏域では、入所施設から地域生活への移行の取組や、退院可能な精神障害のある人の精神科病院からの退院等を促進する取組と併せて、地域生活を継続するために必要となる在宅生活を支えるサービスの充実を図る必要があります。それと同時に障害のある人の自立につながる生活の場や地域で活動できる場の充実、さらには、強度行動障害や医療的ケア等の個々のニーズに応じたきめ細やかな相談支援を提供するための体制強化が必要となっています。

そして、障害のある人の地域での暮らしを支える基盤整備である地域生活支援拠点に求められる5つの機能（①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくり）については、地域における複数の機関が分担して機能を担う「面的整備型」で整備を行いました。障害のある人への居住支援も含めて、引き続き、地域生活支援拠点の機能強化を進めていきます。

また、訪問系サービスにおいては、担い手不足からヘルパー数の更なる確保が必要となっていること、日中活動系サービスにおいても、生活介護や短期入所の需要が今後も継続して伸びの上昇が見込まれていることから、福祉的人材の確保と質の向上に向けた取組が必要となっています。

居住系サービスにおいては、地域移行を今後も進めていくためには、これまで以上にグループホームの充実を図っていく必要がありますが、報酬水準の向上の課題や、地域における理解促進等に課題があります。

就労支援については、引き続き、労働、福祉、教育など各分野の関係機関が協働して雇用促進・就労支援に取り組むとともに、就職後も継続的かつ安定的に働き続けられるよう、職場定着支援にも取り組んでいく必要があります。

② 障害児福祉計画における課題

障害のある児童に関しては、発達障害に関する社会的認知の広がりにより、これまで障害があると思われていなかった人やことばの遅れ等を心配する保護者からの相談が増えてきており、身近な地域で必要な支援を受ける体制づくりが求められています。

また、発達の遅れや特性に対する早期発見・早期支援を行うために、健診、検査、療育、診断等それぞれの役割を担う関係機関のさらなる連携が必要です。

学齢期前の児童に関しては、児童発達支援事業所等の設置数は増えてきているものの、設置地域に偏在があることから、利用する支援の必要な児童が、身近な地域で療育を受けられるよう、児童発達支援事業所の地域偏在の解消や、サービスの質の向上について検討する必要があります。

学齢期の児童に関しては、放課後等デイサービスの事業所が増加し、これに伴ってサービスの質の課題が生じています。また、学齢期の障害のある児童のニーズの多様化に伴い、一人ひとりの地域での育ちをどのように支援していくかについて検討が必要となっています。

(5) 乙訓サブ圏域

① 障害児福祉計画における課題

この圏域での入所施設は1か所であり、圏域内での入所希望に応えられていません。グループホームでは、知的や精神の方を対象とした事業所は増加傾向ですが、重度や強度行動障害を対象に含む事業所は増加することもなく依然と少ない状況です。また、日中一時の事業所は少なく、供給量が不足する中、重度対応については、土日祝等の居宅サービスの確保も課題となっています。

医療的ケア対応の施設については、当圏域協議会との連携のもと、令和4年度、介護

ろうじんほけんしせつ ぼたい いりょうがたたんきにゆうしょ じぎょうしょ かいせつ かいせつごそうそう
老人保健施設を母体とした医療型短期入所の事業所が開設しました。開設後早々に

も での けーす とうじしゃ いちじりよう おこな りようじ かいだい う ぼ
モデルケースとして、当事者による一時利用を行い、いくつかの利用時の課題が浮き彫り

になっており、この課題解決に向けて、見学や説明会を開催し、利用促進を図っていく

ところです。また、1施設開設だけでは、医療的ケアが必要な方に対応仕切れないた

め、引き続き、3号研修実施機関の協力を得て3号研修を実施し、医療的ケアの

支援者を増やす取り組みが必要です。

とくべつしえん がっこう そつぎょうせい つね じゅうど せいかつかいご あき すく たいおう むずか
特別支援学校の卒業生については、常に重度の生活介護の空が少なく対応が難しい

状況があります。そのため、圏域内の特定の法人による利用枠増加の調整だけでは

対応しきれないため、他の圏域での利用を調整している状況です。遠方利用は利用者

の負担の拡大に繋がるため、引き続き、関係機関と特別支援学校と連携しながら状況

を把握し、課題解決に向けた検討が必要です。

そうだんしえん じぎょうしょ ねんねんけいやくけんすう ぞうか なか そうだんしえん じぎょうしょおよ
相談支援事業所については、年々契約件数が増加している中、相談支援事業所及び

相談支援専門員が増えないため、新規受け入れを停止する事案が出てきています。また、

特定相談に加えて、委託相談や他事業を兼務している職員が多く、相談支援専門員へ

の負担がさらに増している状況です。この課題は、当圏域内だけの問題ではなく全域

での課題であるため、他の圏域と情報共有しながら取り組む必要があります。

② 障害児福祉計画における課題

この圏域では、入所施設がないため、入所が必要な状況となった場合は他の圏域

で探す必要があります。また、小学生から利用できる短期入所と日中一時はそれぞれ

1か所となります。また、両親が働いておられる家庭が多く、通所系サービスについて

は、土曜のニーズも一定数あります。

事業所は、年々増加傾向ですが、自傷、他害のある児童、医療的ケアが必要な児童、重度心身障害児の受け入れが可能な放課後等デイサービスはあまり増加せず、他の福祉サービスにおいても限られています。事業所での受け入れが進むような整備・体制・強化の取組が必要です。

障害者相談支援事業については、契約件数は年々増加しています。相談支援計画書の作成に加えて、ライフステージの移行による相談、学校の長期休みでの必要なサービス調整やそれに伴う相談支援計画の作成、日々の家庭、学校での学習や友達関係、医療など、ご家族からの相談が多く、相談支援専門員の負担はさらに増しています。同事業についても整備・体制・強化の取組が必要です。

(6) 山城北圏域

① 障害福祉計画における課題

この圏域は、全市域で自立支援協議会（以下「協議会」という。）が設置され、また町域でも順次、設置が進み、協議会未設置は1町となっています。今後、残る1町の協議会設置と各々の市町でニーズや資源数が大きく異なる地域事情を踏まえ、市町協議会と圏域協議会が相互に連携し、福祉課題の抽出、対応の検討を進めていくことが必要です。

施設入所、入院の地域資源としては、療養介護を実施している南京都病院の他、施設入所支援の事業所が12箇所、精神科病院が3箇所あります。入所施設等から地域移行を進めるために大きな役割を持つ、グループホーム等の地域資源は増加してきているものの、さらなる充実が必要です。また、併せて人材の確保や質の向上も課題です。

医療的ケアが必要な方や重度心身障害の方の緊急時の受入体制として、福祉型短期

にゅうしょ れすぱいと にゅういん かつようとう かんが かんごし しえんいん じんざい
入所 やレスパイト入院 の活用等が考えられますが、看護師や支援員をはじめとする人材
かくほ しんこく かだい あわ せんもんてき けいかくてき けんしゅう じっし など じんざい
確保が深刻な課題となっています。また、併せて専門的、計画的な研修 の実施等、人材
いくせい ひつよう
育成も必要です。

せいしんしょうがい かた ちいき そうき しゃかいふつき じりつ めざ あんしん
精神障害 の方についても、地域での早期の社会復帰、自立を目指すとともに、安心・
あんぜん せいかつ けいぞく せいしんしょうがい たいおう ちいき ほうかけあしすてむ こうちく
安全な生活が継続できるよう「精神障害 にも対応した地域包括ケアシステム」の構築
もと しすてむ こうちく む しちょう かんけいきかん とう れんけい かだい
が求められていることから、システム構築に向け、市町や関係機関等と連携しながら課題
けんとう おこな ひつよう しえんしゃ しつ こうじょう もくてき けんしゅうかい じれい
検討を行うことが必要です。また、支援者の質の向上 を目的とした研修会 や事例
けんとうかいとう じっし しちょう そうだんしえん たいせい きょうか ほか ひつよう
検討会 等を実施し、市町の相談支援体制の強化を図っていく必要があります。

② 障害児福祉計画における課題

けんいき いりょうてきけあじ しゃ しえん やく めい いりょうてきけあじ とう
圏域では、医療的ケア児・者を支援するため、これまで約70名が「医療的ケア児等
こーでいねーたー ようせいけんしゅう じゅこう じっさい けーす たいおう あ
コーディネーター」の養成研修 を受講していますが、実際のケース対応に当たっての
やくわり めいかくか かだい
「役割の明確化」が課題となっています。

いりょうてきけあじ じゅうどしんしんしょうがいじ しえん じどうはったつしえんじぎょうしょ
また、医療的ケア児や重度心身障害児 への支援として、児童発達支援事業所や
ほうかごとう でいさーびす かぞく れすぱいと きゆう かくほ たんき にゅうしょ れすぱいと にゅういん
放課後等デイサービス、家族のレスパイト機能を確保する短期入所 やレスパイト入院
かのう いりょうしせつ とう うけいれたいせい せいび ひつよう
が可能な医療施設等の受入体制の整備がさらに必要です。

はったつしょうがい じどう しえん なんぶ ちいき はったつしょうがいじしえん きょてん きょうと
発達障害 のある児童への支援では、南部地域の「発達障害児支援拠点」である京都
ふりつ はったつしえん せんたー ふく じどう はったつしえん せんたー せっち
府立こども発達支援センターを含めて3つの児童発達支援センターが設置されています。
がくれいじ しえん にな ほうかご とうでいさーびす じぎょうしょ しんき かいせつ ぞうか なか
学齢児への支援を担う放課後等デイサービス事業所 の新規開設が増加している中、
かくじぎょうしょ しょうがいふくし きーびす しつ こうじょう りょういく しつ たんぼ む
各事業所 における障害 福祉サービスの質の向上 や療育 の質の担保に向けたさらなる
とりく ひつよう
取組みが必要です。

(7) 山城南圏域

① 障害福祉計画における課題

この圏域では、相楽地域の東部と西部で特徴が大きく異なり、人口減少と少子高齢化が進む東部地域に比べ、けいほんな学研都市のある西部地域では人口が増加し、若い世代の転入も多く見られます。それに伴い障害のある人も増加し、特別支援学校卒業生等の新たな福祉サービスの利用も見込まれるため、居宅系、日中活動系等のサービス提供体制の計画的な整備が必要です。特に重度の障害がある人に対応する生活介護などの介護系サービスへのニーズも高まっています。

また、介護の施設から地域への移行が推進される一方、親世代の高齢化の追尾により、親亡き後の支援体制の整備が必要となっており、圏域内でもグループホーム等の居住系サービスや、圏域における地域生活支援拠点の整備が求められることから、3障害に対応できる面的整備が行えるよう、各市町村や自立支援協議会の場において、協議を進めていくことが必要です。

就労支援については、障害のある人が自立し、自分らしく社会参加できる共生社会を実現するため、就労や体験の場の確保が重要であり、福祉的就労から一般就労への移行が求められているところです。この圏域における障害者自立支援協議会では、従来から商工会等の総合経済団体や企業等と連携して障害のある人の雇用に向けた企業との交流や、一般就労へ向けた見学会・研修会等を開催しています。また、福祉的就労についても、就労継続支援事業所等において施設外就労の委託先や下請け受注等の開発に努め、販路開拓などについても取り組んでいるところです。

精神障害者の支援については、精神障害を包括的に支えられるシステムの構築に向けた取組を進めていますが、圏域内には、精神科医療機関や精神障害にも対応可能な人的・物的資源が不足していることから、計画的な支援体制の整備を図っていくことが必要

です。しかしながら、入所施設や精神科病床等の整備についてはまだまだ時間を要することから、この圏域の障害者自立支援協議会や市町村、相談支援事業所等との支援ネットワークの構築・強化を図り、他圏域の医療機関や人的・物的資源との連携を進めていくことが必要です。

② 障害児福祉計画における課題

障害のある児童を取り巻く福祉サービスについては、就学前の療育、就学後の放課後支援のニーズが高まっていることから、自立支援協議会の発達支援部会や特別支援連携協議会、各市町村や児童発達支援事業所等において、医療・保健・教育・福祉等の連携及び支援体制の構築や研修会の実施、ペアレント・トレーニングやティーチャートレーニング、支援ファイルの普及推進等に取り組んでいるところであり、引き続き、ライフステージを通じた切れ目のない支援を進めていくことが必要です。

また、当圏域では医療的ケア児に対応できる短期入所、レスパイト入院先、重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所等が不足していることから、圏域の自立支援協議会に医療的ケア部会や母子保健事業における医療、教育、保育、福祉等の他機関と連携し、今後も更なる支援体制の整備を進めていくことが必要です。

(8) 課題のまとめ

① 障害福祉計画における課題のまとめ

各圏域の課題をまとめると次のような項目に取りまとめることができます。

項目	課題
<p>高齢化・過疎化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化する障害のある人への支援体制の整備 ・親世代の高齢化、親亡き後の支援体制の整備
<p>地域移行や生活支援を支える各種障害福祉サービスの基盤の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住居系施設（グループホーム等）ハード整備 ・相談支援体制の強化 ・精神障害のある人等にも対応した地域包括ケアシステムの構築 ・事業所の基盤整備、他圏域も含めた連携、相談支援体制の充実 ・緊急時の受入体制の整備・充実
<p>就労支援・工賃向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者就労に対する企業の理解促進、啓発 ・就労後の職場定着支援 ・製品の付加価値向上、商品開発、販路拡大
<p>社会への啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会への地域の理解促進・普及啓発
<p>人材の確保・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人材確保や育成 ・研修機会の充実
<p>災害時対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所等の整備 ・地域住民による支援

② 障害児福祉計画における課題のまとめ

各圏域の課題をまとめると次のような項目に取りまとめることができます。

こ う も く 項 目	か だ い 課 題
<p>しょうがいじしえんたいせい せいび 障害児支援体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> はったつしょうがい そうき ほっけん そうき しえん たいせい せいび ・発達障害 の早期発見 ・早期支援ができる体制の整備や かんけいきかん れんけい 関係機関の連携 そうだんしえん たいせい せいび たいせいきょうか ・相談支援体制の整備・体制強化 しえん ふあいる ゆうこうてき かつよう ・支援ファイルの有効的な活用 じどう はったつしえん センター せいび ・児童発達支援センターの整備 いりょうてきけあじ かんきょうせいび いりょう ほけん きょういく ふくし ぶんや ・医療的ケア児の環境 整備 (医療、保健、教育、福祉分野 の連携) たんき にゅうしょ にっちゅうかつどう ば かくじゅう ・短期入所、日中 活動の場の拡充 じどう はったつしえん にっちゅういちじ しえん ほいくじょ-とうほうもん じゅうじつ ・児童発達支援、日中 一時支援、保育所等訪問の充実 いりょうてきけあじ たいおうじぎょうしょ れすぱいと にゅういんさきふそく ・医療的ケア児対応事業所、レスパイト入院先 不足 さいがいじ きんきゅうじ たいおう ・災害時・緊急 時の対応
<p>しゅうがくき しえん 就学期における支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ほうかご とうでいきーびす じぎょうしょ かくじゅう しつ こうじょう ・放課後等デイサービス事業所の拡充 ・質の向上 そつぎょうご しゅうろうしえん ・卒業後の就労 支援 しょうちゅうこう き め しえん ・小中高 での切れ目のない支援 とくべつしえん がつきゅうつうきゅうじ ほうかご じどう くらぶ などうけいれさき ・特別支援学級通級児 の 放課後児童クラブ等受入先 の 拡充 いりょうてきけあじ つうがくしえん せいび ・医療的ケア児の通学支援の整備

3 圏域の課題等を受けての施策の方向性

各圏域の課題整理等を踏まえた施策の方向性を次のとおり設定します。

(1) 高齢化・過疎化について

今後ますます高齢化が進むなか、障害のある人への支援体制について高齢担当部局との連携を行いつつ、地域の受け入れ等、確実な支援を行えるよう取り組むとともに、親世代の高齢化、いわゆる「親亡き後」の障害のある人の支援について、権利擁護をはじめとした各種サービスの充実 に努めます。

(2) 地域移行や生活支援を支える各種障害福祉サービスの基盤の整備について

地域移行を進めるためには、住居系施設（グループホーム等）といったハード整備等が重要 となってくることから、誘致や呼びかけを積極的に行い、基盤の拡充が行えるよう取り組めます。

また、障害のある人の日々の課題に対応できる相談支援の強化に努めます。

併せて、緊急時にスムーズに受け入れることのできる体制の整備として、地域生活支援拠点等の取組も進めていきます。

(3) 就労支援・工賃向上について

今後ますます、障害のある人の就労について適切な配慮や理解が求められることから、引き続き、府内の企業に対し、障害者理解を呼びかけていきます。

また、農福連携の取組をとおして、就労機会の拡充や、工賃向上といった様々な施策を展開していきます。

(4) 社会への啓発について

しょうがい ひと ひと ちいき にな て ちいき あんしん く きょうせいしゃかい じつげん
障害のある人もない人も地域の担い手となり地域で安心して暮らせる共生社会を実現
するためには、しょうがいとくせい ごうりてき はいりよ ていきょう りかい そくしん じゅうよう ひ つづ
障害特性や合理的配慮の提供についての理解促進が重要であり、引き続き
ふきゅうけいはつ と く
普及啓発に取り組みます。

(5) 人材の確保・育成について

じんざい かくほ いくせい
人材育成の要となる研修の回数の増加や府北部での開催機会の検討など、研修機会の
じんざいいくせい かなめ けんしゅう かいすう ぞうか ふ ほくぶ かいさいかい けんとう けんしゅうかい
人材育成の要となる研修の回数の増加や府北部での開催機会の検討など、研修機会の
かくほ おこな じりつ しえんきょうぎかい じんざいいくせいぶかい かつよう けんいきごと じんざいいくせい とりくみ
確保を行うとともに、自立支援協議会人材育成部会も活用した圏域毎の人材育成の取組を
すす
進めていきます。

(6) 障害児支援体制の整備について

しょうがいじしえん たいせい せいび
療育施設や保育所の整備、日中活動の場の拡充など、ニーズに応じたサービス体制の
りょういくしせつ ほいくじよ せいび にちちゅうかつどう ば かくじゅう にーず おう きーびす たいせい
療育施設や保育所の整備、日中活動の場の拡充など、ニーズに応じたサービス体制の
かくじゅう いらりうてきけあ ひつよう じどう たい そうき たいおう しえん たいせい
拡充をはかるとともに、医療的ケアの必要な児童に対して、早期の対応ができる支援体制の
こうちく かんけいきかん れんけい とりくみ すす
構築や関係機関との連携がとれるよう取組を進めます。

(7) 就学期における支援について

しゅうがくき しえん
就学前から高等学校卒業までの期間を通じて、切れ目のない支援を行えるよう、課題
しゅうがくまえ こうとうがっこうそつぎょう きかん つう き め しえん おこな かだい
就学前から高等学校卒業までの期間を通じて、切れ目のない支援を行えるよう、課題
きょうゆう かんけいきかん れんけい たいせいせいび と く
共有や関係機関と連携できる体制整備に取り組みます。

第4章 各年度の障害者支援施設及び障害児入所施設の必要入所定員総数

れいわ ねんど かくねんど しょうがいしゃしえん しせつ およ しょうがいじにゆうしよしせつ ひつようにゆうしよ
令和8年度までの各年度における障害者支援施設及び障害児入所施設等の必要入所

ていいんそうすう つぎ せってい しちょうそん かんけいしせつ およ じぎょうしよ れんけい
定員総数について、次のとおり設定することとし、市町村や関係施設及び事業所と連携を

ほか ちいき じつじょう にーず おう せいび すす
図りつつ、地域の実情・ニーズに応じた整備を進めていきます。

1 障害者 支援施設

障害者 支援施設について、次のとおり必要入所 定員総数を設定することとします。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
必要入所定員総数	2,383人分	2,383人分	2,383人分

(参考) 令和4年度末定員数 : 2,433人分

施設の改築・改修に当たっては、施設の空き定員や真に利用が必要な者の状況も考慮し、地域のニーズに応じた小規模化を含む定員の見直しに向けて調整します。

また、この定員総数と福祉施設入所者の目標数の差分はレスパイト(家族による

一時的ケアを代替してリフレッシュしてもらうこと)等を目的とした短期入所等とし

て活用を図ります。

2 障害児入所施設

障害児入所施設について、次のとおり必要入所 定員総数を設定することとします。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
必要入所定員総数	125人分	125人分	125人分

だい しょう ちいき せいかつしえん じぎょう じっし 第5章 地域生活支援事業の実施

せんもんせい たか そうだんしえん じぎょう 1 専門性の高い相談支援事業

- 発達障害者支援センターはばたきは、発達障害者圏域支援センターを束ねる専門機関として、困難ケースへのスーパーバイズ等を担うとともに、発達障害者圏域支援センター（府内6箇所）は、地域の中核的な支援機関として、圏域内のネットワークを作り、相談支援事業所等の支援を行うため、地域支援マネージャーを配置し、市町村・保育所等子育て支援機関・障害福祉サービス事業所等への指導・助言、各種支援により、人材育成や地域支援体制の整備を行います。
- また、発達障害児支援拠点（府内3箇所）において、学齢期の児童を中心とした相談支援を行うとともに、教育機関との連携強化を一層促進します。
- 高次脳機能障害のある人に対し、京都府リハビリテーション支援センターなどの支援拠点における相談支援を継続して実施するとともに、自立した生活と社会参画を目標としたリハビリテーション支援等が提供できるよう市町村や医療機関、障害福祉サービス事業者等への研修会の開催やパンフレットの配布等、普及・啓発に努めます。また、支援機関相互の連携会議の開催や就労移行支援、地域活動支援センター等の活用など、地域における高次脳機能障害のある人への地域リハビリテーション支援体制の充実を図ります。
- 強度行動障害がある人に関して、各市町村又は圏域において支援ニーズを把握します。また、強度行動障害について高度な専門性により地域を支援する広域的支援人材を配置し、医療・保健・福祉・教育等の分野を超えた地域の支援者間の連携・情報共有・ネットワーク構築による地域支援体制の整備を進めます。

2 意思疎通支援を行う者の養成・派遣等事業

意思疎通が困難な方への支援、社会参加を促進するため、意思疎通支援者の養成、派遣を推進するとともに、ICTなどの様々な技術を活用し、障害のある人の情報保障により資するよう、取組を進めていきます。

3 広域的な支援事業

- 各障害 保健福祉圏域に障害者 自立支援協議会を設置し、就労 支援や医療的ケア、精神障害、発達障害などの各専門部会を置いて、ゼネラルケアマネージャーを中心とする関係機関等とのネットワークを構築し、困難事例等への広域的な対応を図ります。
- 「京都府障害者 自立支援協議会」を設置するとともに、市町村を越えた広域調整を担う組織として各障害 保健福祉圏域に「圏域障害者 自立支援協議会」を設置し、府障害 福祉計画の進行管理及び府全体の相談支援体制の構築に向けて取組を進めます。
- 相談支援事業者 への専門的指導や人材育成、障害のある人等からの相談対応を総合的にを行い、地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置していない市町村に設置を促すため、圏域の障害者 自立支援協議会等による支援により、関係機関の連携の緊密化や地域の実情に応じた体制整備を図ります。

4 サービス・相談支援者・指導者育成事業

障害 福祉サービスや相談支援が円滑に実施されるよう、サービス等の提供を行う方やサービス等提供者に対して必要な指導を行う指導者を育成、サービス等の質の向上を図ります。

ぐたいてき しょうがいしえん くぶん にんてい たずさ かた そうだんしえん じゅうじしゃ さーびす かんり せきにしや じどう はったつ
具体的には、障害 支援区分認定に携わる方、相談支援従事者、サービス管理責任者、児童発達

しえん かんり せきにしや きょたくかいご じゅうぎょうしやなど しんたいしょうがいしや ちてき しょうがいしやそうだんいん おんせいきのう しょうがいしや
支援管理責任者、居宅介護従業者等、身体障害者・知的障害者 相談員、音声機能障害者

はっせいくんれんしどうしや とう いくせい ちいき じつじょう かんあん と く
発声訓練指導者等の育成について、地域の実情などを勘案しながら取り組みます。

5 任意事業・地域生活支援促進事業等

かか じぎょう くわ ふない しちょうそん れんけい こういきてき かんてん にちじょう
1～4に掲げた事業に加えて、府内市町村と連携をとりつつ、広域的な観点から、日常

せいかつしえん かん じぎょう しゃかいさんか じつげん しえん かん じぎょう しゅうぎょう しゅうろうしえん かん
生活支援に関する事業や社会参加を実現する支援に関する事業、就業・就労支援に関する

じぎょうとう じっし しょうがい ひと じりつ せいかつ じつげん と く
事業等を実施し、障害のある人の自立した生活の実現に取り組みます。

第6章 障害 福祉サービス等の人材確保及びサービスの質の向上 の取組

1 人材の養成・確保

障害 福祉サービス等が円滑に実施されるよう、実務経験等を踏まえ、現場においてサービスが提供できる人材を養成し、質の向上を図るとともに、必要数が増加している福祉的人材の確保等の取組を一層推進します。

- 障害のある人が個々のニーズや実態に応じて、自らの選択・決定により必要なサービスを受けられるよう、質の高い相談支援やサービス等利用計画の適切な作成等ができる相談支援従事者等や個別支援計画の適切な作成ができるサービス提供に係る責任者を確保するとともに、計画作成のスキルの向上等、相談支援に携わる者に必要な技術を習得できるよう養成を行います。

また、強度行動障害がある人に対する行動援護や高次脳機能障害のある人に対するリハビリテーション等の適切な支援を行える者を養成します。

- 障害のある人が地域で安心して暮らせるために、精神に障害のある人、聴覚や視覚に障害のある人、知的障害のある人など障害特性に応じたヘルパーやボランティアなどの人材の養成・確保を図ります。

特に地域の市民人材の活用を行い、人材確保を図るとともに、研修を充実させ、質の高い人材の養成に努めます。

- 障害のある人の地域生活を支えるため、視覚に障害のある人のための同行援護従事者や点訳奉仕員、朗読奉仕員等の養成事業の充実を図るなど、人材の養成・確保に努めます。
- また、聞こえのサポーターを養成し、聴覚に障害のある人への理解促進を図るとともに、

しゅわつう やくしやとうようせいじぎょう さんか うなが
手話通訳者等養成事業への参加を促します。

また、だいどく だいひつじぎょう しょうがいふくし さーびす ちいき せいかつしえん じぎょう じっし
また、代読、代筆事業が障害 福祉サービス・地域生活支援事業において実施されるよう
つと
努めます。

- せいしんしょうがい ひと ちいき せいかつ しえん しえん ぶろぐらむ しゅうとく こべつ ほうもん
精神障害のある人の地域生活を支援するため、支援プログラムを習得し、個別訪問によ
り精神障害のある人を支える家族に本人への対応方法等を助言・指導できる人材を
ひ つづ ようせい
引き続き養成します。

- きかん そうだんしえん せんたー じどう はったつしえん せんたー ちいき きよてん しどうてき やくわり
基幹相談支援センターや児童発達支援センターなどの地域の拠点において指導的な役割を
にな かつやく じんざい いりょうてきけあじ はったつしょうがい しょうがいとくせい おう せんもんぶんや
担って活躍できる人材や、医療的ケア児や発達障害など、障害特性に応じた専門分野に
たいおう じんざい いくせいかくほ つと
対応できる人材の育成確保に努めます。

- 「きょうと ふくし じんざいいくせいにんしょうせいど わかもどう じんざいいくせい ていちゃく と く じぎょうしょ
「きょうと福祉人材育成認証制度」により、若者等の人材育成と定着に取り組む事業所
を認証し、その取組を支援・促進するとともに、先進的な取り組みを進める法人に対して
じょういになんしょう とりくみ すいしょう
は上位認証として、さらなる取組を推奨します。

- ふ ほくぶ ちいき ふくし じんざい ようせい かくほ およ げんにんしよくいん ししつ こうじょうとう はか
府北部地域における福祉人材の養成・確保及び現任職員 の資質向上等を図るために
しちょうそん ふ れんけい きょうりよく こうちく きょうとふ ほくぶ ふくし じんざいようせいしすてむ すいしん ふ
市町村と府が連携・協力して構築した「京都府北部福祉人材養成システム」を推進し、府
ほくぶ ちいき ふくし じんざい かくほ ていちゃく ささ ちいき あんしん こうすいじゆん さーびす
北部地域において福祉人材の確保・定着を支え、どの地域でも安心して、高水準のサービス
う
が受けられるよう取組を進めます。

- けんしゅう おこな こうし ふあしりてーた どう じんざい かくほ たいせい こうちく
研修を行うことのできる講師やファシリテータ等の人材を確保する体制の構築により、
しよくいん しつ こうじょう じぞくてき いじ つと
職員 の質の向上の持続的な維持に努めます。

2 サービスの質の向上等

障害 福祉サービス等の質の向上を図るため、サービスを提供する職員への研修、事業者に対する適切な苦情解決の推進、第三者評価及び障害 福祉サービス等の情報の公表制度の適切な実施等に努めます。

- 障害 福祉サービス等が円滑に実施されるよう、サービスを提供する事業者の指導・監督を適切に行うとともに、介護職員による喀痰吸引等の医療的ケアに関する研修、ヘルパーの養成研修、相談支援従事者の養成・確保を推進する研修など、サービス提供人材の確保と質の向上を図ります。

- 福祉サービスに関する利用者等からの苦情を適切に解決するため、事業者における適切な苦情解決の促進を図るとともに、事業者段階では解決の困難な苦情については、公正・中立な第三者機関である運営適正化委員会により、福祉サービスに関する苦情解決の体制整備とその適性な運用を図ります。

- 京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構によるサービス提供事業者の第三者評価を促進し、サービス提供事業者の組織運営及びサービス提供内容等の透明性を高めるとともに、サービスの質の向上・改善の支援と、障害 福祉サービス等の情報の公表制度の運用を通じて利用者の適切なサービスの選択を支援します。

第7章 計画の達成状況の点検及び評価

本計画に盛り込んだ事項について、定期的に調査、分析を行い、各年度において、「京都府障害者

施策推進協議会（京都府障害者自立支援協議会）」をはじめとした関係機関に対して、本計画の

達成状況等の報告を行うこととし、サービス基盤整備の状況等の点検及び評価を行います。

また、これらの状況、関連施策等の動向を踏まえつつ、必要があると認めるときは、本計画

を変更すること、その他計画達成のための対策を講じます。また、その結果について、ホームページ

等に公表します。

第8章 計画の成果目標の設定

サービス等の提供体制の確保に係る目標として、国の指針に則して成果目標を設定する

とともに京都府独自の目標も設定します。

1 福祉施設入所者の地域生活への移行

令和4年度末時点における福祉施設入所者のうち、令和8年度末までに、150人以上の

方がグループホーム等で生活することを引き続き目指し、令和8年度末の福祉施設入所者数の

目標を2,220人とします。

(参考) 令和4年度末の福祉施設入所者数：2,336人

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

(1) 障害保健福祉圏域ごとの保健、医療、福祉関係者による協議の場の設置

圏域ごとに設置した保健、医療、福祉の協議の場について市町村にも設置を促すととも

に、市町村や市町村設置の協議の場と連携して、圏域の課題等に取り組みます。

(2) **精神病床 から退院後1年以内の地域における平均生活日数**

令和8年度末の精神病床 から退院後1年以内の地域における平均生活日数を、次のとおり設定し、地域移行を促進していきます。

精神病床 から退院後1年以内の地域における平均生活日数：325.3日以上

(3) **精神病床 における1年以上の長期入院 患者**

令和8年度末の精神病床 における1年以上長期入院 患者数を、次のとおり設定し、地域移行を促進していきます。

精神病床 における1年以上長期入院 患者数：2,196人

(4) **精神科病床 における退院率**

精神科病院 への入院者 について、次のとおり地域生活へ移行することを目指します。

① 令和8年度における入院 後3箇月時点の退院率：68.9% 以上

② 令和8年度における入院 後6箇月時点の退院率：84.5% 以上

③ 令和8年度における入院 後1年時点の退院率：91.0% 以上

(参考) 令和4年6月の1箇月間の入院患者数：622人

3 **地域生活支援の充実**

(1) **地域生活支援拠点等の設置**

地域生活支援拠点等について、早期の圏域または各市町村の設置を目指します。

(参考) 令和5年4月1日現在の地域生活支援拠点数：14拠点

(2) 強度行動障害がある人への支援体制の整備

強度行動障害がある人に関して、各市町村又は圏域において支援ニーズを把握し、支援

体制の整備を進めます。

地域生活支援拠点

障害のある人の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え原則として次のような機能を

備えた拠点のこと。

①相談 ②緊急時の受け入れ・対応 ③体験の機会・場 ④専門的人材の確保・養成

⑤地域の体制づくり

4 福祉施設から一般就労への移行

(1) 福祉施設から一般就労への移行

令和8年度における福祉施設から一般就労への移行者数について、令和3年度の移行

実績を上回る550人以上を目指します。

(参考) 令和3年度の移行実績：428人

(2) 就労移行支援事業による支援

令和8年度において、就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者

の割合が5割以上の事業所が、就労移行支援事業所の5割以上を目指します。

(3) 就労支援ネットワークの強化及び支援体制の構築

各地域において就労支援ネットワークの強化や関係機関の連携した支援体制を構築し、

一般就労への移行等を推進します。

(4) 就労 定着 支援事業による支援

就労 定着 支援事業においては、令和8年度における目標 を次のとおり設定します。

① 就労 定着 支援事業の利用者数：440人以上

② 就労 定着 支援事業利用終了後 一定期間の就労 定着率 が7割以上となる就労

定着 支援事業所の割合：2割5分以上

5 障害児 支援提供 体制の整備等

(1) 児童発達 支援センターの設置

重層的 な地域支援体制の構築に向け、令和8年度までに圏域または各市町村に児童発達

支援センターを設置することを目指し、設置を促します。

(2) 地域社会への参加・包容の推進体制の構築

障害児の地域社会への参加・包容（インクルージョン）推進体制の構築に向け、令和8年度

までに全市町村で取り組むよう促します。

(3) 難聴児 支援のための計画策定及び中核的 機能を有する体制の構築

難聴児の早期発見・早期療育を総合的に推進するための計画は、本計画に盛り込むことと

し、難聴児 支援のための早期発見・早期療育を総合的に推進するため、市町村、児童発達

支援センター、特別支援学校等と連携した中核的 機能を果たす体制の確保を進め、新生児

聴覚 スクリーニング検査から療育につなげる体制整備のための協議の場の設置や療育を

遅滞なく実施するための体制整備、難聴児及びその家族への切れ目のない支援の充実を

図ります。

(4) 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保

重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所について、令和8年度までに各市町村又は圏域に確保できるよう、事業所の整備を促します。

(5) 医療的ケア児支援のためのコーディネーターの配置等

引き続き、京都府医療的ケア児等支援センター（愛称「ことのわ」）において、府域単位の協議の場を設けるとともに、圏域単位、市町村単位でも、医療的ケア児の支援のため、保険、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設け、令和8年度までに、地域の医療的ケア児等のニーズを勘案し、医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの圏域又は市町村への配置を促します。

(6) 障害児入所施設からの移行調整に係る協議の場の設置

障害児入所施設に入所している児童が18歳以降、大人にふさわしい環境へ円滑に移行できるように、地域に状況やニーズにより必要がある場合は、令和8年度までに移行調整に係る協議の場を設けます。

(7) 相談支援体制の充実・強化等

圏域の自立支援協議会等における個別事例の検討を通じて、地域サービス基盤の開発・改善等に取り組むとともに、基幹相談支援センターを設置していない市町村に設置を促すため、協議会等による支援により、関係機関の連携の緊密化や地域の実情に応じた体制整備を図ります。

6 京都府の取組について

(1) 京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例

普及・啓発について

「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり

条例」について、パンフレットや事例集の作成・配布をはじめとした普及・啓発活動を

さらに強化し、広く府民に理解を促します。

京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例

①不利益取扱いの禁止 ②社会的障壁の除去のための合理的な配慮 ③相談体制の設置

④不利益取扱いに関する助言、あっせん ⑤共生社会の実現に向けた施策の推進等を

掲げ、障害のある人もない人も、全ての府民が、障害の有無によって分け隔てられること

なく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、共に安心していきいきと暮らせる共生

社会の実現を目指し条例として施行。

(2) ヘルプマークの普及啓発について

「ヘルプマーク」について、広く府民に理解を促すため、関係行政機関・教育機関・公共

機関等に呼びかけ、普及・啓発活動をさらに強化します。

(3) 京都式農福連携の取組について

本府において担い手の減少が進む農業分野と、障害のある人等の働く場の確保を

求める福祉分野の連携を行う農福連携に取り組んでおり、農福連携を軸に障害のある人を

はじめ地域の多種多世代の人々が地域の「担い手」となる地域共生社会づくりを推進します。

令和8年度までの農福連携事業所の工賃(賃金)支払総額：2.3億円

のうふくれんけいきやりあぼす せいど
農福連携キャリアパス制度

しょうがい ひと のうぎょう かん ちしき ぎのう にんしょう かたち ひょうか み か
障害のある人の農業に関する知識技能を認証 という形で評価し、見える化すること
より、ほんにん いよく こうじょう しゅうろう きょうとふどくじ せいど ぎのう おう だんかい にんしょう
より、本人の意欲向上や就労につなげる京都府独自の制度。技能に応じ段階をわけた認証
じっし
を実施する。

べつびょう きょうとふ しょうがいしゃきほん けいかくかんれんせいか もくひょう
(別表) 京都府障害者 基本計画 関連成果目標

せさくこうもく 施策項目	げんじょう ちよつきん あたい 現状 (直近の値)	もくひょう 目標
ふくし しせつ ちいき せいかつ いこう 福祉施設から地域生活への移行	56人 (令和3年度～令和4年度(累計))	140人以上 (令和6年度～令和8年度(累計))
せいしんびょうしょう たいいんご ねんいない ちいき 精神病床 から退院後1年以内の地域に へいきんせいかつにつう おける平均生活日数	325日 (令和4年度)	325.3日以上 (令和8年度)
せいしんびょうしょう ねんいじょうちようきにゆういん 精神病床 における 1年以上長期入院 かんじゃすう 患者数	2,388人 (令和4年度)	2,114人 (令和8年度)
にゆういんちゆう せいしんしょうがいしゃ ちいき せいかつ 入院中の精神障害者の地域生活への いこう にゆういん かげつ じてん たいいんりつ 移行 (入院3ヶ月時点の退院率)	55.0% (令和4年度)	68.9%以上 (令和8年度)
にゆういんちゆう せいしんしょうがいしゃ ちいき せいかつ 入院中の精神障害者の地域生活への いこう にゆういん かげつ じてん たいいんりつ 移行 (入院6ヶ月時点の退院率)	80.4% (令和4年度)	84.5%以上 (令和8年度)
にゆういんちゆう せいしんしょうがいしゃ ちいき せいかつ 入院中の精神障害者の地域生活への いこう にゆういんご ねんじてん たいいんりつ 移行 (入院後1年時点の退院率)	87.8% (令和4年度)	91.0%以上 (令和8年度)
ふくし しせつ いっぱんしゅうろう いこう 福祉施設から一般就労への移行	405人 (令和4年度)	540人以上 (令和8年度)
しゅうろういこうりつ わりいじょう しゅうろういこう しえん 就労移行率が5割以上の就労移行支援 じぎょうしよ わりあい 事業所の割合	—	5割以上 (令和8年度)
しゅうろうていちゃくしえん じぎょう りようしゃすう 就労定着支援事業の利用者数	—	440人以上 (令和8年度)
しゅうろうていちゃくりつ わりいじょう しゅうろう 就労定着率が7割以上となる就労 ていちゃくしえん じぎょうしよ わりあい 定着支援事業所の割合	—	2割5分以上 (令和8年度)

せさくこうもく 施策項目	げんじょう ちよつきん あたい 現状 (直近の値)	もくひょう 目標
のうふくれんけいじぎょうしよ こうちん ちんぎん しはらいそうがく 農福連携事業所の工賃(賃金)支払総額	200,485千円(令和4年度)	しはらいそうがく せんえん 支払総額 230,000 千円 れいわ ねんど (令和8年度)
にっちゅうかつどう ば ていきょう 日中活動の場の提供 せいかつかいご じりつ くんれん しゅうろうしえん とう (生活介護、自立訓練、就労支援等)	19,017人分(令和4年度)	28,377人分(令和8年度)
しゅうろうくんれん ば ていきょう 就労訓練の場の提供 しゅうろういこう しえん しゅうろうけいぞくしえん (就労移行支援、就労継続支援)	9,388人分(令和4年度)	11,775人分(令和8年度)
ぐるーぷほーむ せいび グループホームの整備	2,352人分(令和4年度末)	3,014人分(令和8年度末)
きーびす とうりよう けいかくさくせいすう かげつ あ サービス等利用計画作成数(1ヶ月当たり)	8,747.4人(令和4年度)	10,050.0人(令和8年度)
ふ かんり どうろ ほどう せいび およ こうさてん かいりょう 府管理道路の歩道整備及び交差点改良 かんりようかしやすう 完了箇所数	21箇所(令和2年度～令和4年度(累計))	18箇所(年間3箇所) (令和6年度～令和11年度)
き さぼーたー ようせいこうぎ じゅこうしゃすう 聞こえのサポーター養成講座受講者数	1,616人(令和2年度～令和4年度(累計))	2,000人(令和6年度～令和11年度(累計))
にんちしょうさぼーたー ようせい 認知症サポーターの養成	319,905人(令和4年度)	353,891人(令和8年度)
しえん う こみゆにけーしょんや ひきこもり支援を受けてコミュニケーションや せいかつすきる かいぜん ひと わりあい 生活スキルなどが改善した人の割合	65.5%(令和4年度)	80%(令和8年度)
じさつ しぼうりつ じんこう まんにんあ じさつしゃすう 自殺死亡率(人口10万人当たり自殺者数)	14.6%(令和4年)	10.2%以下 (令和7年度)
いりょうがたたんき にゅうしりようしゃすう 医療型短期入所利用者数 のべりょうにん にっすう (延べ利用人数)	8,176人(令和4年度)	(集計中)人 (令和8年度)

せさくこうもく 施策項目	げんじょう ちよつきん あたい 現状 (直近の値)	もくひょう 目標
ふ ぼくぶ ちいき こうじ のうきのう しょうがいしゃ 府北部地域における高次脳機能障害者の しょうがいとくせい たいおう じりつ くんれんじぎょうしょう 障害特性に対応した自立訓練事業所等の かず 数	かしよ れいわ ねんど 0箇所 (令和4年度)	かしよ れいわ ねんど 3箇所 (令和11年度)
しょうがいしゃしえん しせつ およ しょうがいじにゆうしよしせつ 障害者支援施設及び障害児入所施設で ていきてき しか けんしんじっしりつ の定期的な歯科健診実施率	ぼーせんと れいわ ねんど 84.6 % (令和4年度)	ぼーせんと れいわ ねんど 90 % (令和11年度)
いりょうてきけあじ たい かんれんぶんや しえん 医療的ケア児に対する関連分野の支援を ちょうせい こーでいねーたー 調整するコーディネーター	にん れいわ ねんど 33人 (令和4年度)	しゅうけいちゅう にん (集計中)人 れいわ ねんど (令和8年度)
い にんちしょうたいおうりよくこうじょうけんしゅう かかりつけ医認知症対応力向上研修 しゅうりょうしゃ 修了者	にん れいわ ねんど 2,710人 (令和4年度)	にん れいわ ねんど 3,282人 (令和8年度)
にゅうようじけんこうかんり じゅうじしゃやくせいけんしゅうさんかしゃすう 乳幼児健康管理従事者育成研修参加者数	にん れいわ ねんど 1,034人 (令和4年度)	のべ にん れいわ ねんど 延べ1,200人 (令和6年度 れいわ ねん るいけい ~令和11年の(累計))
しょうにりはびりてーしょん たいおうきかんすう 小児リハビリテーション対応機関数	きかん れいわ ねんど 100機関 (令和4年度)	きかん れいわ ねんど 120機関 (令和11年度)
りはびりてーしょんさぽーとい ようせいすう リハビリテーションサポート医の養成数	にん れいわ ねんど 37人 (令和4年度)	にん れいわ ねんど 280人 (令和11年度)
ふない びょういん じゅうじ りはびりてーしょん 府内病院で従事するリハビリテーション せんもんしよく かず じんこう まんにんたい 専門職の数 (人口10万人対)	りがくりょうほうし にん 理学療法士 82.3人、 さぎょうりょうほうし にん 作業療法士 36.7人、 げんご ちょうかくし にん 言語聴覚士 14.5人 れいわ ねんど (令和2年度)	りがくりょうほうし にん 理学療法士 135.9人、 さぎょうりょうほうし にん 作業療法士 63.6人、 げんご ちょうかくし にん 言語聴覚士 22.8人 れいわ ねんど (令和11年度)
ふちょう しょうがいしゃこようりつ 府庁の障害者雇用率	ぼーせんと れいわ ねんど 2.60% (令和4年度)	ほうていこようりつ 法定雇用率
みんかんきぎょう しょうがいしゃこようりつ 民間企業の障害者雇用率	ぼーせんと れいわ ねんど 2.31 % (令和4年度)	ぼーせんと れいわ ねん れいわ 2.4 % (令和4年~令和)

せさくこうもく 施策項目	げんじょう ちよつきん あたい 現状 (直近の値)	もくひょう 目標
		ねんど 7年度)
ほうていこようりつ たっせいりつ 法定雇用率の達成率	% れいわ ねんど 52.1% (令和4年度)	ぼーせんと れいわ ねんど～れいわ 60% (令和4年度～令和 ねんど 7年度)
ふりつ とくべつしえん がっこうこうとうぶ そつぎょうせい 府立特別支援学校高等部卒業生の しゅうろうりつ 就労率	ぼーせんと れいわ ねんど 32.1% (令和4年度)	ぼーせんと (れいわ ねんど 30% (令和11年度)

なお、他計画に基づく成果目標については、当該計画の改定時において新たに目標値を設定する予定としています。